平成３０年３月ＮＨＫ中部地方放送番組審議会

３月のＮＨＫ中部地方放送番組審議会は、１５日(木)、ＮＨＫ名古屋放送局において、１０人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、前回の審議会での答申を受け「平成３０年度中部地方向け地域放送番組編集計画」を決定したこと、およびこれに基づいて策定した「平成３０年度中部地方向け地域放送番組編成計画」について報告があった。続いて、金とく「クイズバトル　７×７」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、今後の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	小澤　正俊	（大同特殊鋼（株）相談役）
副委員長	小寺　功子	（三重県漁協女性部連合会会長理事）
委　　員	井口　昭久	（愛知淑徳大学健康医療科学部教授）
	加藤　勇二	（愛知県農業協同組合中央会常務理事）
	清川　卓二	（清川メッキ工業（株）専務取締役）
	徳田　八十吉	（徳田八十吉陶房代表）
	中村　智景	（四季料亭「助六」女将）
	長谷川明子	（日本ビオトープ管理士会中部支部会長）
	東　　惠子	（東海大学海洋学部環境社会学科教授）
	真能　秀久	（中日新聞社取締役人事労務担当）

＜金とく「クイズバトル　７×７」（総合　３月２日(金)）について＞

○　司会の男性タレントのテンションは前回と同じく高かったが、大きすぎた生バンドのボリュームも適正になり、回答中の音楽を各県ごとに変えるなど、うまく生かされており、全体的に、前回放送より落ち着いて見ることができた。設問のＶＴＲは、名所など各地域の魅力が丁寧に紹介されていたことに加え、三宅民夫アナウンサーのナレーションはとても聞きやすかった。１問目の富山県は、たこの大きさに驚いた一方、富山県代表の出演者が不正解だったほか、視聴者の正解率も富山県が最下位だったため、富山県民はこれを知

らなかったのかと思い、少し残念な気持ちになった。また、静岡県で実施しているママチャリレースはこの番組で初めて知った。データ放送による視聴者の参加人数が、番組開始の 3,000 人前後から最終的に 1 万 3,518 人となったことは、番組を見ながら、徐々に参加してみようという気持ちになる内容だったからではないだろうか。若い世代向けにスマートフォンでの参加も可能だったが、５０代以上の人にはデータ放送のほうが参加しやすいと思う。設問ごとに各県からの参加率が違うのかなど、視聴者参加の状況についてもっと知りたかった。福井県代表のゲストの衣装については露出が多く、クイズ番組にはふさわしくないと思うし、もっと県の代表としての熱意を見せてほしかった。また、富山県代表のゲストは３回目の出演と聞き、なぜ変更しないのだろうと思った。

○　全体としては、生放送の娯楽番組として見ていて楽しく、回答に参加できるほか、各県の名所や歴史が分かるなど、よい番組だった。気になった点を順に挙げていくと、司会の岡田さんは、もう少し落ち着いて進行してほしかった。各県代表の出演者の演台は、県の形が分かるデザインだともっといいと思う。チェック柄だと目がちらちらするなど違和感があった。回答する時間は、出演者が無言で手を振ったりしながら生バンドの演奏があるだけだったので、もう少し工夫がほしい。参加者の中で全問正解者が１人いたとあったが、何県の人だったかは教えてもらえなかったので、ドラマの紹介をするより、この県では何割の人が何問正解したかなど、視聴者参加の結果をもっと知りたかった。また、同日放送の「ほっとイブニングぎふ」で岐阜県の設問になっていた小坂の景色や温泉が紹介されており、同じ日に同じ映像を２回見ることになったのは残念だった。答えが事前に分かってしまうことは避けてほしい。

（ＮＨＫ側）

「ほっとイブニングぎふ」で事前に紹介した件については、クイズの正解が分かってしまうことがないよう岐阜局と協議しリポートを制作してもらった。具体的には、クイズでの温泉を使った料理の正解はおかゆだったが、リポートでは天ぷらを主に紹介した。こちらとしては、クイズの出題ＶＴＲとリポートとは、異なった内容

にすみ分けて制作したつもりだったが、映像が重複している部分もあったためご指摘の印象になった可能性がある。今後、他番組と連携するときは留意していく。

○　小学生から老人まで、一家団らんの番組をＮＨＫがどう作るのだろうという視点で視聴した。出演者の人選は安心して見ることできる人が多く、ＮＨＫらしいと思ったが、全員のテンションがとても高く、クイズ番組にここまで必要なのかと思った。視聴後はいい番組だと思ったが、大人を楽しませる要素が足りないと感じた。ＮＨＫでかつて放送していた「週刊こどもニュース」などは、子ども向けの番組を装いつつ、大人を楽しませる要素があったことから、子どもから大人まで楽しく見ることができたと思う。若い人にテレビを見てもらうのは難しい時代だが、ＮＨＫならではの一家団らんで視聴できる番組づくりに挑戦していってほしい。

○　各県の代表を紹介していたが、知らない人がほとんどだった。出演者のコメントは表面的な思いつきの発言が多く、知識も不足している印象を受け、県単位の競争という点が欠けていたように感じた。大がかりなビッグバンドがバックで演奏するのは斬新なアイデアで、演奏も心地よいものだった。第１問の富山県のＶＴＲは、実際に大ダコ釣りに挑戦するところまでは、大ダコを見ることができるのではと期待感に胸が膨らんだ。結局釣果は上がらず、あっさりと海を諦めて水族館へ行ったのは残念だった。第２問の岐阜県では、下呂市の御嶽山の映像は幻想的、かつ迫力満点ですばらしい映像だったが、そこから何の説明もなく唐突に温泉に場面が変わるので違和感があった。温泉にアナウンサーが入っている演出はＮＨＫではめずらしく、新鮮だった。第３問の静岡県は、スーパーママチャリＧＰに挑戦する一家で一番遅いのは誰かという設問がおもしろかった。大会自体はインパクトに欠けるものだが、ほのぼのした印象を受けた。にぎやかしのようなギャグなど、肩の凝らない空騒ぎという印象を感じるシーンもあったが、各県のエピソードはおもしろく、見るべきものがあった。クイズ最強の県を決めながら、東海北陸７県の知られざる魅力を紹介するという目的は果たしていたと思う。

○　実際にクイズに参加しながら視聴し、全体としては番組後に行ってみたい、食べてみたいと思えたが、一部の地域では少し物足りない部分があった。福井県代表のゲストからは福井県をあまり知らない印象を受けた。福井県の問題に対する回答も勘で選ぶなど残念だった。県を代表する回答者であれば、もう少し福井県を知っている方に出場してほしい。また、各県に関連する問題が１問ずつ出題されたが、３０％前後の正解率の問題の次に、８０％近い簡単な問題が出題されるなど、問題の難易度にかなりの差があった。回答者や問題のバランスをもう少し整えると、最後までもっと楽しく視聴できると思う。参加した人の結果、各問題の正解率は出ていたが、何問中何問正解した人がどれくらいいたのか、自分の正解率は全国では何番目くらいだったかが分かるようにするともっとよかった。

○　テンションの高さと展開の速さについていくのが難しかった。最初は５０代女性が１人で見る番組だろうかと自問しながら視聴していたが、最後は、おもしろく明るい気持ちになることができる番組だった。クイズという形態をとりながらの地域の紹介はおもしろく、三重や岐阜などは、行ってみたいと思わせるものだった。昔は「連想ゲーム」などを家族と見ていたが、核家族化、生活時間の変化にともない、今はあまり家族で団らんしながらテレビを見ることが減っていると改めて感じた。

○　生演奏、カラフルなスタジオ、元気な司会者などを通して、盛り上がりやにぎやかさが演出され、各県代表の多彩なゲストの顔ぶれにより豪華なイメージを受けた。全体的に明るい、元気な印象を受ける中、司会の女性の衣装がオーソドックスなワンピースであり、もう少し周りの雰囲気と合わせ華やかにしてもよかったのではないか。７県のクイズを通じ地域が紹介される手法は興味深い。画面の左下にＱＲコードが提示され、番組途中からでも参加でき、視聴者の正解者数がポイントに加算される仕組みは、視聴者に参加を促し、番組に引き込まれる要素となりおもしろかった。地元である静岡でのクイズに期待感が募ると、富士スピードウエイで行われている「スーパーママチャリＧＰ」に１０年間出場している家族の取り組みであった。他県の絶景や食と比べると意外感があったが、家族で織りなすレースドラマは静岡らしさを感じた。東海北陸７県対抗クイズバトルになっていることに加え、イン

タラクティブな放送の可能性を実感する番組だった。

○　過去３回の放送を見てきたが、司会の男性タレントにはどうしても騒がしさを感じてしまう。回答者だったら上手く盛り上げてくれると思う。もう一人の司会の女性アナウンサーは随所でのフォローや、淡々と仕切っていく安定感がよかったが、他と比べ衣装がおとなしかった。男性タレントのインパクトが強いだけに、女性アナウンサーの印象が薄くなってしまったのももったいなかった。クイズの内容はおもしろく、三重県の象の岩など各県ともに本当に知らないことばかりだった。メジャーなものは民放でも取り上げているが、マイナーでありながら、各地のいい所を掘り起こしていくのはよかった。視聴者の正解率をポイントにする仕組みは各県ごとに人口に差がある中、フェアになるのでいいと思う。一方、ホームページで「予習問題」と題して「ひょっとしたら出題の傾向が分かるかも？」とクイズが紹介されていたが、実際の出題とは傾向も含め全く別のものだった。「練習」だったらいいが「予習」というのであれば１問くらいヒントになるような問題を入れてほしかった。例えば同じ問題で選択肢がちょっと違うという感じであれば「予習した。よかった」と思うが、全く違う問題だったので、取り組んだ人はがっかりしてしまうのではないか。もっとうまく連動してほしい。

（ＮＨＫ側）

ホームページの問題が予習ではないという指摘に関しては、ホームページ担当と共有する。

○　気になったこと、よかったことを挙げていくと、１つ目は、岐阜県出身のゲストが愛知県の回答者になっていたことだ。にぎやかしの立場なのだと思うが、愛知県出身の芸能人は多いと思うので、なぜなのかと思った。２つ目は、富山県のタコを釣り上げるシーンは必要だったのだろうか。最初から大ダコはどの頻度で釣れるのかと疑問に思っていたが、釣ることができず、最終的には水族館の巨大タコを紹介していた。３つ目は、クイズの地域間における難易度のばらつきだ。石川県の問題は、知らない人でもおおむね想像できる一方で、静岡のように勘でしか答えられないような問題まで、難易度に差がありすぎるのではないか。４つ目は尾鷲の象の背や岐阜の氷の滝など、各地

にまだ知らない絶景やいい所があるのだと知り自分も行ってみたいと思った。５つ目に、テレビをインターネットとつないで参加している人がどの程度いるのだろうか。割合としてはスマートフォンのほうが使い慣れているので多いと思うが、どんな割合なのだろうかと思った。最後に、この番組のＰＲはどのようにされていたのか。家族で楽しくというコンセプトだったが、家族参加型であることをどのようにＰＲされていたのかが気になった。全体としては、知らない名所やイベントを知ることができて有意義だったほか、勝負の結果が最後まで分からず、ハラハラしながら見続けられることができるなど、にぎやかな中にもいろいろな工夫がされていてよかったと思う。

○　東海北陸地方７県の絶景や食、祭りなど、色とりどりの紹介を通して、各地域の魅力や歴史がよく分かることに加え、視聴者が双方向でクイズを楽しめる番組は、他にあまりない趣向だったと思う。視聴者の参加数がおよそ１万3,000人もいたことは、想像以上に多く、平日にスマートフォンなどを使って自ら参加しようという視聴者がこれだけたくさんいるのだなと印象を受けた。番組を見るだけの時代から、視聴者の参加、双方向の放送形態に移行しつつあるのだと思った。２つ目に、東海北陸７県ごとに競わせる演出は、日本人の心を非常にくすぐるものだった。競争心をあおるとこれほど郷土意識が出るのかと思った。また、頻繁に各地の方言が紹介され、中には大変懐かしい言葉があるなど、意義深い内容だったと思う。どんな視聴者が参加していたのか、何に魅力を感じて参加しようと思ったのかなど、今回のデータで分析するのは難しいと思うが、今後の双方向による放送に向け必要なことだと思うので、引き続き研究していただきたい。

○　クイズの内容は知らないことが多く、楽しかった。出演者が場を盛り上げようとする姿勢はおもしろかったが、男性司会者が中部地方向けの番組で「全国の皆さん」と呼びかけていたのは気をつけてほしい。女性アナウンサーの進行や表情は、大変良かった。バンドの生演奏はすばらしかったので、もう少し見せ場があってもよかった。富山県の大だこが釣れず、まだらが釣れたシーンで、たこ用のさおや仕掛けから別のものに変わっていたこと、エンディング部分の別番組の宣伝などに、違和感があった。視聴者参加形式のクイズ番組として、参加方法の説明も分かりやすく、視聴者の回答の結果が順

位に影響を与えるなど、参加感のある楽しい番組だった。

（ＮＨＫ側）

複数の委員から指摘のあった参加者に関しては、3分の1が愛知県の方で、一番少なかったのが福井県で893人と県ごとに人数はばらつきがあった。参加いただいた視聴者の属性については、性別や年齢に関する情報を取っていないので難しいが、視聴データなどから分析し、今後につなげていきたい。セットに関しては、予算の関係もあり、初回から同じものを使っている。今後、放送する場合は県の形のデザインを入れるなどの工夫をしていきたい。番組の終わり方は、時間のこともあってバタバタした。1万3,518人の参加者の中で1人しか全問正解がいなかったことは紹介したが、どの県の方かには触れられなかった。またスタジオゲストでは、福井県代表のゲストの正解数が一番多かったが、個別のゲストが何問正解したかなども時間の関係で紹介できなかった。番組の終わり方、エンディングの部分については、今後の反省点と認識しており次回に生かしたい。出演者に関しては、県によって出身タレントの人数に差があるため、ブッキングに苦労した県があった。大ダコ釣りに挑戦した部分で紹介した釣りざおと仕掛けが、実際にマダラを釣り上げたときには違っていた点については、今回は3人の釣り人に挑戦して頂いたが、しかけを紹介した方と、釣り上げた方が違ったため。時間の関係で3人すべての仕掛けを紹介しきれなかったため今回の放送となった。制作していた時は気づかなかったが、釣りに詳しい方だとそこまで見られることも踏まえ、今後の番組作りを行っていきたい。

＜放送番組一般について＞

○　「東海北陸あさラジオ」を聴取した。地域の自然などを紹介するコーナー「お宝探し」が、この3月で終わると伺った。コーナーは終了しても、ＮＨＫとして地域の自然、生き物を伝えることができる番組も少ないと思うので、今後も伝える機会を設けていってほしい。

○　２月１８日(日)「ピョンチャンオリンピック」(総合 後 1:05～4:30) を視聴した。バイアスロン女子についてスタジオで足立梨花さんが解説していたが、彼女の解説は全体的に分かりやすいものだった。ただ、５０メートルを「新幹線２台分」と説明したのは秀逸だったが、その後にした「自分の身長にすると３１人分」という説明は、テロップ付きで仕込まれているものだったにも関わらず分かりづらかった。解説をもう少し吟味してもらったら、バイアスロンの難しさも伝わったのではないかと思ったので、少しもったいないと思った。

○　２月２６日(月)ＮＨＫスペシャル「金メダルへの道　逆境を乗り越えて」(総合 後 7:30～8:43) を視聴した。ピョンチャンオリンピックにおける日本人選手たちの競技に挑む姿、苦難を乗り越えて闘い抜いた選手たちにクローズアップしていた。特に開催前は出場も危ぶまれていたフィギュアスケートの羽生結弦選手のパートは、羽生選手とコーチのコメントから、本人の心境が浮き彫りになっていた。金メダルを取るという使命感や、金メダルを取るためのプログラムの話を通して、羽生選手の偉大さを改めて感じた。羽生選手以外にも原大智選手、渡部暁斗選手、カーリング女子の選手等々、出場までの苦労、努力は計り知れないものだったと思う。チャレンジする若者たちに勇気と希望を与えるような番組だった。競技後に、短期間でここまでの番組を作り上げられたことに敬意を表したい。

○　２月２６日(月)超絶　凄（すご）ワザ！「ＡＩ　ＶＳ．人類　３番勝負」を視聴した。企画として興味深く、示唆に富む番組だった。これまでＡＩを発展させてきた将棋、囲碁といったゲームは目的が明確で、客観的な正解や勝ち負けが存在したが、今回取り上げたファッションや俳句には、正解や勝ち負けがない。ファッションや俳句を通して、ＡＩは人間の感情にどこまで迫ることができるかという興味を抱かせると共に、芸術とは何かという課題を洞察させる、大変いい番組だった。

○　好きな番組だったが、最終回を迎えると聞き、残念に思いながら視聴した。感性、技術、経験と、好みを試されるＡＩと人類の対決は、とてもおもしろかった。ファッション対決は、冒険心をくすぐるプロの販売員と、好みを分

析してオーソドックスなスタイルを提案するＡＩとの対決という印象を受けた。将来的にはファッションさえもＡＩに決められてしまうのかと思う一方で、出演したＡＩを作っているソフト会社の人のファッションが、とてもＡＩで診断しているような感じではなく、ＡＩには頼らない独自のセンスを表現していたことに、違和感があった。タクシー対決だけ１対１だったが、他の対決と同じく３対３でやったほうがバランスは取れたのではないか。また俳句対決は、ファッション対決と同じく、事前にＡＩ、人類どちらの作品かを公表せずに判定するなど、審査方法を統一したほうが、より見応えがあったと思う。

○　将来的に自分の仕事もＡＩに取って代わられるのかと不安になりながら見始めた。導入部分で、具体例としてＡＩを活用した女性のユーザーインターフェイスや犬が出てきたことで、理解が進み、興味深く最終回を見ることができた。ファッション対決は、内容と使用した音楽がマッチしており、ファッションショーをイメージした演出はモデルも含め映像として美しく、ふだんのものづくりの番組とは違う視点で楽しむことができた。俳句対決は、ＡＩとしてはまだ日が浅い芸術方面ではあるが、人間の心の機微をＡＩが理解し、表現することができるのか疑問をもちながら見ていた。

○　芸術、美、感性などデジタル化が難しいといわれる分野に新たに挑んでおり、興味深く視聴した。ＡＩはデータの蓄積によって考えるので、ファッションや俳句といった芸術的、創造的な領域は人間に及ばないように思われているが、タクシー対決をはじめ、分野によってはさまざまな活用法ができると期待している。特にデジタル化、データ分析などについてはＡＩが技術水準を引き上げてくれるのではないだろうか。今後もＡＩの活躍と人間との共存という関心に応える番組作りを行ってもらいたい。

○　最終回を迎えることを残念に思いながら視聴した。審査員で出演した方の動きが固く、ロボットのようだったが、他の出演者から「あなたがＡＩでロボットみたいだ」と言われると、不機嫌な表情となり、場の空気が悪くなったように見えた。また、すぐ場面を切り替えず、その表情を長めに見せていたが、あえて視聴者に見せる必要があったのだろうか。演出や表現上、大切だった

のかもしれないが、早めに画面を切り替えてもらうだけでもう少し気持ちよく視聴できたと思う。

○　ＮＨＫは、番組で、ＡＩに関してどういう方針をとるかなど決まっているのか。

（ＮＨＫ側）

ＡＩの取材方針がＮＨＫとして明確に決まっているわけではない。「超絶！凄(すご)ワザ」に関しては、委員から指摘のとおり、ゲームや経済的なことなど、勝負がはっきりつくジャンルで使われることが多いＡＩが、人間の感性など勝負をはっきりつけにくい分野ではどうなるのかという問題意識をもって、３つの対決を考えた。スタジオのトーク部分では、人間、芸術とはどういうものか、今のＡＩにできないものは何かといったことが、会話の中からあぶり出されてくるなど、非常におもしろかったのだが、時間的制約により、かなり割愛せざるを得なかった。俳句対決で、優劣の判定後にＡＩか人間かを明かしたほうがいいという意見については、最初に勝敗が分かってしまうと、その後のトークの熱や興味が失われることを考慮して、勝敗を最後に持ってくる構成にした。俳句で一番おもしろかったのは、ＡＩは言葉のつながりを美しく流れるように作ることは得意だが、予想もできないような斬新な発想では、人間には及ばない部分だと思った。ＡＩはパターン学習がベースとなるので、これまでに全くないものを作り出すことはまだまだ難しいということが、３つの対決に共通して出てきていた。

○　２月２７日(火)クローズアップ現代＋「コンビニ“飽和”時代！？激化するサービス競争」を視聴した。これまで自分の地元では実感がなかったが、近い将来、過疎になるのかと危機感を覚えた。コンビニは、これまでの売上至上主義から、地域共存主義となることで、２４時間営業の廃止や自治体負担による地域連携を図っていくという内容だった。地元の店員採用による雇用創出やニーズをさぐる御用聞き的な取り組みなど、昭和のサービスに戻ったような内容に安心感を覚えた。コンビニなど大手企業と地域が連携し、新し

い社会を作っていく部分に期待感がある一方、コンビニやショッピングモールなど大手企業の進出によって地元商店街が衰退し、人々の利便性やぜいたくに対する欲求を助長したことなど、負の遺産もあったと思う。それらにはあまり触れず、コンビニのいいことばかり伝えられたようにも見えた。

○　２月２７日(火)先人たちの底力　知恵泉（ちえいず)「酒との上手なつきあい方　日本人と酒」、３月６日(火)同番組「酒のトラブルにご用心　日本人と酒」を視聴した。無礼講の意味や、ことばのルーツが後醍醐天皇にあること、「とりあえずビールね」ということばを初めて言った人が福澤諭吉だったなど、お酒に関する知識を得ることができて、楽しく見ることができた。ビールはラガーとエールの２種類があるとあったが、エールのビールは身近で買えるのか、缶や瓶のラベルに書いてあるのかなど疑問がわいたので、もう少し丁寧に教えてもらいたかった。２月２７日(火)の放送で、ある出演者が、ほかの出演者と違い、途中から来て、途中で帰っていった理由がよく分からなかった。

○　２月２８日(水)ガッテン！「あなたの目にベストマッチ！“幸せメガネ”ＳＰ」を視聴した。調節機能解析装置を使って、よく見える眼鏡を楽に見える眼鏡に変えるという趣旨だったが、眼鏡の使い勝手を、医学的にも正確に解説していたいい番組だった。３月７日(水)同番組「巨大血栓を作らない！脳梗塞・寝たきり予防ＳＰ」は脳梗塞の原因の多くは心臓の不整脈であることは一般にはあまり知られていない。心臓の不整脈にもさまざまな種類があるが、その中で脳梗塞を起こすものは心房細動だ。心房細動について患者に説明し、理解してもらうのは大変困難だが、この番組では心房細動とはどういうものか、拍動の様子をリアルに、分かりやすく説明していた。特に、心房細動によって巨大血栓ができる現象を再現した映像は見事だった。また、自分で心房細動を発見する方法などが、医者から見ても大変参考になった。認知症の危険因子になりやすいことなど、最近の知見も盛り込んだいい番組だった。３月１４日(水)同番組「便意はあるのに出ない！？便秘の新タイプ解消ＳＰ」では、最初は夕食時に便の話題をお茶の間に届けるのは不謹慎ではないかと思った。しかし、番組で繰り広げられる会話は聞いていてとてもおもしろく、全く不潔感を感じさせないものだった。これは清潔感にあふれ

た出演者たちによるものだと思う。排便や肛門の話は患者にとっても医者にとっても、あまり日の当たらない部分だった。その臓器を分かりやすいモデルを使って白日の下に出したのは画期的だと思った。便失禁診療ガイドラインは、昨年、日本大腸肛門病学会から初めて出されたものだが、それをいち早く取り上げたのも大変よかった。最近の「ガッテン！」は、正確な医療情報を伝えるようになり、安心して見ていられる。

○　３月３日(土) 小さな旅「静寂の里に光ほほえみ～長野県　戸隠～」を視聴した。千島ささを使った日用品を作る職人のシーンではそば用のざるから、地元の名産である戸隠そばを連想した。戸隠神社の雪下ろしをする地域住民の姿から、信仰心や地域のつながり、伝統が感じられた。また、雪原をスノートレッキングで楽しむ人たちが紹介する絶景は美しかった。特別豪雪地帯という言葉から想像する厳しい冬を、明るく肯定的に捉えながら、春の訪れにつながっていく内容がとても心地よかった。伝統産業や地域の暮らしを、美しい映像とともに紹介しており、視聴することで安らぎを感じる良い番組だった。

○　３月３日(土)ＮＨＫスペシャル　ＡＩに聞いてみたどうすんのよ！？ニッポン　第２回「働き方」(総合 後 9:05～10:04)を視聴した。第１回を見なかったので、マツコ・デラックスさんがＡＩに名付けた「ひろし」というネーミングの理由が分からないまま視聴していた。初回を見ていない人にも分かるようにしてもらいたかった。前回よりパワーアップしたＡＩがさまざまな情報を取り込み、計算して答えをだしていたが、出てきた答えが人間には理解しがたいものが多く、番組で討論もされていたが、最終的に物足りなさを感じた。また「おカネにゆとりがなくても蛇口を小まめに閉めなければ仕事に満足できる」というＡＩの答えに対し、実際にそういう人のお宅を訪れてみると、井戸水で水は無料だったという話や、部屋いっぱいにごみをためていた話などが紹介され、何を伝えたいのかがよく分からなかった。働き方改革では、長時間労働や昇給や人間関係によるストレス、生産性の拡大などが課題だと言っていたが、職種や業務など、もう少し対象を絞って議論を深めるべきだったと思う。解決策の一つとして示された、会議の効率化、簡潔なメールのやり取りは納得のいくものだった。没頭度が大事という話は、日本は自

分ひとりで仕事をするより、チームでするほうが多く、ＡＩが出した答えの一つに「仕事の効率を上げたいなら、１１時間５４分以上働け」とあったのも、自分の仕事に没頭できる時間帯が必要ということだと理解した。没頭する時間をなかなか設けられないことが日本の働き方のひとつの課題だと感じた。

○　３月４日(日)明日へ　つなげよう　ふるさとグングン！「国をこえて交流したい～埼玉・川口市～」を視聴した。まず、地方だけでなく東京近郊の川口市でも過疎化していることに驚き、意外と深刻な問題ではないかと、深く考えさせられた。高度経済成長期に大団地を作り、少子化、高齢化が進行することで若い人たちがいなくなり、団地には高齢者と後から入居してきた外国人ばかりという状況で、言葉や文化、生活習慣の違いから、隣人と意思疎通ができない様子が紹介されていた。番組で、団地の自治会の皆さんが、「自分たちもやればできる」「諦めてはいけない」と自ら行動を促していき、お互いに難しいことは言わず「おもしろいね」など楽しさの共有を通して、お互いを知り合うことが結果として、不信感や不安感を払拭する過程は見ていて大変よかった。このような、コミュニケーションや相手への尊敬の重要性がわかる取材や番組を今後も続けていってもらいたい。

○　３月４日(日)ＮＨＫスペシャル「“河川津波”～震災７年　知られざる脅威～」を視聴した。スマートフォンを使いながら避難経路を確認するシーンは高齢者しか映っていないのが残念だった。子どもや学生が一緒に取り組んでいるように見えると世代の広がりを感じることができると思うのでもう少し工夫してほしい。開発されているアプリについては、もっと活用されるべきだと思うので、番組で紹介してくれたのはよかった。河川津波の危険性はずっと言われていながら、なかなか映像にされていなかった。愛知県は、名古屋市など沿岸の津波より河川津波のほうが危険な地域があり、堤防も全地域をカバーしているわけではないので、この番組を踏まえ愛知県全体ではどうなのか、今後も河川津波の危険性について取り上げていってほしい。

○　南海トラフ地震などは東日本大震災と比べると、震源から陸地が近いため、分単位で静岡県や三重県に津波が押し寄せると言われている。今回の番組は

そういう危険性がきちんと取り上げられており、大変よかったと思う。視聴者に必要以上に恐怖を与えてはいけないと思うが、地震や津波はいつかは必ず来ることを考え、公共放送の使命として、いつ、どこに、どのような被害が起こりうるかをしっかり示していってほしい。

○　３月４日(日)歴史秘話ヒストリア「百万石サバイバル！　加賀前田家・３人の英雄たち」を視聴した。地元の人でも知らない話を取り上げており、すごくよかったと思う。２代目藩主前田利長が、あれほど大変な目に遭っても家を守ろうとしたことを初めて知った。全国でも屈指の伝統文化がある石川県だが、360 年たっても、その積み重ねの上に私たちの生活があるのだと感じ、ありがたいと思った。

○　３月５日(月)プロフェッショナル　仕事の流儀「再戦へ、秘めた決意～プロボクサー山中慎介～」を視聴した。前回の敗北を認めることができずに再戦を選び、勝つことだけを目指してトレーニングをする山中選手の姿にとても感動した。相手に勝つために、トレーナー、家族、友人との数多くの関わりから、厳しいトレーニングまでよく取材されていた。何度も防衛をしていたときの目つきの鋭さが最近では柔らかくなり、それが勝てなかった理由ではないかと彼自身が納得している姿に共感した。引き際が難しいと山中選手が言っていたが、人生の引き際も難しく、彼のボクシングと自分の人生を重ね合わせて見ていた。再戦後のインタビューは、もう少し時間をかけて聞きたかった。試合で勝つか負けるか分からない選手を１年余り密着取材すること、そしてＫＯ負けしてしまったことを考えると、番組づくりの難しさを感じた。一方で、敗北が感動を作ることを知ることができる番組だった。

○　３月６日(火)「ごごナマ」を視聴した。「ぶっちゃけホンネトーク」では、風間杜夫さんをゲストに、お茶の間のような雰囲気の中、デビュー作やつかこうへいさんの演出の話、出演したドラマの話など、風間さんの役者としての魅力が伝わる内容で、楽しく見ることができた。「知ットク！らいふ」は毎日使っているしょうゆをクイズ形式で楽しく、詳しく知ることができた。「オトナの遊び場」では中継で江戸情緒残る蔵の町として栃木市を紹介しており、栃木の名所を初めて知り、ぜひ行ってみたいと思わせてくれる内容だった。

○　３月７日(水)オイコノミア「ひふみん参上！　将棋人生の経済学」を視聴した。加藤一二三さん出演で経済学と将棋の関連を解く番組だった。最近のバラエティー番組に出ている加藤さんの姿しか知らなかったので、若い頃から活躍され、すばらしい結果を残していることを知り、改めて加藤さんのすばらしさを認識した。相手に勝つために、食事や対局中の所作などは毎回同じ行動をとることで、より将棋に集中していく部分が経済学と結び付いているという点は大変興味深かった。専門の勉強をしていないのに、経済学に通じる行動をとっているなど、成功者の頭脳は皆、勝つために綿密な計算がなされているのだと思った。番組セットの椅子やテーブルの関係で、出演者３人の姿勢が悪く、つらそうに見えた。もう少し将棋と関連するようなセットで、見た目も好感が持てるように工夫してあるともっとよくなると思う。

○　３月７日(水)ＮＨＫスペシャル「被曝(ばく)の森２０１８～見えてきた“汚染循環”～」(総合 後 10:25～11:15) を視聴した。毎年放送しているが、非常にいい番組なので、今後も続けていってもらいたい。番組内で「事故は過去だが、被ばくは現在進行中です」という言葉がでてくる。被ばくは続き、汚染された土壌を他府県に運ぼうとしている状況の中、汚染土を広げないためにはどうしたらいいか、もう一歩踏み込んだ番組づくりをしてもらいたい。

○　東日本大震災から７年が経過したが、まだ解消できない現実を改めて感じた。「帰還困難区域」にある放射性セシウムの人類への影響を、多くの研究結果を通して紹介し、将来への警鐘を鳴らしていた。その中には、地域住民の帰還への思いや、将来に託す願望も表現されており、現状の厳しさとの対比が印象的だった。　山間地に降り注いだ放射性セシウムは地下水などでは排出されず、その山間地の中で残留し続けているという事実や、木を伐採しても、あまり除染にはならないという研究結果は衝撃的だった。一方で放射性セシウム 134 や放射性セシウム 137 の半減期などから予測される 100 年後の状態など、将来の汚染について、もっと示してほしかった。また、たくさんのデータを示すことはいいことで、評価には細心の注意を払っていると思うが、可能であれば第三者の意見も示してほしい。事故後７年に放送する意義のある番組で、構成も内容も映像もすばらしく高く評価したい。今後も継続的に取材、番組化を期待している。

○　３月１０日(土)経済フロントライン「ナイキを育てた国～創業者フィル・ナイトさんに聞く～」を視聴した。昨年１１月に自伝が販売されており、アメリカまで行き取材した本人のインタビューをはじめ、日本法人を設立した日本の商社の人たちのインタビューも踏まえており、見応えがあった。書籍もベストセラー入りしており、タイムリーな放送であったこともよかった。

○　３月１１日(日)日曜討論「東日本大震災７年　復興はいま」を視聴した。震災から７年がたち、当初の復興計画は遅れ、人口減、雇用不足の中で、膨大な税金をかけて行う復興が本当に日本のため、住民のためになっているのかを投げかける番組だった。内容は非常にすばらしく、復興への問題点を浮き彫りにしていたが、最後の復興大臣のインタビューに対し、大臣の受け答えは理想論が多く、中味がほとんどない印象を受け、残念だった。

○　３月１１日(日)「特集　明日へ　つなげよう　東日本大震災から７年」(総合 前 10:05～11:54、後 1:05～5:00) を視聴した。復興に尽力する人たちが次々に紹介され、明るい話題の中にも、被災地の人たちの悲しみや苦労が今も続いているのだなと、番組から強く伝わってきた。沿岸で生活をしている身として、被災地の人たちからの「津波を甘く見てはいけない」というメッセージを、いつ来てもおかしくないと言われている南海トラフ地震に対しての教訓として深く受け止めたい。

○　３月１５日(木)「いごっそうとはちきん～高知窪川・地域の未来と向き合った人々～」(総合 前 2:55～3:38) を視聴した。昭和５０年代に原発誘致を図った高知県の窪川町をめぐる、反対派を中心とした番組なのだが、賛成派も町の将来を思って行動している姿を伝えることで、善と悪ではなく、いわば善意と善意が将来をめぐって立場を変えている、といった部分を表現できているところが非常によかった。しかも、その行動が深刻な分断を招き、３０年たった今でもしこりは消えてないことが、特に賛成派の表情からよく見て取れた。その中で、反対派で魚屋の中野重子さんが、態度をはっきりすることは商売上非常に難しいと言っていた。これは今でも全く同じで、原発の可否について態度をはっきりさせないと、反対派からも、推進派からも信用されない現実がある。どっちつかずの立場を取ることはよくないと思い、自分の

心ひとつを頼りに、誰にも相談することなく決めていたシーンは、見ていて背筋が伸びる思いだった。福島県や、原発事故を扱っているわけではないが、原発問題の一番基となる部分を非常に丹念に取材したすばらしい番組だった。

○　高知や福島など、自分たちや子どもたちの未来に向け、よりよい環境を作ろうと思って取り組んだ結果が、一方は頓挫し、一方は維持されているような現状がある。この番組は四国で放送された番組を全国放送したものだが、このような視聴者に伝えるべき番組が多くあると思うので、夜中でもかまわないからもっと放送してほしい。

（ＮＨＫ側）

この番組は松山局制作の番組で、制作担当者は東日本大震災後、現地に通い、原発関連の番組を制作していた。賛成派、反対派、両方の証言を積み上げていき、安全性だけでなく、経済など原発に絡む重層的な問題を取材したそのときの経験を生かし、今回の番組制作に至っている。

○　森友学園関連の財務省の決裁文書の問題について、新聞も含め「改ざん」と「書き換え」で表現が各メディアで分かれている。公平性や言葉の厳密な意味をどう捉えるかを踏まえつつ、テレビや新聞は公の立場で報じなければならない。「書き換え」と「改ざん」のどちらが正解ということは難しいが、言葉のプロとしてＮＨＫには今後も考えていってほしい。

ＮＨＫ名古屋放送局
番組審議会事務局

平成３０年２月ＮＨＫ中部地方放送番組審議会

２月のＮＨＫ中部地方放送番組審議会は、１５日(木)、ＮＨＫ名古屋放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「平成３０年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について説明があった。引き続き、「平成３０年度中部地方向け地域放送番組編集計画（案)」の諮問にあたって、説明があり、審議の結果、番組審議会として原案を可とする旨、答申することを決定した。

続いて、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、今後の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	小澤　正俊	（大同特殊鋼（株）相談役）
副委員長	小寺　功子	（三重県漁協女性部連合会会長理事）
委　　員	井口　昭久	（愛知淑徳大学健康医療科学部教授）
	稲村　修	（魚津水族館館長）
	加藤　勇二	（愛知県農業協同組合中央会常務理事）
	清川　卓二	（清川メッキ工業（株）専務取締役）
	徳田　八十吉	（徳田八十吉陶房　代表）
	中村　智景	（四季料亭「助六」女将）
	長谷川明子	（日本ビオトープ管理士会中部支部会長）
	東　　惠子	（東海大学海洋学部環境社会学科教授）
	真能　秀久	（中日新聞社取締役人事労務担当）

（主な発言）

＜「平成３０年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について＞

○　説明を聞いて、非常に幅広い内容を扱うことは分かったが、番組審議会委員として毎年説明を聞いていると、その年のポイントとなる部分が似通っているようにも思える。ここ数年は東京オリンピック、４Ｋ・８Ｋスーパーハイビジョンへの取り組みがあるが、来年度の目玉と思っていいだろうか。

○　４Ｋ・８Ｋの本放送開始は今年の１２月で、開始に向けての準備は非常に大きなポイントだ。東京オリンピックももう少し時間はあるが、2020 年に向けたコンテンツの開発、放送だけではない視聴者との接点等も含めた計画を来年度から具体的に進めていく必要がある。この２つ以外にも、現役世代、特に５９歳以下の視聴者に

向け、公共メディアとして、見たい、利用したい、必要だと感じてもらえるようなサービスをどれだけ提供できるかについて、今まで以上に取り組んでいきたい。

○　視聴率を意識して編成計画や時刻表を作成していると思うが、見たい番組が見ることのできない時間帯に放送されていれば、録画する視聴者が増えていると思う。既存の視聴率に左右されることなく、番組のターゲットが一番見やすい時間帯に放送することも、新しいやり方ではないだろうか。また、録画できる番組数は限られるので、民放を含め、夜間の見やすい時間帯にいい番組を一斉に放送されてしまうと、見たい番組を見落としてしまう可能性もある。その辺りも踏まえた新しい番組編成について検討していってほしい。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫだけでも放送波を複数もっており、視聴時間帯についてはきちんと考えていきたい。また、現在はリアルタイムでの視聴率以外に、タイムシフト視聴率、リアルタイムと合算した総合視聴率も分かるので、コンテンツに合わせた指標を確認しつつ対応していく。

○　たくさんの番組があるのはいいことだと思うが、働き方改革を進めていくことを考えれば、全体枠の中で何ができるか、何を削るかという議論が必要になると思う。いっぺんに変えることはできないかもしれないが、ＮＨＫが働き方改革についてどう取り組んでいくのかが、先ほどの説明だけでは見えてこなかった。また、計画の説明とは別に、約１年番組審議会委員を務め、視聴番組のプロデューサーから番組趣旨の説明をうけると番組を深く理解でき、違う視点で見られることがままある。そのため、番組ではタレントなど出演者が一生懸命話をしていると思うが、もう少し作り手の気持ちを番組の中で表現してもいいと感じている。

（ＮＨＫ側）

働き方改革については、ＮＨＫグループ全体で、番組の制作スパンを含めて具体的に取り組んでいる。編成計画は全体を網羅しているため、どうしても全方位的に取り組むように見えてしまったかもしれないが、計画策定に当たっては各メディア波とも番組のスクラップ・アンド・ビルドを実施しており、業務量、制作量をきちんとコントロールした計画になっている。

○　地域で放送された番組を全国で取り上げてもらえると、地域がもっと活性化すると思うので、よろしくお願いしたい。

○　意欲的な編成計画だと思う。迷ったときには視聴者、聴取者の側に立って取り組んでいってほしい。

○　ＮＨＫは信頼できる情報を発信していると認識している。これからも物事には表面的な事象と、真実や裏側の事情があると思うので、表と裏をしっかり公平に報道していっていただきたい。

○　冒頭で経営計画についての話があったが、民間企業では中期的な計画を作るときは、歴史的に見てこれから３年はどういう時期に当たるかを踏まえて策定している。４Ｋ・８Ｋや2020年の東京オリンピック、第４次産業革命によるＡＩやＩｏＴの導入など、さまざまなトピックがあると思うが、ＮＨＫとして、今回の次期３か年経営計画はどういう位置づけなのか。

（ＮＨＫ側）

公共放送から公共メディアへとうたっているところがポイントだ。新しい時代の中で、公共メディアとは何なのかを視聴者に伝えつつ、公共放送から公共メディアに転換することで何ができるのかが、大きな課題だと思っている。

＜「平成３０年度中部地方向け地域放送番組編集計画（案）」について＞

○　番組審議会委員になったころと比べ、中部地方の番組の質は向上していると思う。引き続きよろしくお願いしたい。日本は今、高齢化が進み、医療や介護の人材不足を始め、社会保障制度が崩壊しかねない状況にあると思う。公共メディアの話もあったが、公共放送として、国民にとって耳障りなこと、あまり聞きたくないことも、きちんと放送してほしい。また、自治体と協力して物事に取り組むことができるのもＮＨＫだけだと思うので、そういうところにも目を配っていただきたい。

○　金沢局の編集計画については、４Ｋ・８Ｋに加え、新会館での新しい取り組みを楽しみにしている。北陸は現在も大雪で、被害状況について適宜伝えてくれているが、防災・減災に向けた取り組みを引き続きお願いしたい。

○　４Ｋ・８Ｋも重要だが、金沢局には、石川県に根付いている伝統工芸を通して、外国人観光客の増加につながるような番組を期待したい。

○　静岡局の新会館は、地域の人達も大きな期待を寄せている。単に情報を発信するだけでなく、地域との連携を図ってほしい。静岡は世界に誇れる地域だと思うので、静岡と世界が直につながってお互いに交流できるような取り組みや、静岡から世界で活躍できるスポーツの人材育成に資する取り組みなど、これからの放送メディアのあり方を見せてくれることを期待したい。自然災害については、東海地震という何十年と続く静岡県の課題がある中、公共メディアとして、一人でも多くの人を救うために、防災・減災への対応をお願いしたい。また、番組をツールに若者とモラルを共有したいと思っても、若者はテレビを見ていない現状がある。引き続き公共的な価値をもつ番組を放送してほしいが、いい番組をどのように若い世代に伝えていくのかが課題だと思うので、そのあたりの工夫もしてほしい。

○　今回の大雪など、災害報道や事件といった、地域のパブリックイメージにマイナスな案件が全国放送で大きく取り上られることが多くなっていると感じている。公共メディアとして、マイナス面だけでなく、プラス面も全国に発信していってもらいたい。また、国体など大きなイベントについては、実施するまでを盛り上げるのではなく、どういう効果を福井県にもたらしたかなどを検証し、継続して報道してもらいたい。福井県は 2016 年の訪日外国人が全国一少なかった。ヨーロッパで人気の「禅」など、福井の情報を世界に向けて発信していってほしい。

○　富山局の多様性に対する継続的な取り組みについて賛同している。明るい、多様性のある富山になるように、取り組んでほしい。また、富山市議会の政務活動費不正受給問題、高岡市の財政問題といった地方自治体に関しての問題や、ＮＨＫスペシャル「縮小ニッポンの衝撃」で取り上げていた人口減少と高齢化の問題など、他の委員の発言にもあったが耳障りな話が増えてきている。多様性に向けた明るい話題だけでなく、厳しい話題も取り上げていっていただきたい。

○　災害報道については、ＮＨＫスクープＢＯＸの活用などを行い積極的に取り上げてほしい。いざという時は自分が撮った動画をいち早く送れるようにしたい。また、三重県には、ハンドボールなどアマチュアスポーツで活躍している人たちがたく

さんいることを知らない人も多い。自分も「ほっとイブニングみえ」での放送を通して知ることができた。今後も楽しみにしている。

○　岐阜局の編集計画にある５つの柱の中でも特に、岐阜の全国に向けたＰＲをお願いしたい。例えば、若い人は岐阜の大学を卒業しても名古屋をはじめとした他県の企業に就職してしまう人が多い。岐阜県にもすばらしい会社がいっぱいあるので、ＮＨＫの番組を通して、県内で働くことに魅力を感じてもらい、岐阜県を活性化してほしい。そのためにも「ほっとイブニングぎふ」を始め、岐阜県域で放送する番組は岐阜県のことを中心に放送をお願いしたい。

○　海上保安庁が出している津波防災情報図によれば、南海トラフ巨大地震などが発生した場合、東日本大震災とは違い、静岡県や三重県の一部はすぐに津波が押し寄せる地域がある。その点で、防災にむけた安全対策の周知、意識醸成に取り組んでもらいたい。

（ＮＨＫ側）

指摘のとおり、地域ごとの特色を踏まえながら、防災・減災に向けての情報発信が大切であり、各県、そして中部全体として取り組んでいく。

地震が発生した場合、静岡県は一番短いところだと５分程度で津波が届く地域がある。ふだんからの備えが非常に重要であり、午後６時台の情報番組でも定期的に防災特集を行い、視聴者の皆さんの意識を高めていく取り組みを進めている。

○　長期的に考えれば、災害は間違いなく起きるものなので、防災・減災に向けた取り組みを引き続きお願いしたい。

○　諮問された「平成３０年度中部地方向け地域放送番組編集計画（案）」については、委員から出された意見の趣旨が具体的な番組編成のうえで生かされることを前提に、番組審議会として原案を可とする答申をしたい。

○　異議なし。

（ＮＨＫ側）

答申を受け、このあと具体的な地域放送番組編成計画について決定

し、３月の審議会で編成計画についてご説明したい。

＜放送番組一般について＞

○　１月３０日(火)「ほっとイブニング」を視聴した。白根山の噴火について取り上げていた。規模の差はあるが、御嶽山と同じ水蒸気爆発であり、今回も事前に前兆を検知できないという話だった。災害に対する研究がその程度の状況であることを踏まえ、日本の自然が決して安心できるものではないこと、減災に向け知識や心構えを紹介するなど、説得力のある内容だった。中部地方では御嶽山などに噴火予報が出ているほか、白山は 300 年前に実際に噴火しており、そういう火山のそばで生活している現実がある。警鐘を鳴らすのは視聴者を不安にさせるかもしれず、積極的に周知していくのは難しいかもしれないが、将来に向けて、このような情報も伝えなければならないと思う。噴火以外にも仮想通貨や、八丁味噌のブランド登録の問題など、短時間だったが事実だけでなく、解説、検証をしてくれる番組があることを評価したい。

○　２月２日(金)静岡スペシャル「静岡の食を世界に売り込め！」(総合 後 7:30～7:55 静岡県域)を視聴した。人口減少により、国内消費が頭打ちのため、海外に向けて静岡のオンリーワンの食材を提供する姿を紹介していた。特に、商品の塩加減に合わせた出荷のしかたや、国ごとの大きさの違いに対応した餃子製造機など、随所に匠の技を感じた。また、人口流出が進む焼津に、ＥＵ基準に対応した鰹節工場を新たに作った話は、静岡の未来を感じさせてくれるものだった。日本総合研究所の三輪康史さんの「ニーズに応える食材」「地域全体でのブランディング」といった解説が番組の内容をさらに充実させていたと思う。番組では、静岡県民に向けて、何に対して付加価値を付けるべきかを示してくれた事はよかったと思うし、静岡の食材が海外に展開されることで、世界の人々が静岡に興味を持ち、静岡を訪れてほしいと切に願っている。

○　２月３日(土)ＮＨＫワールド「富山・飛騨特集～日本の匠のふるさと」(総合 前 10:05～10:35 富山県域)を視聴した。外国人に日本の伝統や匠の技と精神を伝えるという番組の意図がはっきり分かるよい番組だった。冬の富山・飛騨に行きたいと思わせてくれたほか、地元の人間でも見応えがあったと思う。進行や場面展開がよく、ふだん日本語で出演している岐阜局、富山局のメンバーが一生懸命英語で伝えている部分も好感が持てた。小学校からの英語教育が始まっている中で、身近な

キャスターたちが英語を使って番組に出てくる構図もいいと思う。

○　２月６日(火)「かがのとイブニング」を視聴した。番組内のコーナー「にっぽんまんなかブランド」でアラブの民族衣装であるカンドーラを日本の素材で製作することを取り上げていた。白色や素材に対する企業の方の情熱、海外での販売に向けた販路拡大の取り組みは見ていて感動した。今後も、日本から世界に向けて発信できるものについて取り上げていってほしい。

○　２月６日(火)「交通情報」をラジオ第１で聴取した。福井県で大雪が降った日であり、自分も車中に１０時間閉じ込められた中、聞いていた。３０分に１回、詳細な道路情報を放送しており、どの国道が混み、どの道を迂回していけばいいかなど非常に参考になった。自衛隊の到着など、情報が更新されるたびに希望を持つことができたし、情報以外にも各アナウンサーが視聴者を勇気づけるような言葉をかけてくれて、非常に励みになった。また、吹雪の際の注意事項、一酸化炭素中毒防止に向けたマフラーの除雪、スタックしたときの対応など具体的なアドバイスがあり、渋滞の長期化による緊張感の中でも安心感があった。情報を求めてスマートフォンでインターネット検索をしたが、どこのホームページを見ていいか分からなかった。ＮＨＫや行政のホームページのどの部分に、ラジオで伝えていた情報が掲載されているかを伝えると、さらによくなると思う。合わせて、２月６日(火)情報たら福スペシャル！「たそがれ　ラブＳＯＮＧＳ」(ラジオ第１後 5:00～5:55 福井県域)を聴取した。通常は月１回の放送だが、スペシャルウィークと題し、５日連続放送の２日目にあたる回だった。そのため、内容変更は難しいと理解しているが、大雪での渋滞中にラブソングや静かな曲を聞いているのは眠気を誘った。渋滞の中で疲れている人の元気が出るものや、励ましになるような音楽を選んでほしかった。

（ＮＨＫ側）

大雪に対する報道は２月６日(火)を含め、ラジオ第１で、定時枠以外に５０回以上特設ニュースを伝えた。「情報たら福」については、一週間のシリーズで構成を考えていたこともあるが、局内で検討した結果、渋滞中の息抜きに聞いていただければという判断だった。今後は頂いた意見を踏まえながら曲の選択などを行っていく。

○　２月８日(木)「ニュースザウルスふくい」を視聴した。国道８号線で渋滞している人や、近隣の住人へのインタビューを通して、渋滞の現状や地域の孤立感、相互に助け合う姿など、現地の状況がよく伝わる内容だった。ＮＨＫスクープＢＯＸを通して地域の人が投稿した臨場感あふれる映像も有効に使われていたと思う。

○　２月９日(金)「おはよう東海」を視聴した。中日新聞社の三浦耕喜さんを取り上げていた。三浦さんはベルリン特派員や政治部などを担当していたが、自身の病、ご両親の介護により“わけあり記者”として活動することで見えてきたものがあるのだろう。彼自身は自分の境遇を「宝島に突っ込んだ感じがする」と言っていたが、読者や取材対象に育まれたいい記者だと思う。今回の番組で、顔の見える報道、メディアとして身近に感じてもらうことは大切だと改めて感じた。アナウンサーだけではなく、記者も出演し放送を作っていってほしい。

（ＮＨＫ側）

現状でも民放と比較して、ＮＨＫの記者は名前や顔を出すことが多いほうだと思っている。「わけあり記者」を取り上げた経緯は、おもしろい記事を書く記者がいるという話から始まり、自身の病気の治療、両親の介護など、大変な苦労をする中だからこそ見えてくるものを記事にしていると伺った。一体どんな人物なのか、どういう日常を送り、取材をし、どんな記事を書いているのだろうか、という疑問からリポートの制作となった。新聞記者は署名記事が少なく、読者の方も「どんな人が書いているのだろう？」と思っている。その意味では顔が見えるようなリポートになってよかったと思う。

○　１月１９日(金)ナビゲーション「急増する民泊　～過熱ブームの裏側で～」を視聴した。番組を通して民泊の現状と課題を知り、許可制にも関わらず全国で１６．５％、東京に至っては１．８％しか許可を取っていないことに驚いた。民泊がテロリストの集合場所になるなど、先行している海外で発生しているさまざまな課題に対し、日本では今後どのように取り組んでいくか、問題提起をしてほしかった。ゲストの旅行アドバイザーの南まいさんは「日本人はシャイだから、もっと社交的になるべきだ」とコメントしていたが、民泊の安全と安心、健全な発展が先決だと思う。

○　北陸新幹線が開通したこともあり、金沢でホテルなどが予約できないと聞いていたので、興味を持って視聴した。届出制で、年間営業日数の上限がなぜ１８０日なのかと疑問を感じたし、先行する海外での危険な事例も驚きだった。

○　１月２６日(金)金とく「そして“カワイイ”が生まれた　～内藤ルネ 光と影～」を視聴した。子どもの頃に見た絵を描いていた人がどんな人だったのか、「カワイイ」ということばの誕生と、その意味を知ることができるなど、非常におもしろい番組だった。性的マイノリティだからこそ生みだせたものなど、今の時代だから話題にできたし、理解できた部分もあると思う。また、つらい晩年の中で制作した最後の作品が、本当に澄んだ目をした人物画だったことを通して、死ぬまで夢を諦めないことが大切というメッセージをもらった気がした。デザインが新しい価値観を生み、社会を変えていく原動力になるのだということを教えてくれるすばらしい番組だった。

○　２月４日(日)日曜Ｔｕｂｅ「おもてなし中部　ｉｎ　富山市」を視聴した。冬の富山は観光客が少ないという事実からスタートするのは、番組の趣旨が分かりやすかった。ＢＯＹＳＡＮＤＭＥＮの田中俊介さんと、タイ人のノットさん、ロシア人のアーニャさんが薬作りなど体験した場面で、プロの技を見たあとに、一見簡単に思える作業でも出演者が試すと形が崩れてしまうところなどは、プロの技が引き立ち、見ていておもしろかった。作業中、田中さんの「ロシアにはどんな薬があるの？」という質問に、アーニャさんが「ウォッカ」と答えたやりとりは非常におもしろかったし、外国人の視点で地域のすばらしさを再発見するというこの番組の趣旨につながるものだったと思う。外国人の２人はリュックサックや鞄を持ち歩いている一方で、田中さんが荷物を持っていないのは、一人だけアシスタントがついているような不公平な印象を与えるので、気をつけてほしい。

○　石を使ったますずしの作り方は、今でもやっているのかと思うほど衝撃的だった。イノシシ猟についても、たまに食べることもあるイノシシをこのような罠で捕獲するのかと驚いた。また、おわらの伝統が脈々と受け継がれていることを紹介するシーンでは郷愁を感じた。これまで放送した「おもてなし中部」の中で、一番おもしろい回だった。

○　番組で取り上げた風景は美しく、内容も盛りだくさんで楽しい番組だったが、冬でなくてはならないものが少なかった。結果として、番組冒頭で富山市の職員が言った「富山は冬に何を打ち出すのかが悩みの種」という言葉を証明していたように見えた。また、伝統工芸の美しさを中心に伝える中、八尾のジビエ料理で急に現代の話となったため違和感があった。富山県の冬の海の幸をもっと取り上げてもよかったと思う。

（ＮＨＫ側）

今回のコンセプトは、冬場に観光客が減ってしまう富山の伝統の美に注目し、外国人観光客に来てもらうためにはどうすべきか、というものだった。指摘のとおりジビエを紹介する必然性に欠けるが、伝統の食材を使ってこんなことができるという意図があった。地元の方々が知っているものを取り上げると「誰でも知っている」となってしまうので、地元の人でも気づいていない魅力を見せるために、毎回苦心している。今回は王道といえる富山の海の幸ではなくジビエを取り上げた。ホームページでは、海の幸も紹介しているのでご覧いただければと思う。今後も、地元の人も気づいてない知られざる魅力などを外国人の視点で発見していくというコンセプトで制作していることについてご理解いただきたい。

○　富山を訪れる外国人は、検索サイトなどを活用し、地元の有名なすし屋やそば屋など自由にいろいろなところへ行っている。「ジビエか魚か」が問題なのではなく、伝統を前面に出すことが逆に日本人的な感覚がしたため、「外国人の視点」というコンセプトとのギャップを感じている。

○　２月１０日(土)「ウイークエンド中部」を視聴した。眼鏡などの研磨について、ベテラン職人の技を紹介していた。技術のすばらしさについてはこれまでも何度も伝えているので、若者が目指したいと思うような、未来につながる話を取り上げていってほしい。

○　１月１８日(木)クローズアップ現代＋「くいもん小さくなってませんか　食の“スモールチェンジ”裏事情」を視聴した。番組を視聴するまで、スモールチェンジされている商品があることに気づいていなかった。実質的な値上げであるスモールチェンジの成り立ちや、スモールチェンジできない業者のさまざまな事情などに驚

きを感じたし、安いものを求める消費者に対し、食品をあつかう業者の実情がよく分かる内容だった。東京大学大学院の渡辺努教授による、消費者とメーカーが共に努力し、公正な価格を取り戻すことが大事だという趣旨の発言には共感したが、もう１人の解説である早稲田大学の野口智雄教授は、風邪を引いていたため発言も分かりづらかったので、そこまで無理して出演しなくてもよかったのではないかと思った。

○　１月２４日(水)オイコノミア「経済学でハッピー！人生１００年時代」を視聴した。人生８０年を「２０・４０・２０」で区切っていた時代から、「２０・６０・２０」で区切る１００年時代になる話など、分かりやすく、おもしろい番組だった。特に、８２歳の若宮正子さんが、６０歳で定年退職してからＩＴを学び、ネット上の老人クラブ運営やアプリ開発などに取り組んでいることに非常に驚きを感じた。オープニングの演出がもう少し華やかだと、更によくなると思う。

○　１月２７日(土)ＮＨＫスペシャル　未解決事件　Ｆｉｌｅ．０６「赤報隊事件」（総合 後 9:00～9:49 ）１月２８日(日)同番組「赤報隊事件　戦慄の銃弾　知られざる闇」 を視聴した。事件について、意に沿わないものを暴力でねじ伏せようとする民主主義への挑戦という捉え方が一貫して表現されていることに好感を持った。実録ドラマも当時の雰囲気をうまく表現しており、綿密な取材を通して制作していたと思う。当時を知る人間として、どこまで捜査の実態と犯人像に迫れるか興味深く見ていた。取材を通して得た深い話、番組では伝えきれなかった裏話などを聞いてみたい。今後もＮＨＫの取材網の中で未解決事件に関わる情報が入ってくることもあると思うので、継続していってほしい。

○　１月２７日(土)「おかあさんといっしょ」を視聴した。自分の周りで小さい子どもをもつ母親たちがこぞってイベントに行きたいというのを聞き、人気の高さを感じると共に、何がそんなに子どもたちを喜ばせているのかと思い視聴した。キャラクター、うたのおにいさん、おねえさんが出演していることに加え、同じ年代の子どもたちが出演しているのも人気の理由だと思う。自分もＮＨＫの幼児向け番組は子育て時に子どもと一緒に視聴しており、当時は「にこにこぷん」だったが、「にこにこぷん」から「ガラピコぷー」まですでに何代も重ねていることを知り、制作者の苦労を感じた。朝と夕方の忙しい時間に子ども向けの番組を放送しているのはＮＨＫだけなので、小さい子をもつお母さんたちは本当に助かっていると思う。今

後も子どもたちが喜び、安心して見られる番組づくりをお願いしたい。また、別の機会にもお伝えしたが、朝と夕方だけではなく、お昼も幼児向け番組を放送してほしい。

○　１月２８日(日)「ヤミツキ人生！」(ＢＳﾌﾟﾚﾐｱﾑ 後 10:55～11:54)を視聴した。花、金魚、ボディビルに病みつきになった人を紹介していた。興味のない人からすれば、なぜあんなものにお金をかけるのか、そこまでする必要があるのかと思うが、本人たちには人生を輝かせてくれるものであること、人にどう見られようが好きなものは好きなのだという意思が番組から伝わってきた。最初はあきれながら番組を見ていたが、病みつきになったものを楽しそうに話す姿を見て、病みつきになれるものがあることが羨ましく思えた。自分にも病みつきになれるものがあれば、人生に違った楽しみが出てくるのではないかと思わせてくれる番組だった。

○　１月２９日(月) プロフェッショナル　仕事の流儀「ワンちゃんスペシャル」を視聴した。職業柄トレーナーのしつけのやり方について賛否が分かれることもあると思うので、今回のように、時に叱ったり叩いたりするしつけを行わなければばらない理由を、番組内できちんと説明すべきだと思う。第三者による「これはこうだから、しょうがない」「こうしなきゃいけない」という意見があれば、違和感や反対意見も減るのではと思った。また、トレーナーによるしつけがなければ殺処分されてしまう現実もあり、命とは何なのかということを伝えてもらってもよかったかもしれない。あえて反対意見をもっと番組で取り上げ、第三者のフォローをしてもらうなど、いい番組を作っていただきたいと思った。

（ＮＨＫ側）

「プロフェッショナル　仕事の流儀」はプロに密着取材する番組のため、仕事の是非について考える番組ではないが、ペットブームにともない飼い犬による噛みつき事故が多発している中で訓練士を取り上げたことから、そのような印象を与えてしまったのかもしれない。頂いた意見については制作部局と共有したうえで、今後の番組づくりの参考にしていきたい。

○　１月２９日(月)クローズアップ現代＋「“ドラレコ”革命　～危険な運転を炙り出せ～」を視聴した。ドライブレコーダーの存在は知っていたが、実際に事故などで

活用された人の話を聞けたのはとてもよかった。また、ただ映像を記録するだけでなく、危険な場所を特定し無くしていくこと、ふだんの運転を記録し、自分の運転の危険度を知ることで運転を改善すること、ベテラン運転手の盲点が分かるなど、ドライブレコーダーの有効な活用法を知ることができた。武田真一アナウンサーの「いろいろなものが映るるということに関して、ちょっと抵抗はないですか？」という質問に対して、出演者である日本交通事故鑑識研究所の代表大慈彌雅弘さんの、プライバシーや肖像権の問題もあるが命には代えられないという趣旨の答えには大変説得力があった。自分の車にも取り付けたいと思ったし、すべての車両に装備され、１件でも交通事故が減ることを願っている。

○　１月２９日(月)食材探検　おかわり！にっぽん「ベニズワイガニ～富山・射水市～」(ＢＳﾌﾟﾚﾐｱﾑ 前10:45～11:14)を視聴した。「おかわり」が料理の最上の褒め言葉という話を聞いたことはあるが、今回はズワイガニの缶詰の話だと知り、缶詰でＢＳプレミアムの番組として成り立つのだろうかと思っていた。結果としてカニの缶詰の話で１時間楽しく視聴できた。射水市の港を舞台に、高級な食材ではなく、長く根付いた地元の味として賞味されている姿や、各家庭の台所の役割を担う地元の惣菜屋さんが頑張っている姿は、見ていて味わい深いものだった。

○　１月２９日(月)超絶　凄（すご）ワザ！「夢かなえますスペシャル～なわとび８重跳び＆安心！子ども用長靴」を視聴した。１つ目の８重跳び挑戦については、３重跳びまでは聞いたことがあるが、６重、７重跳びができることに驚きを感じた。結果として８重跳びはできなかったが、それを可能にするための縄を特集していたことは大変興味深く、縄の素材開発で跳べる確率が上がっていくことに、驚きとおもしろさを感じた。一方、縄の開発によって８重跳びができるかどうかが重要なのであって、跳ぶパフォーマーの森口明利さんが外国にいることの説明や、チャレンジのために帰国する場面は、もう少し割愛してもよかったと思う。２つ目の履きやすく脱げにくく滑りにくい長靴はとても感動したし、こんな長靴があればいいと思った。開発者の「寝ても覚めても一日中長靴のことばかり考えていて、業務はしていなかった」など、開発者の正直な言葉を通して、意気込みの強さを感じた。出演者の手を後ろに組む姿勢は気になるので、直したほうがよいと思う。

○　１月３１日(水)ガッテン！「食べてないのに突然発症！？食物アレルギーの新常識」を視聴した。食物アレルギーを分かりやすく、正しく伝えていた。藤田保健衛

生大学の矢上晶子教授の解説がよかったと思う。一方で２月７日(水)偉人たちの健康診断「平安貴族ＶＳ．糖尿病　藤原道長の憂うつ」の解説は分かりづらく、的外れな印象を受けた。科学的な検証を行う番組は、解説者の説明によって番組のよしあしを左右してしまうと思うので、人選は慎重に行ってほしい。

○　２月２日(金)新日本風土記「有明海」を視聴した。有明海と聞くと干潟のムツゴロウをイメージするが、番組ではそこに住む人々の深い歴史、あるいは、人が住むことによる文化というものが先祖から現代へ、親から子へとつながっていく過程が大変よく分かり、地元独特の風土記として、番組の趣旨に合致した内容だった。特に有明海の真ん中にある沖ノ島が地元の人に守られ、豊作を祝うシーンなどは、人と自然の営みの関係がよく表現できていた。松たか子さんのナレーションは、声、抑揚が素晴らしいと思う。

○　２月３日(土)助けて！きわめびと「腸～スッキリ！便秘解消大作戦」を視聴した。高齢者は、実際は便秘ではないが、便秘だと思い込んでいる人が多い。そういった点からも便秘に対する理解が深まるこの番組はよかったと思う。

○　２月３日(土)ＥＴＶ特集「長すぎた入院」を視聴した。長期入院の理由、退院を阻んできたものについての取材を通して、精神病院の驚くべき実態を知り、感想としては驚いたというほかない。退院した人たちの顔は本当に嬉しそうで、笑顔にあふれていた。今後、このような人たちをどう支えていくのかも取材していってほしい。

○　２月４日(日)目撃！にっぽん「滅びゆく命のバトン～札幌・円山動物園　本田直也～」を視聴した。内容は分かりやすく、映像もとてもきれいだったが、番組タイトルや「今、地球は、年間４万種の生き物が消えていく」というナレーションなど、「命のバトンをつなごう」というテーマに仰々しさを感じた。そもそも動物園が滅びゆく命のバトンをつなぐ場となるべきか、飼育下で生物を繁殖させることが命のバトンをつなぐということなのかなど、さまざまな意見があると思う。本田直也さんが実際に動物園で働いている姿も見たかったし、ホームページの番組紹介にある「ひたむきに今を生きる人々をクローズアップし、その生き方や魅力に迫ります」という流れで、生き物好きの少年が理解ある家族の下で育ち、動物園で稀少な生物の繁殖に取り組んでいるということが伝わればよかったのではないかと思った。

○　２月４日(日)日曜討論「活用広がるＡＩ　社会はどう変わるのか」を視聴した。ＡＩ技術は第４次産業革命の軸で、人間の仕事の５０％近くが代替されていく可能性もあると聞き、興味を持って視聴した。ＡＩ技術の話が主だと思っていたが、哲学者を始め多彩な人材を集めて討論を行い、技術だけではなく、人間の心、経済、社会と幅広く討論していたのは意義のあるものだったと思う。ＡＩに取って代わられないためには人間の能力や資質を上げなければならず、一番の基本となる人間教育の質の向上をどうするか、という議論の集約は納得できるものだった。人間の価値や存在する理由が問われる時代になりつつあると感じた。

○　２月４日(日)ＮＨＫスペシャル　シリーズ人体　神秘の巨大ネットワーク　第５集「“脳”すごいぞ！ひらめきと記憶の正体」を視聴した。脳の神経繊維の働きなど、文字の上で理解していたものを映像として見ることで、今までの神経科学の理解が一挙に変わってしまうような驚きを感じた。この映像によって学生など、専門家以外でも理解しやすくなると思う。人類の歴史上、長期に渡って哲学者が行ってきた脳の研究が、ここまで科学的に発達したことを、番組を視聴してあらためて実感した。一方で、インスリンが脳脊髄関門を通過し、脳内に作用して記憶を増強すると言っていたが、この説はまだ確定していないのではないか。番組を通して、インスリンが海馬に働き、記憶力をアップさせ、アルツハイマー病予防に効果があるという印象を受けた。そのように意図して放送していたわけではないと思うが、慎重な配慮をお願いしたい。

（ＮＨＫ側）

番組制作に当たっては誤解を与えないように留意していたと思う。特に最新の学説や研究発表については「〇〇教授はこのように考えています」というナレーションを入れるなど断定しないようにしていたほか、スタジオでも山中伸弥教授を始め、出演者が「今これは研究の途上で」「まだいろいろな見方があったり」といったコメントをすることでフォローしている。科学番組、医療番組にとっては生命線となる部分でもあるので、指摘を踏まえ、これからも対応していきたい。

○　２月１０日(土)週刊　ニュース深読み「本業・副業“二刀流”？　どうなるニッポンの働き方」を視聴した。働き方改革がうたわれている中、このテーマを取り上げた真意がどこにあるのか伝わりづらかった。本業と副業で「二刀流」と言うと聞

こえはいいが、日本の労働人口の４割近くが非正規の労働者であり、１つの仕事では生活に困窮するため、複数の仕事をしなければならない人もいると思う。そういう不安要素も鑑みながら、働き方についての議論を進めていってほしかった。

○　連続テレビ小説「わろてんか」を視聴している。てんと藤吉が築き上げてきた北村笑店が、笑いの力を事業化していく姿に共感を覚えている。藤吉が亡くなってから、てんを取り巻く人々がその遺志をつなぎ、各自の生きざまが織りなす人間模様がとてもおもしろく、興味深い。演じる役者の技量だと思うが、ミス・リリコ アンド シローや、キース＆アサリなど、番組内で成長し、表現が豊かになっているように見えるところがすばらしい。

○　「ピョンチャンオリンピック」を視聴している。リオオリンピック開会式の時も述べたが、開会式で入場行進する国が分かるように世界地図を表示してほしい。実況で国の場所を説明していたが、切り替わりも早く、スマートフォンで検索しながら見るのも一苦労だった。行進している人を通して、どこの国にどんな人がいるかを認識することがグローバルな感覚を磨くことの一助になると思うので、次回の東京オリンピックでは地図を掲載してもらいたい。

○　今回は、女子スピードスケートの小平奈緒選手と高木美帆選手に注目していた。平成２９年１１月５日(日)放送「目撃！にっぽん　考える、高木美帆～オリンピックへ密着２９００日～」の中で、高木選手が壁にぶつかる度に考えることで自分を変え、成長を続けてきた姿を見ていたので、今回のオリンピックでメダルを獲得できて本当によかった。

○　オリンピック関連の番組の中でも２月１４日(水)「ピョンチャンオリンピックデイリーハイライト」(総合 後 10:50～15 日 前 0:00)の三宮恵利子さんの解説がすごく的確で感心した。なぜ小平奈緒さんがスピードスケート 1000ｍで銀メダルになったかが本当によく理解できた。新聞では「真実は第二報が連れてくる」という言葉がある。第一報が事実を伝え、第二報がその本質を示すという意味だが、生放送を第一報とすれば、今回の「デイリーハイライト」は本質を示す第二報に値すると思った。引き続き、よい解説者と共に放送してほしい。また今回、高梨沙羅さんの銅メダルに関する放送で映像の力を感じた。高梨さんの銅メダルを携帯電話への文字による通知で知り「残念だったな」と思ったが、その後、テレビで高梨さんが

笑っているのを見て、安心やうれしさを感じた。自分を含め、視聴者が求めていたのは金メダルではなく、懸命にスポーツに取り組んできた選手がにっこりと笑うことだったと思う。2020 年に向け、工夫を重ねながら、オリンピックを通じて人物を描いていってほしい。

ＮＨＫ名古屋放送局
番組審議会事務局

平成３０年１月ＮＨＫ中部地方放送番組審議会

１月のＮＨＫ中部地方放送番組審議会は、１８日(木)、ＮＨＫ名古屋放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議はまず、「年末年始印象に残った番組を中心に」というテーマで、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

その後、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、今後の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	小澤　正俊	（大同特殊鋼（株）相談役）
副委員長	小寺　功子	（三重県漁協女性部連合会会長理事）
委　　員	井口　昭久	（愛知淑徳大学健康医療科学部教授）
	稲村　修	（魚津水族館館長）
	加藤　勇二	（愛知県農業協同組合中央会専務理事）
	清川　卓二	（清川メッキ工業（株）専務取締役）
	徳田　八十吉	（徳田八十吉陶房代表）
	中村　智景	（四季料亭「助六」女将）
	長谷川明子	（日本ビオトープ管理士会中部支部会長）
	東　　惠子	（東海大学海洋学部環境社会学科教授）
	真能　秀久	（中日新聞社常務取締役）

＜放送番組一般について＞

○　１２月２８日(木)「杉田玄白のメッセージ　～新納慎也・痛快小浜紀行～」（総合　午後 6:10～6:35）を視聴した。ドラマの見どころに加え、杉田玄白が記した「養生七不可」や、小浜の料理や作り方を紹介しており、福井県小浜市の魅力を伝えるよい番組だった。小浜の料理や作り方を紹介していたので、「養生七不可」の「食」に関する教えも取り上げてもらえると、小浜と杉田玄白のつながりをもっと表現できていたと思う。小浜の特産である醤油漬けなどを紹介するシーンで、小浜の塗り箸が使われていたのだが、その点には触れていなかった。箸など、使っている物も含めて食文化だと思うので、その辺りも紹介してほしかった。

○　１月５日(金)静岡スペシャル「待ってろプロ野球！鈴木博志２０歳」を視聴した。大谷翔平選手が渡米する中で、静岡の地元の逸材として鈴木博志選手を取り上げていた。地域放送の充実のために、今後、どのようなテーマを取り上げていくのか期待したい。

○　１月５日(金)ナビゲーション「つながりの中で生きる」を視聴した。番組で登場した「のんびり村」は福祉の世界では注目されており、シンポジウムでもときどき取り上げられる施設だったが、映像で見たのは初めてで興味を引かれた。番組全体としては「のんびり村」の住民３人に密着しており三者三様の動きを通して、のんびりとした空気を表現していた。一方で、冗長なエピソードもあったので、どのような経営形態だったのかや、利用者や住民、あるいは地域の人々が、のんびり村でどのように暮らしたり過ごしたりしているのかについて時間を割いて伝えてほしかった。

○　すばらしい取り組みだとは思うが、こういった取り組みはやりたくてもなかなかできなかったりすると思う。運営の仕組み、入居者の条件、運営者の苦労など、運営側の課題を、実際に働いている方のインタビューも踏まえながら取り上げてもらえると、より理解が深まったと思う。

○　１２月１５日(金)金とく「禅　心が安らぐ神秘の世界」を視聴した。出演者のラインナップがすばらしい番組だった。福井県に長年住んでいたパックンさんの理解の深さとおもしろさ、南沢奈央さんの禅の初体験、永平寺国際部によるシンプルで分かりやすい教え、養老孟司さんの真逆からとも思える視点、それぞれが絡み合ったおもしろい番組だった。隔てなく、どれも否定せず、すべてを受け入れられる番組自体に、禅を感じた。欧米での禅の広がりや日本との捉え方の違いが説明され、日本のほうが禅の理解が浅いように感じた。観光で永平寺に行っても、宗教として捉えている人はあまりいない中、改めて禅を見つめ直すことができる番組だった。番組の最後で、「エゴを中心に生きると自分以外は分からない、自分自身を見つめると他人のことがよく分かる」という永平寺の僧侶のことばを聞き、今の日本において必要な考えが、実は禅の中にあると感じたので、もう少しそのあたりを掘り下げてほしかった。

○　１２月２４日(日)小さな旅「香箱に真心ぎゅっと～石川県　加賀市～」を視聴した。加賀市で暮らす家族を通して漁師の生活やアットホームな部分を、魚の行商で家族を養っている老人を通して親子や地域のつながりを、それぞれうまく表現していた。その中で出てきた「命の絆が行商」という言葉が印象的だった。映像もストーリー展開も大変よく、古き良き時代の雰囲気が伝わってきた。旅人の山本哲也アナウンサーも、うまく人の話を引き出していて好印象だった。高齢化問題や、地域コミュニティのあり方など、今後への不安を感じさせられる中、早朝の魚市場に登場した小学生が光っていたと思う。一方で、国際的に児童労働が問題視されている昨今、この番組を外国人が見た場合、魚市場で働いている小学生の姿がどのように映るかが気になった。あわせて１月９日(火)ニュースシブ５時「天然の魚をより安く　ヒミツは“一船買い”」を視聴した。漁師と企業の挑戦と銘打って、回転寿司チェーンが産地の漁師から直接魚を仕入れて商売している状況を紹介していた。卸売市場と産地市場がある中で、そこを飛ばすということは、管理する漁協、ひいては漁業者にとってマイナスになる部分もあるのではないか。例えば、「小さな旅」の石川県の話に当てはめた場合、登場した行商や地域のコミュニティ自体が壊れてしまうのではないか。並べてみたときに物事はいい面ばかりではないということを感じさせられた。

○　１２月２６日(火)事件の涙　Ｈｕｍａｎ　Ｃｒｏｓｓｒｏａｄｓ「死刑囚の母　息子の選択～和歌山・毒物カレー事件～」（総合 後 10:50～11:15）を視聴した。笑顔の母親と幸福そうな家族の写真が一転して、生々しい事件の映像と報道陣が家を取り囲む映像に変わるなど、主人公の人生が暗転した瞬間を上手く表現していた。テロップで「事件の影に涙がある。そして、そこには人間がいる」というシーンはよかった。また、母親を信じるべきか否かを悩んで、葛藤の末に「ぼくはお母さんの今後を見届けるよ」と主人公が母への手紙を出すシーンを取材・撮影できたのはすばらしい。加害者家族が直面する現実と苦悩に迫る、優れたドキュメントだった。

○　１２月２７日(水)さし旅「神社マニアと巡る初詣開運ツアー」（総合 後 8:15～8:42）を視聴した。指原莉乃さんが番組冒頭から、ご朱印帳をスタンプラリーみたいだと言ってみたり、参道のど真ん中を堂々と歩いたりするな

ど、いろいろなことをやっていて、番組についていけるかなと思いながら視聴した。「初詣はお願いをしない」「まずは神様にお礼をする」など、内容的には知らないことがたくさんあって勉強になった。また、初詣は氏神様へ参ってから神社へ参ることは知っていたが、そのほかに産土神社、崇敬神社に参りなさいと紹介していた。産土神社については全く知らなかったので勉強になった一方、番組内で産土神社の定義が分かりづらく、しっかり教えてほしかった。そのほか、お守りに関する紹介などもあり、タイムリーな内容で初詣にすごく参考になった番組だった。

○　１２月２８日(木)に再放送された中国王朝　よみがえる伝説「悪女たちの真実　始皇帝の母　趙姫」(ＢＳプレミアム 後 3:00～3:59) を視聴した。司馬遷の史記などでは趙姫は大変な悪女だと紹介されているが、番組では別の評価をしていた。歴史は事実や真実が必ずしも正確に語られていないのだなと改めて認識させられる番組だった。歴史書は、しばしば時の権力者の意向でいかようにも改ざん、編集されていくが、歴史の深い中国では、見解の異なる文献、史料が残っているところに感動した。それだけの歴史がある中で、今の中国には生かされているのだろうか。

○　１２月２９日(金)「朝まで！ドキュメント７２時間　２０１７」(総合 後 11:45～30 日(土) 前 4:30) を視聴した。ことし放送された中でリクエストの多かった上位１０本を放送したため、４時間４５分と長かったが、以前視聴してよかったと思っていたものが多く、一気に見ることができた。特に３位の「海が見える老人ホーム」はこんな所に巨大な老人ホームがあることへの驚きを覚えたほか、入居されている方の思いが伝わってくる内容だった。また、吹石一恵さんや山田五郎さん、鈴木おさむさんの番組に対するコメントから番組に対する愛情を感じたし、特別企画として「読む７２時間」を配信している吉田潮さんの話や、番組の主題歌を歌う松崎ナオさんのミニライブなど内容が充実していた。番組の企画を一般募集することになったこともあり、どんな「７２時間」が見られるのか、今後も本当に期待している。

○　１２月３１日(日)「第６８回ＮＨＫ紅白歌合戦」を視聴した。毎年、出演者のラインナップが話題になるが、ことしも世代的に知らない歌手や歌がたくさんあった。逆に自分の子どもたちはその歌手を知っていて、親子でお互いに教えあいながら視聴していた。出演者の歌はうまかったし、中にはサビだけ知っていた歌がどんな歌なのかを知る発見があった。昔は出演者の舞台衣装が何百万もするという前評判を聞いて、見るのを楽しみにしていたこともあったが、今回は衣装よりもバックダンサーや舞台装置がすばらしく、特に郷ひろみさんのバックで踊った高校生にはすごく驚かされた。また、ふだん見ることのできない安室奈美恵さんや桑田佳祐さんの特別出演も楽しく見る事ができた。紅組の応援に来たゲストの衣装が白色だったのが残念だった。例年よりも若い世代をターゲットにしていたようで、それ以外にも番組を楽しみにしている層がいることを意識して、番組づくりを行ってほしい。

○　「紅白歌合戦」は日本の文化のような番組なので、全員が納得するキャスティングや内容にするのは非常に難しいと思うが、日本の文化を育てるような気概を持って継続して取り組んでいってほしい。

○　この番組の強さのひとつは、生放送だと思う。生番組はテレビの未来を考えたとき重要なファクターで、これが収録だったら、見る人は減ってしまうと思う。引き続き生放送でお願いしたい。番組で印象に残ったのは、郷ひろみさんとコラボした登美丘高校のダンス部、それと欅坂４６の２つ。ネット動画の影響など、ここ数年の傾向なのだと思うが、２つとも歌謡よりダンスに比重が移っている点で印象に残った。極端に言えば、郷ひろみさんがいなくても、あのダンスはおもしろく、ダンス自体を見せるカメラワークがもっとあってもいいと思った。欅坂４６のアクシデントが衝撃的だったので、今後は対策をお願いしたい。

○　今回の目玉として安室奈美恵さんが出演されたことは大変よかったが、紹介時のＶＴＲは１１月２３日(木)に放送された「告白」で使われていたものをそのまま使っていた。膨大なＮＨＫの資料を鑑みれば、別のものを使ってほしかった。また、別のスタジオから生中継をしていたが、ふだんはライブで観客に直接見てもらいたいという思いを口にしている安室さんが、観客が

いないスタジオで歌うことに違和感があった。

○　出演している歌手は、若者に人気の人が多いためか、知らない人が多い印象を受けた。出演者については、ラインナップから出演者の顔つきまで、さまざまな情報がネットで飛び交っているのを目にしたことで、視聴率とは関係なく多くの人が注目しているコンテンツだと改めて感じた。午後８時５５分のニュースは内容が痛ましく、公共放送の使命としてしかたないものではあるが、楽しい年末のコンテンツから現実に引き戻される感じがした。郷ひろみさんとコラボした登美丘高校ダンス部のダンスは感動的だった。「あさイチ」などほかの番組にも出演していたが、今後どう活動していくのか楽しみにしている。出演者の歌唱中にスタッフが見切れることがあるのは視聴者からするとしらけてしまうので気をつけてほしい。

○　番組自体は非常におもしろかった。三山ひろしさんがけん玉で世界記録を目指したが、残念ながら失敗してしまったシーンが印象的だった。１２月２７日(水)の「ごごナマ」でもけん玉への思いを熱く伝えていたが、達成できなかったので、ぜひ来年リベンジしていただきたい。「ＬＩＦＥ」とのコラボレーションで、内村光良さん演じる三津谷ゼネラル・エグゼクティブ・プレミアム・マーベラス・ディレクターが登場するなど、紅白の本放送より前の段階からいろいろ仕掛けをしていたところにおもしろみを感じている。こういう構成が視聴者を引き付け、「紅白歌合戦」を盛り上げていくのではないか。「紅白歌合戦」は視聴率の話なども話題になるが、テレビにおける伝統芸能として、今後も続けていってほしいと思う。

○　１月１日(月)「究極ガイドＴＶ　２時間でまわる伊勢神宮」(総合 前7:20～9:19) を視聴した。三重県民が「お伊勢さん」と呼び、年に複数回行く人もいるなど、県の象徴とも言える伊勢神宮を紹介していた。番組で何度も出てきた地図はとても分かりやすく、丁寧に制作されていたと思う。内宮の宇治橋を流木から守る木よけ杭や、昔あった民家と参道の境界線として並ぶ見切り石、アワビだけを調理する建物があるなど、何度も訪れた人でも気づかないことを教えてもらえた。ほかにも、内宮・外宮にまつわるさまざまな話を聞くことができ、ナレーションの杏さんと松坂桃李さんと一緒に伊勢神宮

を歩いているような気分になることができるいい番組だった。

○　１月２日(火)ブラタモリ・新春アンコール「＃７０　京都・祇園」(総合 前10:15～11:00）を視聴した。地勢的には町の中を流れる鴨川の幅と祇園が非常に深く関係していると紹介されていた。地形的な切り口だけでなく、お茶屋の分業体制などが、祇園の発展をどのように支えてきたのかということについて興味深く見ることができた。祇園の江戸時代のにぎわいをＣＧで再現しており、料亭の位置づけなど非常に分かりやすかった。京都は幾多の戦火で昔の建物が残っていないものもあるが、歴史と文化が保存されて後世に受け継がれていくさまを、この番組が見事に表現していたと思う。

○　１月２日(月)ブラタモリ×鶴瓶の家族に乾杯　初夢スペシャル「富士山・三保松原」(総合 後7:20～8:49）を視聴した。昨年６月に放送された「鶴瓶の家族に乾杯」で、高橋一生さんをゲストに静岡市を訪ねたことがあり、静岡県民は「次は『ブラタモリ』に来てほしい」と願っていた人も多いと思う。今回はその２番組がコラボレーションすることで、どんな番組になるのか、年明けを楽しみにしていた。「初夢」をテーマに、「一富士二鷹三茄子」のルーツを紹介していたが、正月に大変ふさわしいテーマ設定だった。番組の途中で鶴瓶さんが、タモリさんの地形探索に飽きてしまい、人を求め、家族を求めて探しに出かけるというやりとりは絶妙で、見ていておもしろく、番組にコントラストを加えていた。実際に番組の中でたか匠がたかを使って実演していたが、静岡に住んでいてもなかなか見ることができないものなので、興味深かった。折戸なすを生で食べるとフルーティーに感じることを番組で初めて知ったので、一度試してみたい。静岡大学の小山真人教授が砂州である三保半島の成り立ちを砂と水を使ったミニチュアで実験したシーンは、大変分かりやすくてよかった。静岡に住んでいる方も地勢のことについては、知らないことが多いと思う。こうした地勢について知ることができるのも「ブラタモリ」ならではのものだと思う。タモリさんと別れた鶴瓶さんも、すてきな家族に出会い、そのやり取りから、いつもと変わらない鶴瓶さんならではの番組となっていた。

○　１月２日(火)「新春ＴＶ放談２０１８」(総合 後 10:55～３日(水) 前 0:13)を視聴した。民放のプロデューサーや、ネットＴＶの社長など、ＴＶ全体の新しい形を見いだそうとするいい番組だった。ネットではいろいろ試せるほか、新人を発掘し育てることもできるなど前向きな話が多い一方、地上波のテレビ局側の問題について、どう解決していくかまでは議論が及ばず、ネットの世界ならできるという話に終始していたのは残念だった。ワイドショーの話では、芸能人の不倫や浮気などの動画を撮影し、その動画を民放のテレビ局に売るという新しいビジネスモデルができていることに衝撃を受けた。また、プライベートなことをあれだけさらけ出してしまうワイドショーのあり方について、ＮＨＫはただ聞いているだけではなく、もっと積極的に議論に参加してほしかった。ワイドショーのあり方に対して危機感、主張が感じられず、少し物足りなく思った。

○　１月６日(土)タモリ×山中伸弥の「人体」(総合 後 10:30～11:00)を視聴した。平成元年に放送されたＮＨＫスペシャル「驚異の小宇宙　人体」は、臓器の役割、肝臓や消化の仕組みや心臓の働きなどが分かりやすく解説されたシリーズで、今まで放送されたＮＨＫの番組の中でもすばらしいものだと思っていたので、本番組も非常に楽しみにしていた。最先端の研究を映像技術の革新的な進歩で捉えた身体内部の映像は、ＮＨＫならではのすばらしいものだった。また、タモリさんと山中伸弥教授の自然な会話や、近江友里恵アナウンサーの新鮮な感じが良かった。山中教授の「ノーベル賞をいただいたので、何でも知っていると皆に思われているが、私は何も知らない。この番組のために２０時間も勉強した。自分でもよく医者になれたと思う」と言うあたりは好感が持てた。

○　１月７日(日)日曜美術館「桜の画家　中島千波　人間群像を描く」を視聴した。日本画家の中島千波さんが、「人間とは何か」を説き、追求しているということ、番組のガイド役にアートに造詣の深い俳優の井浦新さんが出演すると聞き、興味をもったので視聴した。日本画の大家である中島さんがなぜ自画像や人間の絵から桜を描くようになったかを紹介しており大変おもしろかった。絵を描くことで人生を追究するという、画伯の絵に対する生きざまに深く感銘を受けた。仏教用語に諸法実相という言葉があるが、番組を通し

て、人間の心を揺るがす人間模様を見事に描き出していた。

○　１月７日(日) 第５４回全国大学ラグビー選手権（総合　後 1:50～3:55)を視聴した。ＥＰＧで会場名の明記をしてほしい。６日(土)や１３日(土)のラグビー中継は記載されていたが、この日はされていなかった。また、来年はワールドカップが開催されることも踏まえ、高校野球中継時のチーム紹介のような取り組みなど、もっとラグビー全体を盛り上げていってほしい。

○　１月７日(日)ＮＨＫスペシャル　シリーズ　人体　神秘の巨大ネットワーク　第３集「“骨”が出す！　最高の若返り物質」(総合 後 9:15～10:04) を視聴した。専門用語が多く出てくるなど内容的に難解になりがちなテーマを、タモリさんと山中伸弥教授が具体例を交えながら問題点から解決方法までの流れをうまく説明しており分かりやすかった。

○　骨が記憶力と免疫力をアップさせるという部分が大変印象に残った。筋肉から出される物質が記憶力に影響を与えているという話の中で、「現在研究中で結論が出た話ではない」と山中教授がことわりをいれるなど、研究中の話と事実の線引きや問題点が客観的に分かり、見ていて安心感があった。

○　１月７日(日)プレミアムドラマ「平成細雪」を視聴した。華やかな着物姿を見られると期待して視聴した。出てくる着物は大変すばらしく、内容も、自分とはかけ離れたセレブで非現実的な社会を楽しく見ることができた。続きも楽しみで今後も視聴していきたい。

○　１月８日(月)１００分ｄｅ名著　西郷隆盛“南洲翁遺訓”　第１回「揺らぐ時代」を視聴した。西郷隆盛は政治の基本は教育と軍備と農業だということを説いた人で、農業に携わる身として興味深く視聴した。番組では西郷隆盛がどういう人だったのかを紹介していた。先見性というテーマでは、司馬遼太郎さんが西郷隆盛のことを青写真がない人だと評価していたこととは逆に、番組では藩の色合いが強く残った明治維新の中で、ビジョンをしっかり持って人々に説いていった人であると紹介していた。また、明治維新で外国の文化などいろいろな仕組みが入ってくる中、人心浮薄ということばを残し、

外国のものを安易にまねすると日本の国力が落ちてしまうぞと言った点に共感を覚えた。

○　１月１０日(水)あさイチ「子どもの授業が激変！？２０１８教育改革最前線」を視聴した。文部科学省が進めているアクティブラーニングを取り上げていた。専門家やＮＨＫの解説委員が、実際に取り組んでいる学校のいい面ばかりを取り上げており違和感をあった。うまくいかなったという視聴者の声も紹介しており、パイロット校で実施したことを全国に持っていけるのか疑問を感じた。文部科学省が改革のための改革をしようと、専門家やＮＨＫがはやし立てているだけではないかと思った。有働由美子アナウンサーが時々「いいことばっかりなんでしょうかね」とか「家庭での教育が重要と言われたけれど、親の向き合う時間はあるの」と指摘していた。いい面ばかりではなくて、問題点を取り上げることも重要だと思う。

○　今の学生は少子化の影響なのだと思うが、コミュニケーション能力が足りない。そういう点でアクティブラーニングは価値があるのではないか、という見方をしているだが、メディアには幅広い意見を集約できるようにしてほしい。有働アナウンサーは秀逸なコメントをしていた。

○　１月１０日(水)ＮＨＫスペシャルＴＯＫＹＯアスリート　プロローグ「ブレイクスルーが始まった」(総合 後 7:30～8:43) を視聴した。アスリートたちを、ＮＨＫの映像技術と専門家を交えた科学的分析で解明していた。目をみはるほどの急成長を遂げている池江璃花子選手の取材は興味深かった。日常生活のふだんのしぐさや、幼少時からのトレーニングなど、さまざまなことを紹介しつつ、世界の頂点に挑んでいる進化した肉体と繊細な技を、映像によって見せてもらうことができた。選手たちの素直な言葉を拾い集めた番組は大変魅力的だった。過去にはＮＨＫスペシャル「ミラクルボディー」などもあったが、映像による徹底した科学的解析と、心理的側面の複眼的な視点から、進化の過程を解き明かしていくという番組で、スポーツを通じて未知なるものへ遭遇、感動を覚えている。今後も東京オリンピックに向けて、ＮＨＫの４Ｋ・８Ｋをはじめとした映像技術が貢献していくことを期待している。専門家にしか分からなかった世界を可視化するなど、さまざまな分野

で役立てていってほしい。

○　番組を通して他国の選手に癖やノウハウがばれてしまうのではないかと不安を覚えるほど、詳細な解説だった。取材対象の選手にとってデメリットにならないようにしてほしい。番組としてはおもしろいので、今後も頑張って制作していただきたい。

○　１月１１日(木)クローズアップ現代＋「認知症でしばられる！？　～急増・病院での身体拘束～」を視聴した。番組では、手足や体をベッドなどに縛る身体拘束が、１０年あまりでほぼ倍増している事実を紹介していた。原因だけでなく身体拘束を軽減する取り組みまで取り上げていたため少し安心した。一方で、団塊の世代が高齢化していけば、こういった人々がさらに増えることが想定される中､行政はどう解決していくのだろうかと不安を感じている。今後も社会問題として追及していってもらいたい。

○　１月１２日(金)プレミアムカフェ　ハイビジョン特集「仏心大器　平成の仏師・大仏に挑む」を視聴した。ＢＳプレミアムらしい、長期にわたる取材・制作による熟成度が高い番組だと思った。番組では仏像づくりに自分の一生をかける人生を紹介していたが、ひとつのことに人生をかけて取り組む姿に大変感動するとともに、人それぞれの生き方や役割、それを支える信念があることを再認識した。仏像は単に仏の姿を具現化するだけではなく、人々の悩みや祈りを 1,000 年も受け止めることに役割と価値があるのだということを、匠が年を重ねるとともに理解する過程を見て、人間の成長やすばらしさを感じた。匠が全神経を集中して、仏像の怒りと慈悲を同時に彫り込む緊張した様子を、見事に撮影しており、見ている方も居ずまいが正されるようなシーンだった。このシリーズのすばらしさは、日本の文化を後世に伝えたいというＮＨＫの思いがある点だと思う。一方で後世に伝える意味では、昔の匠が大変苦労したのではないか、悩んだのではないかということを現代の匠の悩みと対比すると、より伝わったと思う。

○　１月１２日(金)にっぽんの芸能「伝心～玉三郎かぶき女方考～“京鹿子娘道成寺”」を視聴した。“現代の奇跡”“天上界の美”などさまざまに形容さ

れている坂東玉三郎さんが、自らの芸を解説するというのは、すごくぜいたくなことだと思いながら視聴した。玉三郎さんは年齢などを鑑みて、自分はどうフェードアウトしていくかということを意識されていると思う。その中で、ことばでも本でもなく、テレビという映像を使って後世に「技」と「こころ」を残したいと思ったのだとすれば、それはＮＨＫがこれまで玉三郎さんと関係性を築いてきた成果ではないか。番組では、将来の歌舞伎役者、舞台芸術を愛する人々に、歌舞伎をより楽しく見るための道しるべだと言っていた。まさにそのとおりの番組だった。歌舞伎は、大衆演劇というよりは舞台芸術の域だと思うが、そういう芸術は意味を知らないと楽しみが減ると思う。演者の動作を見て、きれいと思うだけでなく、その動作や舞踊の意味を知るとより楽しくなるという点で、わかりやすい解説がなされていた。関連して１月２日(火)「坂東玉三郎が愛した女　～越路吹雪に魅せられて～」（Ｅテレ後 9:30～10:20）を視聴した。こちらは玉三郎さんのことをより知るために視聴したが、小児マヒの後遺症や、若いときにかかったうつ病のために孤独にさいなまれる中、玉三郎さんに救いをもたらしたのが越路吹雪だったという話を、経緯も含めて初めて知ることができた。この２つの番組は、過去の映像を、新しいインタビューと新しい撮影によってきちんと解説しており、教養番組として１０年後でも２０年後でも見られる番組だと思う。

○　１月１７日(水)「究極の鮨（すし）～職人・藤本繁蔵の世界～」（ＢＳプレミアム 後 9:00～10:30）を視聴した。有名なすし職人の方に何人かお会いしたこともあるが、藤本繁蔵さんは知らなかった。すし文化にこれだけ貢献している先駆者がいたのだと驚かされた。江戸前すしの歴史の説明で、おにぎりくらいの大きさのすしが、戦後の外食制限や食糧政策によって小さくなったという話はおもしろかった。

○　大河ドラマ「西郷どん」を視聴した。オープニングの雄大な景色と音楽には本当に魅了された。２回目で、主人公がすぐ大人になっていたのには驚いたが、全体的に歴史に興味がない人でも見てみたいと思う内容になっており、今後も楽しみにしていきたい。

○　今回は林真理子さんと中園ミホさんと、原作・脚本が女性の番組なので興味をもっていた。薩摩なまりが分かりづらかったので字幕を表示して視聴していた。字幕があると、なまりも気にならず、内容もよく分かった。また、女性の原作・脚本のためか、出てくる男性のせりふや所作を通して、女性が憧れる男性像がよく表されていた。特に、島津斉彬役の渡辺謙さんは馬の手綱さばき、せりふ回しなどすばらしかった。女性ならではの番組として、今後も楽しみに視聴していきたい。

○　最初に番組を見たときは、早口の薩摩ことばで意味がよく分からなかった。字幕放送やテロップを通して理解できたが、もう少し分かりやすくてもいいと思う。番組としては、今後どういう展開になるのか楽しみにしている。渡辺謙さんの馬術やせりふ回しは、改めて役者としてのすごみを感じた。

○　ドラマ１０「マチ工場のオンナ」を視聴した。第６回と最終回がニュースを挟んで２話連続で放送していたが、少し長いと思う。いい内容だけにもったいない。毎回感動しながら、次がどうなるか楽しみに視聴していた。従業員、親子、夫婦、それぞれの絆がよく表現されていて、こんな人たちが実際にいたらいいなと感動し、自分も頑張る気持ちにさせてくれる作品だった。一方で、銀行や取引先の嫌がらせや、登場人物の名古屋弁が少し誇張されている感じを受けた。また、名古屋放送局制作で、舞台も名古屋なのだから、名古屋だと見て分かる場所がもう少し出てきてもいいのではないかと思った。

○　第４回で子どもを大事にしていると言いながら、父親が寝ている子どもを２回またぐシーンは見ていて違和感があった。また、第６回と最終回を同日に２話連続で放送したため、毎週同時間帯を録画していた視聴者は、最終回を録画できていなかった人もいたと思う。次回予告では告知していたと思うが、次回予告まで見ない人もいるので、本編の途中にことわりスーパーなどで「来週は２話連続放送です」と紹介することは難しいだろうか。

○　全話を毎回楽しく視聴していた。番組を通して、父と娘のつながりの大切さに感動するとともに、自身に置き換えて共感した。心に残る番組だった。

○　松田聖子さんの歌う主題歌「新しい明日」が、ターゲットにしているであろう４０代、５０代くらいに響くものだったし、番組内容にもマッチしていたと思う。竹中直人さんが演じる職人かたぎの勝俣の雰囲気を理解できるのは多分その４０代、５０代までではないだろうか。テレビを見ていてもあそこまで我を通そうとする人を最近はほとんど見なくなった。今回の作品も楽しかったが、次回はぜひ、次の世代に向けて「マチ工場のオンナ」のような作品ができるといいと思う。合わせて「マチ工場のオトコ」を視聴した。「マチ工場のオンナ」から派生した２分のミニ番組なのだがおもしろかった。地元のリアルな町工場で、実際にこういう方たちが働いていることが分かる内容だった。町工場というと男の人が多いイメージがある中で、この番組を通して本物の「マチ工場のオンナ」が出演していると、ドラマ本編のイメージがリンクするなど、興味深く見ることができた。

○　１月１６日(火)のＪアラートに関するＮＨＫの誤配信について、ミスは注意してほしいが、Ｊアラートに関連する報道についてＮＨＫの中で議論をしていってほしい。一例を挙げれば、ミサイルは必ずしも日本の領空を飛んでいる訳ではない。その中でＪアラートを鳴らし続けるのは、果たしてどうなのか。北朝鮮の肩を持つわけではないが、民族対立の感情に触れるような、あるいは国の対立に触れるような事柄をどう報道していくかはメディアの重要事項であり、ＮＨＫの中でも十分な議論をしてもらいたい。

（ＮＨＫ側）

操作ミスはあってはならない。Ｊアラートの報道のしかたについても、頂いた意見を踏まえ、ＮＨＫとして検討していきたい。

ＮＨＫ名古屋放送局
番組審議会事務局

平成２９年１２月ＮＨＫ中部地方放送番組審議会

１２月のＮＨＫ中部地方放送番組審議会は、２１日(木)、ＮＨＫ名古屋放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、ナビゲーション「１００キロを歩き抜く！」について説明があり、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、今後の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	小澤　正俊	（大同特殊鋼（株）相談役）
副委員長	小寺　功子	（三重県漁協女性部連合会会長理事）
委　　員	井口　昭久	（愛知淑徳大学健康医療科学部教授）
	稲村　修	（魚津水族館館長）
	加藤　勇二	（愛知県農業協同組合中央会専務理事）
	清川　卓二	（清川メッキ工業（株）専務取締役）
	徳田　八十吉	（徳田八十吉陶房代表）
	中村　智景	（四季料亭「助六」女将）
	長谷川明子	（日本ビオトープ管理士会中部支部会長）
	東　　惠子	（東海大学海洋学部環境社会学科教授）
	真能　秀久	（中日新聞社常務取締役）

＜ナビゲーション「１００キロを歩き抜く！」

１１月１７日(金)放送について＞

○　今年で２２回目を迎え、全国から1,200人も参加するという大会だが、この番組で初めて知った。100キロを歩くことの大変さは想像はしていたが、雨と寒さの中、足を引きずりながら歩く参加者の方の姿を見て、本当に大変な大会だと感じた。大野さん親子は、最初は笑顔だったが、疲れでだんだん娘の機嫌が悪くなるなど、親子の葛藤が表現されており、それをサポートする母親の優しさ、娘を思う気持ちが伝わってきた。この親子がゴールしたとき、母親の美保さんは娘さんにありがとうと伝えたのに、娘さんからはそういう言葉が一言

もなかったのは、現代の親子関係を象徴しているように思えた。また、参加者最年長の森田尚承さんは、８０歳とは思えない歩きだったが、残り１０キロで転倒してからは本当につらそうで、見ていて痛々しかった。それでも何とか頑張ってゴールしたときは感動した。また、ゴール時のインタビューで、帽子も破れ、顔にもケガをされていたため、心配になってしまった。この大会は、たくさんのボランティアの方が支えてくれている場面が多く、見ていて本当に気持ちがよかった。最終的にゴールしたのは何人だったか、一生懸命歩いている人たちをもう少し多く紹介してほしかった。３人が歩く様子を紹介する際に、時間やキロ数が丁寧に図で表わされていたが、人の名前も合わせて出せば、もっと分かりやすかったと思う。

○　冒頭の映像を見たとき、「芸能人が長距離を完走する」民放の番組を思い出した。ゴールできるだろうという結末を最初からイメージさせてしまうことで、視聴者は番組の興味を失うと思う。「ナビゲーション」は「いち早く、深く、わかりやすく、地域の課題に迫り、中部地方の社会問題や注目のトレンドを掘り下げる情報番組」と聞いているので、今回は番組コンセプトから少しずれていたように感じた。走っている人の感動のエピソードだけでなく、２２回も大会が続いている意義など、大会自体の情報など何かあったほうがコンセプトに合致したし、より感動を呼び込めたのではないか。

○　歩き抜くことで人生を変える、自分に打ち勝つ、という話をするのであれば、過去に連続して歩ききれなかった人を紹介するなど、100 キロを３０時間以内で歩くということが、どれくらい大変なのか、もう少し紹介したほうがよかったと思う。構成は、三者三様のヒューマンストーリーに仕上がっていたと思う。夜や雨の中の撮影は、かなり難しいと思うが、実際に撮った方、あるいはプロの目から見ると、技術的には満足できるレベルだったのか伺いたい。また、今回のような番組は制作人数が多いほど、たくさんのエピソードを集めることができるが、どれくらいの制作体制だったのかが気になった。

○　見ていて気持ちが揺さぶられるシーンが多かった。例えば、親子が歩きながら食事についてもめるシーンは、見ていてつらい気持ちになった。夜が明け、ゴールが近づくことで明るい気持ちになったし、８０歳の森田さんが転倒のけ

がを乗り越え完歩するシーンは、とてもいい笑顔が撮れていてよかった。出演した３組が全て完歩していたが、実際に取材したのが何組で、そのうち何組がゴールしたのかなど、取材体制が気になった。

（ＮＨＫ側）

番組で取り上げた３組をどう選んだかについて補足すると、初出場で、歩ききるのは難しいのではないかと思う方の中から、人生のドラマを背負っていそうな方をピックアップし、200 人ほど電話取材した中から選んだ。事前に３４歳の男性ディレクターがコースを実際に歩き、本人から 100 キロを歩くことの過酷さを聞いていたため、実は選んだ方々が３組とも歩ききるとは全く想像していなかった。３組それぞれに小型のデジタルビデオカメラを持ったディレクターが１人ずつ付いていたのだが、ディレクターと出演者たちが励まし合い、そこに信頼関係が生まれ、取材中は出演者に「どうですか？」とずっと話しかけ続けるため、それも応援となることで、結果的に３組とも完歩できたのではないかと思う。番組の語りにある「ガンバレ、ガンバレ、ガンバレ。」という部分は一緒に歩いたディレクターの心の叫びをコメント化したもので、番組を見た方にも気持ちが伝わったのではないか。映像に関しては、カメラマンではなくディレクターが撮影しているものなので、必ずしもきれいに撮れているとは言えない部分はあった。頭にヘッドライトを付け、それ以外は照明なしで対象に密着し、素の表情を撮影したいと思って取材に臨んだ。「ナビゲーション」は、突発的な事故や地域の課題について取り上げていくのがメインの番組だが、こうした地域の国際的なイベントも取り上げることで、より多彩に伝えていきたいという思いがある。今回のように視聴者を励ますようなテーマも随時、織り交ぜていきたい。

○　大会に参加した人たちの人間模様をうまく伝えていた。８０歳を超す高齢者、離婚した中年男性、そして会話の少ない親子を中心とした構成は分かりやすく、

最終的に幸せな気持ちになれる番組だった。また、冷たい雨が降り、肉体的に苦しい中、気力を持ち続ける姿や、過去に大会に出場した人がボランティアとしてサポートに回っている姿など、人と人のつながりや、大会の経年的な価値も表現しており、バランスがとれた番組内容だったと思う。相当前からリサーチを行い、下準備を十分に行ってきたことが伺えた。一方で、歩き終えた後の心境の変化について、ゴール直後の取材だけでなく、後日談も紹介してほしかった。紹介した３組以外にも、過去の参加者の変化や、歩ききれなかった方の思いなど、さまざまなストーリーがあると思う。「東海ピックアップ」で、担当ディレクターが見どころや夜を徹した撮影の様子を紹介していたが、制作者の意見を視聴者に伝えるのはよいことだと思う。最後に、今回歩ききった方に「テレビ撮影がなくても最後まで歩き抜けたか？」と聞いてほしかった。３組とも完歩していたが、テレビ番組では制作すること自体が与える影響もあることを心してほしい。

○　1,200 人の挑戦者を映したドキュメンタリーで、群衆とひとりひとりの人たちの映像をうまく合成した、優秀な番組だった。とりあげた３組の選択とその組み合わせが、番組に厚みと深みを作っていた。体力の限界を見極めたいとして参加した最高齢８０歳の方は、超高齢社会を生きる人たちのフロントランナーとも言えるが、さりげなく大会に参加している姿が印象的だった。高校生と母親の２人暮らしの親子は、依存心と反抗心がないまぜになっている娘を前にした母親の戸惑いや、画面には登場しない父親や兄弟のことなどを通して、どこにでもありそうな日常を感じさせた。１７歳の誕生日に新しい自分になりたいと思う娘の姿も興味を引いた。３組目の４８歳の男性は２年前に離婚しており、２人の娘のために歩くという目的があり、この男性も現代の中年の不安を表していた。ボランティアの方はみんないい表情で、その行動には優しさが感じられた。彼らの活動をもう少し取り上げてほしいと思った。大会中、親子については、娘が脚に違和感があり、母親が不安そうな顔をするシーンや、疲労から娘が不機嫌になり、母と娘の関係が危うくなるシーンなどで、思春期の女の子の感情がうまく表現されていた。８０歳の高齢者は、この方は何者なのかと思わせるほどの体力を見せており、出発前の紹介がもう少しほしくなるほどだった。残り１０キロで転倒してしまうが、人生順調なことばかりではないと思わせる展開だと思った。娘のために歩く４８歳の男性は、疲労で座り込ん

だところでスマートフォンに連絡があり、娘からの連絡かと思わせたが、実際は娘ではなく親友からの励ましのメッセージだったという展開はおもしろかった。終わりに近づくにつれて、番組に引き込まれていった。３組ともゴールし、ゴールで待ち受けている人の「お帰りなさい」という言葉で、何とも言えない優しい人間のつながりを感じる響きがあった。3組それぞれにドラマがあって、苦境を乗り越えていく姿が群像の中で感動的に捉えられていた。飾り気や説教臭さがない、感動のドキュメンタリーだった。

○　こういう大会が２２回も続いているということを知ることができてよかった。大会の舞台である、美しい三河湾の風景をもう少し映してほしかった。３組を追いかける構成は非常に分かりやすかったが、小澤隆生さんだけ印象が薄く、２組に絞ってもよかったかもしれないと思った。「ナビゲーション」という報道番組としては、もう少し情報性があるとよかったのではないか。要所で出てくるボランティアの方の言葉がとても心に響いた。特に親子が関係性に悩みながら歩く中、ボランティアの方がおっしゃった「自分は息子と一緒に歩いていてよくなりましたよ」という言葉に感動した。そういった言葉の重要さを感じさせるシーンをもう少し見せることで、より一層「視聴者の人生を応援する」番組になっていくと思う。テーマとしては「ドキュメント７２時間」でとりあげるような番組だったかもしれない。視聴者も「この番組はこういうものを見せてくれる」というモチベーションがあって視聴しているので、これまでの放送回とカラーが変わると戸惑ってしまうと思う。今後も継続的に違うカラーの番組を放送するのであれば、コンセプトをホームページなどで視聴者にしっかり打ち出してもいいのではないか。

○　視聴してすぐに、100キロを歩き抜くことで自分との闘いに打ち勝ち、自信をつけ、人生のきっかけを得ようと挑戦する人たちの番組ということは伝わってきた。自分の経験から、100キロも本当に歩けるのかと思いながら視聴した。８０歳の方への「ガンバレ」という声掛けがとても心に響いて、本当に頑張って何とか完歩してほしいという思いが伝わってくるなど、親子愛や同志愛、努力して完歩した達成感が伝わってきたよい番組だった。一方で視聴していくつか気になる点があった。1,200人歩いて何人の人が完歩できるのかという疑問は、番組を視聴しても最後までよく分からなかった。２つ目は、取材対象をど

うやってこの３人に絞ったのかという点。先ほど説明があったが、もう少し詳しく知りたい。３つ目に、大会中、シーンの切り替わりを図で紹介していたが、折り返し地点などはどこを示しているかが分かりづらかった。４つ目にこういった大会はボランティアの方が汗をかいて成功させていると思うので、もう少しボランティアの方の活動を紹介してほしかった。最後に、達成感を味わうことのできる競技や大会がたくさんある中で、この大会を選んだ理由は何だったのだろうか。

○　非常に意味のある、教育的な番組だった。番組では悪天候の中でも目標に向かって歩き抜くという、大変な大会に着目するとともに、８０歳の高齢者、離婚という人生の苦難を抱えた中年男性、親子と、人間が生きていく営みの波瀾万丈の人生模様を表現しつつ、その機微に触れており、感動した。撮影スタッフの目線の違いが状況を表現しており興味深かった。スタート時点は比較的順調に進んでいたこともあり、カメラの目線も高く画角も広い。出演者だけではなく、周囲にある三河の田園などのどかさを感じさせる風景も映っていた。ところが、疲労がたまってくる後半は、歩いている出演者たちと同じようにカメラの目線も下がり、画角も狭くなるなど、カメラマンの苦しさが伝わってきた。ゴール近辺では、三河湾の海が見えてくるなど、カメラの目線が再度上がり、カメラマンも非常に感動していることが伝わってきた。完歩に向けた３０時間で、カメラマンが競技者と同時に自らとの闘いに挑み、カメラマン自身が苦しみながら闘っていたと思い、撮影内容に感服した。大会を通して、人は何かを達成すると、すばらしい言葉が自然と出てくると感じた。若い人をはじめ、これからも人生を歩んでいく人にとって、自信につながる貴重な経験だと思う。視聴者の人生を応援したいという作り手の気持ちがしっかり伝わる番組だった

（ＮＨＫ側）

ボランティアの方については、「ナビゲーション」では放送時間の関係で少ししか触れられなかったが、１２月１０日(日)に放送した目撃！にっぽん「１００キロ歩いて」でお伝えしている。委員の皆さんが言及しているボランティアは、わざわざ北海道や新潟県など遠方から愛知県まで来ている

方がほとんどだ。彼らは過去の大会参加者で、100 キロを歩き抜いたことで自信がつき、怖かった手術を受けられたなど、人生を変えることができたことに今でも感謝している方が多く、中には１０年以上ボランティアに通っている方もいた。委員の意見を伺って、大会に思いを寄せている方々で運営されているということを、もう少しくわしく伝えるべきだったのではないかと改めて思った。当初は三河湾の美しさを紹介しようと、実はヘリコプターまでスタンバイし、夕景や朝日を収録しようと思っていたのだが、悪天候でヘリコプターは飛べず、遠景を撮影するカメラでは美しい映像を捉えられない状態のため、悪天候をデジタルカメラの粗い映像で表現する方針に切り替えた経緯がある。出場者が大会後、何が変わったのかという部分で言えば、８０歳の方は、もともと肉体の限界に挑み続けるのが好きという方で、この大会に出る前にも、フルマラソンを完走し、百名山にトライしてクリアし、今回 100 キロを完歩したので、次は世界中の大会を探してさらなる高みを目指すと話していた。親子は会話が増え、後日、娘の１７歳の誕生日のお祝いをしたのだが、本当に楽しく、今までと全く違う食卓を囲んでいるとのこと。離婚した娘さんのために歩いた中年男性は、自営業をされていて、新たな事業に取り組んでみようと思い始めることができたなど、皆さん変わったと話している。後日談についても、長期取材をしながら、何らかの形でお伝えできればいいと思っている。また、この大会は、主催しているメーカーの社員研修がきっかけで生まれ、地元ですごく愛されている大会であり、地域の人たちが手作りで作ってきたという歴史があることも含めて紹介しようと思っていたが、歩いている姿が番組としておもしろく、そこを割愛する形となってしまったため、情報性の部分が薄くなってしまったかもしれない。

○　主催者が個人名と電話番号をＮＨＫに教えているという点で、個人情報の取り扱いは大丈夫か。

（ＮＨＫ側）

個人情報については非常に厳密に取り扱った。主催する会社にディレクターがお伺いし、主催者が出場者に架電し「ＮＨＫが取材に来ているけど、電話を代わっていいか？」と聞いてもらって、相手の承諾を得たうえで取材をしている。住所や電話番号をＮＨＫが主催者から直接いただくことができない中で対応した。

○　高齢者、親子、中年男性と、取材対象はバランスのよい組み合わせだった。親子と男性は、私生活を知ることで、参加のきっかけがわかり、挑戦する理由や決意がよく理解できた。両者とも、想像を超えた動機ではない分、共感が得られた。しかし、高齢者は走る理由や目的があやふやで、ただただ限界に挑戦しているようなとらえ方だった。８０歳で 100 キロを歩くことは、大半の視聴者が想像もつかない領域であるため、高齢者の走る目的にもう少し迫ってほしかった。

＜放送番組一般について＞

○　１１月１７日(金)「ほっとイブニング」を視聴した。気象予報士の寺尾直樹さんが、津島市立高台寺小学校の子どもたちと一緒に、どか雪が降る原理のモデル実験をしていた。とても分かりやすかったし、ちょっと失敗するところがまた愛きょうがあってよかったと思う。こういうコーナーは今後も続けていってほしい。最後に子どもたちがさようならと手を振ってくれるのだが、あまりにおとなしすぎたので、元気よく「バイバイ」と声を出してもよかったと思う。何も言わずに静かに振っている様子が何となく不気味に思えた。スポーツコーナーでは、名古屋大学のアメフト部を紹介しており、女子部員が多く、その女子部員たちがコーチ的なこともやっているというのがとても新鮮だった。名古屋大学アメフト部出身の知人も番組を視聴したといっていた。こういった若い人たちの取り組みを番組で取り上げることで、テレビ離れしている若者も見てくれると思うし、大人もそういった取り組みを応援してくれると思うので、ぜひ今後も番組で取り上げていってほしい。

○　１２月２１日(木)「ほっとイブニングみえ」(総合 後6:30～7:00)を視聴した。「ほっとイブニング」からすぐ「ほっとイブニングみえ」に変わり、後ろのバックが「イブニング」のときより三重のほうがきれいでおしゃれだと思った。放送したリポートの中から好評だったものを「2017 年セレクション」として紹介していたが、その中で“イクボス”の話があった。“イクボス”は部下の育児を支援する上司のことで、三重県が全国で１番多いらしく、三重県は社員に優しい職場がいくつもあるという話を聞いて、とてもほのぼのとしてよかった。これからも、三重の各地の情報をいろいろ紹介してほしい。

○　１２月６日(水)「おはよう東海」を視聴した。静岡県の商店街で行われたコスプレイベントのニュースの中で、キャスターが「敷居が低くなる」と言っていた。「敷居が高い」という言葉はあるが「敷居が低い」という言葉はないと聞いたことがある。ＮＨＫはアクセントや用語を定期的に調査し、多数派を採用していると聞いているが、仮に間違っているのだとすれば、そういった言葉は使ってほしくない。

○　１１月２５日(土)北陸３ＳＴＯＲＩＥＳ「時をこえて」を視聴した。「山中節」など地域ならではの題材を取り扱った番組でよかった。

○　１１月２４日(金)ナビゲーション「自動車新時代　スズキの戦略は」を視聴した。今後、世界で電気自動車が増えていく中、変革を迫られている自動車会社を取り上げていた。会長のインタビューがあって、最後に解説があり、今一番やらなくてはならないことは大物経営者である会長が辞めることだというような結論が出ていた。言われた本人は怒っていると思うが、その結論でよかったのだろうか。

○　１２月３日(日)日曜Ｔｕｂｅ「躍動する大自然　奇跡の絶景ストーリー『霊峰・白山』」を視聴した。「金とく」の７３分の回のときに放送時間や取り上げる場所について申し上げたこともあり、今回は白山だけを４３分で放送するということであらためて視聴したが、よくできていたと思う。歴史のある霊峰・白山と、明治になって開山された北アルプスは基本的に違うものなので、白山に絞った今回のほうがよかった。「中部ネイチャーシリーズ」は評判が非常に

高いものなので、今後、視聴者にどう訴えるかについてよく吟味して放送してほしい。山や海だけではなく、中部地方を流れる大河なども、取り上げていってほしい。

○　１２月８日(金)ナビゲーション「ドローン墜落　～誰が安全を守るのか～」を視聴した。大垣市の印象が悪くならないだろうかと不安な気持ちだったが、今後のドローンの安全性を問う番組になっていた点がよかった。住んでいるところの近くで事故があっても、うわさでしか内容を知ることができないが、このように番組にしてもらうと、より詳細な事実が分かることを実感した。

○　１２月１０日(日)日曜Ｔｕｂｅ「サオリ祭　東京まで１０００日！吉田沙保里スポーツフェス」を視聴した。吉田沙保里さんと三重県県出身のオリンピック出場候補者の５人を迎えて、その活躍ぶりを紹介していた。吉田さんからメダル獲得に向けての心構えが伝授され、選手と会場の方とのふれあいもあり、楽しい雰囲気が番組を見ていて伝わってきた。会場となった吉田さんの名前にちなんだスポーツ施設「サオリーナ」の紹介があるともっとよかったと思う。

○　１２月１５日(金)ナビゲーション「たそがれ同居　～急増！働けない独身中高年～」を視聴した。「たそがれ同居」は初めて聞いた言葉だった。番組は親と同居している独身の方が中高年になり、片方の親が亡くなり年金収入が減少する中、将来への危機感を感じている状況や、それに対応しようとしている自治体などの実例を紹介していた。中高年の独身の不安がよく表されていたと思う。番組で紹介していた行政対応やゲストのアドバイスも大変分かりやすかった。また高齢者介護などの社会的な対応の不足を感じた。たそがれ同居に限らず、自分の親の老後をどう見ていくかという課題は今、多くの中高年に重くのしかかっている問題だと思う。子育ても同様だが、個人や家庭の問題が、今や日本の大きな社会問題となっている。今後も、今回のような貧困や社会保障といったテーマをはじめ、日本が直面する問題を総合的に扱う番組として取り組んで行ってほしい。

○　１２月１７日(日)日曜Ｔｕｂｅ「おもてなし中部 in 三重　熊野市」を視聴した。今回のように熊野の魅力を発信してもらうことで、熊野を訪れる人が増

えるなと思わせてくれる番組だった。世界遺産の熊野古道の紹介だけでなく、２０キロも続く七里御浜の紹介もあり、波が引くときに砂利が奏でる音が心地よく、いつまでも聞いていたいと思った。また、トロッコ電車で湯ノ口温泉に入り、帰りはレールマウンテンや自転車を楽しめるというのも体験したいと思わせるものだった。ただ、予約の連絡先などの情報はもう少し示してほしい。

○　１２月４日(月)～８日(金)さらさらサラダ「静岡ウィーク」と、１４日(木)、１５日(金)の「熊野」の回を視聴した。各地の特産などを紹介しており、自分が訪れる際に参考にしたい。

○　１１月１５日(水)ガッテン！「コレステロールの新常識ＳＰ　一番注意すべきはコレだ！」を視聴した。コレステロールがなぜ悪いかということに関しては実は難しい問題で、コレステロールに善玉と悪玉があるということはみんな知っているが、善玉と悪玉の違いをちゃんと説明できる人はほとんどいないと思う。テーマであるコレステロールについての説明が不十分に感じた。

○　１１月１６日(木)ニッポンぶらり鉄道旅「“ウチが一番だがね”を探して　名古屋市営地下鉄　東山線」を視聴した。東山線が全国放送でとりあげられるとは思わなかったので、驚きとともに視聴した。紹介したお店の場所は名古屋市中村区の大門にあると思うが、名古屋駅で降りるにしては遠いのではないだろうか。一般的に、民放の情報番組などでは桜通線の中村区役所のあたりのエリアとして紹介されているので、その距離感がいいのかなとも思った。とてもすてきな番組なので、今後も続けてほしい。

○　１１月２３日(木)インタビューここから「音楽家　中田ヤスタカさん」を視聴した。番組の最後で、「楽しいですか」という質問に対し、「普通に生きていて楽しかったら作らない」「つまらないと思っているからのめり込む」という趣旨の発言に共感した。

○　１１月２３日(木)安室奈美恵「告白」(総合　後 10:00～10:59) を視聴した。安室奈美恵さんはインタビューなどを受けず、コンサートでも全く話さないと聞いていたため、安室さんがどういうことを話すのか、関心を持って視聴した。

沖縄の少女が「芸能人になって有名になりたい」と上京するところからのエピソードを素直に話してくれていて、芸能界とそこで生きていく人たちのストーリーがよく描かれていた。安室さんの今後の人生を応援するとともに、「紅白歌合戦」の演出にも期待している。

○　３部構成のすばらしい番組であった。デビューから小室哲哉さんによるプロデュースでの成功、絶頂期での結婚と出産、独立し自己のスタイルを確立、最後は夢をかなえるための引退と、さまざまな人がそれぞれの立場で、安室さんの人生とリンクし、共感を得られる内容だった。母親としての安室さんの表情を見ることができたのは、他の番組ではないものだったと思う。また、引退の理由や、引退後の話を通して、今後はこれまでと違う安室さんを見ることができるのではと感じさせる番組の終わり方も良かった。

○　１１月２５日(土)ロボコン３０年「笑って笑って笑って泣いたロボコン秘話」(総合 後 11:35～翌 0:00) を視聴した。ロボコンが始まってから３０年たつことに驚きを感じた。非常にいい番組だと思い毎年視聴しているが、以前からこれまで出演した方たちのその後が気になっていたので、今回紹介してくれたのはとてもよかった。ロボット関係の仕事についている人が多かったが、特に興味深かったのが、出演時、東京大学でロボットを製作していた牛嶋裕之さんが、今は経済産業省に入ってロボット政策に携わっている点だ。実態を分かっている人が行政にいることは心強いと思うし、学生時代一生懸命やっていた人たちが今、現場の第一線で活躍していることを見られたのは、今の学生に励みになったのではないだろうか。ただ、「世界は全く救えないかもしれないが、世界が少し楽しくなるようなロボコン」というキャッチフレーズは、前半だけ断片的に聞いてしまうと、とてもネガティブに受け取れてしまう。将来のある高専の学生たちが取り組む大会であればもっとポジティブな、未来への創造性を感じるものが望ましいと思った。

○　１２月２日(土)「週刊　ニュース深読み」を視聴した。この１週間のニュースがよく整理、分析されていた。単なる報道ではなく、タイトルどおり深読みがされており、視聴者が早とちりしがちで、疑問に思いそうなことについても、うまく説明していた。番組後半ではクレーム問題について、さまざまな角度か

ら検証しており、一つの問題を深く突っ込むという点について良質な番組だった。番組でも言っていたが、一億総批判社会になっていると実感している。どの世界でも悪質なクレーマーは存在し、社会的に多大な無駄を生じさせていると思う。どう対応していくべきかをＮＨＫには切り込んでいってもらいたかった。

○　１２月２日(土)「これぞ未知の映像体験！４Ｋ・８Ｋ放送　あと１年でスタート！」(総合 前9:30～9:53) を視聴した。既存のテレビでは驚くほどの差は出ていなかったと思うが、画面を従来のハイビジョンと４Ｋ・８Ｋとで半分に分けて表示することで違いを実感できた。特に、夜間の都会の交差点を上空から映した際に、目が釘付けになった。花火の散開する色を見ても、色の表現域が広がっており、４Ｋ・８Ｋに大変期待している。今回の内容以外にも、質感や空気感、ハイスピードで動く物体についてはどう映るかなどについて紹介してほしい。また、４Ｋ・８Ｋは単に見る楽しみだけではなく、火山活動の監視や分析など、番組視聴以外にも活用できると聞いている。以前の審議会でもお伝えしたが、心臓手術での活用など「こういう使い方がある」ということを視聴者にＰＲすると、より普及していくのではないか。

○　１２月２日(土)ブラタモリ「岐阜　～岐阜は 信長が夢見た“平和の都”！？～」を視聴した。放送前から岐阜の中で話題になっており、大変楽しみにしていた。今回は、織田信長や岐阜市の良さや新しい一面が表現されていた。信長はすごく短気で融通が利かないというイメージをもっていたが、この番組で平和主義、地形が好きであるといったことが分かり、イメージが変わった。岐阜市の商店街も信長に通じていたことなど、改めて岐阜市のことがよく分かった。また、案内役のクリス・グレンさんの歯切れのいい話し方は好印象だった。タモリさんの勘や感性がすばらしく、地域の新たな一面を見せてくれるいい番組で、改めて「ブラタモリ」はタモリさんあっての番組なのだと感じた。全国に岐阜市の良さが伝わり、岐阜を訪れる人が増えることは間違いないと思わせる内容だった。

○　１２月６日(水)ガッテン！「認知症を防ぐカギ！あなたの『聴力』総チェック！」を視聴した。重い難聴の人は脳への情報が減少し、脳が萎縮するため、

難聴でない人よりも多く認知症を発症すると伝えていた。その事実は間違いないのかもしれないが、脳が萎縮したから難聴になった人もいるし、認知症だから耳が遠くなった人も混ざっていると思う。耳が遠い人は誰でもいずれ認知症になると誤解されるような言い回しは避け、耳が遠い人がみんな認知症になるわけではないということをより強く断って放送してほしい。今回は、事例について引用した雑誌を紹介していた。出典を明らかにすることは重要なことだと思うので、今後も続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

番組は、「難聴が認知症の原因になるのか」という問いかけから始まり、複数の出典から、難聴を放置すると認知症を発症する確率が上がるという研究結果が世界中で報告されていることを伝えた。番組の趣旨としては、難聴は徐々に進行していくので気が付きにくく、気が付いたときにはそのリスクが高まっている恐れがあるため注意してほしいということを伝えるものだった。言い回しに注意していたと思うが、いずれにしろ、誤解を招いてはいけないので、今後も十分注意を払うよう現場とも共有していきたい。

○　１２月７日(木)「おはよう日本」を視聴した。日本海沿岸で相次ぐ、北朝鮮のものとみられる漁船の漂流や漂着についてのリポートを放送していた。石川県の能登半島にある小木港は日本を代表するイカ釣り漁業の基地だが、北朝鮮船によるイカの違法操業により被害を受けていることを詳細に伝えていた。今後も取り上げていってほしい。

○　１２月１３日(水)探検バクモン「食べもの革命！最先端植物工場」を視聴した。日本は先進国で一番食糧自給率が低いということで、工場での食料の生産について、最先端の研究を紹介する番組だった。ＬＥＤライトを駆使したレタスの栽培のメリットを紹介していたが、実際は大企業がたくさん手がけていながら、なかなか上手くいっていない現状がある。研究者もコストが最大のリスクだと言っていたが、実際どれだけ大変なのかという客観的な事実を、もう少し具体的に取り上げるとよかった。生産者も生きていかなくてはいけないので、

国の税金などで研究をするだけでは、なかなか進展が望めないと思う。現状を打破できる、今後へつながる話がほしかった。また食料自給率の観点からすると、９月にスイスが憲法に食料安全保障を盛り込んだ。こういった取り組みについてＮＨＫでもしっかりと、日本はどうしたらいいのか、もう少し方向性を見つめた番組づくりをしていってほしい。農産物の価格が昔から全く変わらず、種類によっては下がっているものもある中、研究を行っても、職業としては成り立たないという現実を伝えないのは残念だ。最先端の取り組みをひとつのあり方として紹介するのもいいが、農業は本来、農産物を作るだけではなく、地域や文化、生態系、いろいろなものが噛み合わさって成り立っている。今後はそういった部分を紹介する番組を作ってほしい。

○　１２月１５日(金)先読み！夕方ニュース「特集ＡＩ・人工知能が変える戦場」を聴取した。世界的に核兵器の廃絶や軍縮が声高に叫ばれている中、ＡＩを搭載した武器の開発が進んでいることについて、賛成派、反対派の意見を紹介しながら、その脅威について語っていた。２５分間の深いトークで、今後起こりうることへの恐怖感がよく伝わってきた。映像のないラジオらしさを感じる良い番組だった。ＡＩを搭載した軍事用ロボットについて、賛成派は兵士の人的被害が減ると主張していたが、実態は戦争を助長する技術開発である上、テロをはじめとする現代の紛争では役に立たないと感じた。日本は、軍事的なロボットやＡＩの開発はしないと言っているが、科学技術の進歩と戦争の関係を切り離して考えるのではなく、むしろ、それを制御する方法も向上させないといけないと思った。開発が進む現実に対応できていないということも紹介されていた。ＳＦで語られていたことが実際に行われつつあるようで、人類の滅亡までのカウントダウンを感じさせられる番組だった。ＮＨＫは、今後もこれを深く、そして広く伝えていってもらいたい。

○　１２月１６日(土)ＮＨＫドキュメンタリー「田部井淳子　人生のしまいかた」(総合 後 5:10～5:59)を視聴した。田部井さんの名前は知っていたが、これほどすばらしい女性だとは知らなかった。彼女は晩年、がんと闘いながらも、若い人たちに、持って生まれた歩ける足を使って、自分の目で、肌で感じるなど、体験を積み重ねてほしいという願いがあった。５年前から、福島県出身であることもあり、被災地の東北の高校生と一緒に富士山に登っている様子が映され

ていた。５回目になる去年の富士登山は、がんの症状が悪化し、脚に力が入らない中でも高校生と一緒に七合目まで登り、体力の限界の中、登ってくる高校生に笑顔で声をかける田部井さんの精神力には本当に感服した。田部井さんをいつも横で支えていたご主人の深い愛情があってこそ、5年間こうして頑張ってこられた活動だと、番組を見て強く思った。最後まで富士山のことを心配して田部井さんは亡くなったが、「一歩一歩を積み重ねた結果、頂上が待っている」という田部井さんの言葉の下、今年も６回目の富士登山が無事に行われたのは、本当によかったと思う。今後も、田部井さんの遺志を引き継ぎ、継続していってほしい。5年前に登った方がその後どんな人生を歩んでいるのかを聞いてみたかった

○　１２月１６日(土)「有村架純　カナダ大自然の旅」(総合　後 7:30～8:45)を視聴した。最初にナイアガラの滝を紹介したが、有村架純さんの「本当に地球はすごいな」という言葉で、自分が現地を訪れたときに、大きさと水量に本当に驚いた記憶が呼び起こされた。番組では９０種類もの同じ魚が滝の上と下で生息し、滝を渡っていることを紹介しており、その事実に驚いた。メイプルシロップの紹介では工場見学だけでなく、砂糖が輸入しにくくなったとき、地域の生き残りのために生まれた産物だという歴史的な経過も紹介され、とても勉強になった。番組全般において、有村さんの表情が明るく、途中のクランベリー農家の方々も本当に明るい顔で接していて好印象だった。今回紹介した場所以外にも大自然はたくさんあるので、またいい旅番組を作ってもらいたい。

○　１２月１８日(月) ＮＨＫスペシャル「時間が止まった私　えん罪が奪った７３５２日」(総合 後 10:00～10:49)を視聴した。現在報道されているように、滋賀県の看護助手の事件で再審開始が決まったこともあり、関心を持って視聴した。ここまで取材できる関係性を構築するまでに、ディレクターの相当の努力がうかがえるものだった。番組で取り上げた事件は、刑事に言われるまま自白調書を書いてしまう、ハンコを押してしまうということから始まるのだが、これを翻すのは本当に大変だということがよく分かった。釈放されてからも人間関係ができずに家族とほとんど絶縁状態になっていたことや、職業の問題でも２０年の空白がネックになっていること、母親が行方不明後に水死体で見つかるという事件が起きたこと、そしてそれを機に家族が絆を回復していくとい

う姿など、人生の曲折が本当にうまく描かれており、秀作だと思った。

○　ＮＨＫドラマ１０「マチ工場のオンナ」を視聴した。父親が亡くなり、倒産寸前の父の会社を立て直していく女性のストーリーだが、主人公と同世代の女性や、世代は離れていても、働いている女性に共感してもらえるストーリーではないかと思う。これからどうなっていくのか、最終回に向けて期待している。

○　ＮＨＫドラマ１０「マチ工場のオンナ」を毎回楽しく視聴している。物語はおもしろく、俳優たちもそれぞれに名演技で楽しい番組だ。ストーリーの展開もテンポも大変いいと思うが１点指摘したい。初回に舘ひろしさんが演じる父親が病院を受診するが、結果を主人公に伝える際に、医者が余命を４日と伝え、実際に４日後に亡くなるシーンがあるが、これは現実とかけ離れていると思う。肺がん末期の患者であっても、歩いて病院に行った患者が４日で死ぬと予測する医者はいないし、その予測どおり４日後に正確に死ぬことも実際には考えられない。フィクションの世界の話とはいえ、こういう展開は、医療について少しでも知っている人はしらけた感じを持ってしまう。

○　大河ドラマ「おんな城主　直虎」を視聴した。最終回まで視聴し感動した。１１月１９日(日)の回で直虎が万千代に思いを託すシーンのカメラワークがすばらしかった。万千代と直虎の背中を合わせて、重ねて撮るシーンは、直虎の気持ちを万千代に託したことを言葉だけでなく映像で見せるところが良い演出だと思った。一方で、直虎に限らず「大河ドラマ」の演出は、明るさと暗さ、陰と陽を必要以上に強調することもあり、白々しく思えてしまうこともある。

ＮＨＫ名古屋放送局
番組審議会事務局

平成２９年１１月ＮＨＫ中部地方放送番組審議会

１１月のＮＨＫ中部地方放送番組審議会は、１６日(木)、ＮＨＫ名古屋放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、日曜Ｔｕｂｅ「多様性一家が問う！　ニンゲン界は今　幸せですか？」について説明があり、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、今後の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	小澤　正俊	（大同特殊鋼（株）相談役）
副委員長	小寺　功子	（三重県漁協女性部連合会会長理事）
委　　員	井口　昭久	（愛知淑徳大学健康医療科学部教授）
	稲村　修	（魚津水族館館長）
	加藤　勇二	（愛知県農業協同組合中央会専務理事）
	清川　卓二	（清川メッキ工業（株）専務取締役）
	徳田　八十吉	（徳田八十吉陶房代表）
	中村　智景	（四季料亭「助六」女将）
	長谷川明子	（日本ビオトープ管理士会中部支部会長）
	東　　惠子	（東海大学海洋学部環境社会学科教授）
	真能　秀久	（中日新聞社常務取締役）

＜日曜Ｔｕｂｅ「多様性一家が問う！　ニンゲン界は今　幸せですか？」
１０月２２日（日）放送について＞

○　カモシカやライチョウなどの着ぐるみを使った意図などがわかりにくく、富山放送局で展開する多様性キャンペーンの関連番組であることや、黒部に伝わる伝説をベースにした設定であることなど、もう少し分かりやすく説明してほしかった。異文化、性、結婚・妊娠など、自分を含む大多数とは少し違うマイノリティや多様性について考えさせられる内容であり、性的マイノリティが２０人に１人という統計結果や、富山の高校で結婚支援や出産についての教材が

作られていることに驚くとともに世の中の変化を感じた。多数派や少数派といった見方ではなく、人それぞれに個性があり、それを大事にするべきであること、心を開いて挨拶することをきっかけに自分以外の存在を認め合うことが重要だと思う。そうすることで苦しんでいる人が救われるのではないだろうか。

○　着ぐるみを使いながら、カモシカ、ライチョウという日本固有の生き物にアユという比較的身近な生き物を加えることで多様性を表現しつつ、人間の話に落とし込んでいく構成は分かりやすかった。ただ、動画投稿サイトなどで使われるような、たくさんの文字が左右に流れていく演出は、若年層に身近なものにしたかったのだと思うが、読みづらかった。番組では３つのテーマを紹介していたが、１つ目の異文化の話は、少数派の側には、代弁者や多数派との間に入ってくれるコミュニティなどが必要なことがよく分かった。２つ目のマイノリティの話は、マイノリティ、マジョリティと普段から使われている言葉の意味をきちんと解説していたところが非常によかった。また、３番目の結婚・妊娠の話で、さまざまな視点を持つことが大切であることと、自己肯定の必要性に言及しているところがよかった。最後にコスモちゃんが人間界に降りてくるときの生年月日が放送日の番組終了時刻である１０月２２日１３時　４８分だったり、体重が 3,739 グラムで「ミナサンサンキュー」だったりという演出は粋な終わり方だった。

○　現代社会全体の課題である、異文化の壁、性への偏見、結婚・出産の３つのテーマについて事例を紹介しつつ、地方都市である富山で市民参加型の番組を制作したことは意義があると思う。すぐに解決はしなくても、視聴者へ発信していくことで徐々に浸透していくのではないか。富山大学の林 夏生准教授が提示した多様性が受け入れられた理想的な社会の姿と、学生の素直な気持ちの発言から、理想と現代社会のギャップが明確に表現されていた。家族であれ、組織であれ、地域コミュニティでは、マジョリティ・マイノリティの区別ではなく、ひとりひとりの個としての容認や、お互いを尊重し、相互理解が不可欠であるということが実感できる番組だった。今回は複数の大学生と一緒に視聴する機会があったのだが、自分も学生も、ニホンカモシカ、ライチョウ、アユ、イワナの家族に産まれた人間の赤ちゃんを人間界へ送り出すという番組の導入部分は、インパクトが大きく困惑した。学生からは「性的マイノリティの方

が自分を持って生きているため、自然に受け入れられるし、個としての偽りない存在感を感じる。」「男性として働き、女性の自分を認めて理解してほしいという受け身の姿勢では、周りから理解されづらいと思う。」「自分に似合ったファッションであれば、男性が女性の格好をしていても違和感はない」などさまざまな意見が出ていた。最初にインパクトがあった着ぐるみに関しても、制作者である清河北斗さんのブログを見て、作品のリアリティなどを感じてからは作品に対する尊敬に変わった。川で溺れそうになったときの話を通して、着ぐるみの多様性一家が人間界の守護神を表現していたことに気づき、番組演出の意味が理解できた。多様性への問題提起は、ＮＨＫでしか制作できない、大変チャレンジングな番組だった。番組を通して個を尊重することへの理解が広がり、それぞれが自分らしい人生を築けるようになればいいと思う。

○　着ぐるみの表情や手の動きなど、ちょっとぎこちないが見ていてかわいらしく、動きも面白いので、興味深く見始めた。番組では多様性について取り上げていたが、自分の留学時代の経験や、女性が社会で生きていく中で「女だてらに、女のくせに」といわれたことを思い出し、マイノリティへの説明に共感できるものがあった。また、女性の結婚・出産に対する考え方などが、時代と共に変わっていることを感じさせる番組だった。人は、若いときはさまざまな事に悩み苦しむが、年を重ねていく中で自分を認めていくことができるのではないかと思っている。出演者の「全員マイノリティなのだ、誰一人、弱い部分を持っていない人などいないのだ」という言葉はすごく心に残った。

○　非常に難しいテーマを、伝説を基に親しみやすく、深刻になりすぎない程度にまとめていた。取り上げていた内容は、現代だけではなく、何千年も続いているようなことだと思う。自分たちのＤＮＡや子孫を残すことが生物の生きる目的であるとすれば、異文化の壁、性への偏見、結婚・妊娠への重圧は、自然の流れでもあると思う。しかし番組からは、多様性が必要という前提で話が進んだため、現代社会において多様性がなぜ必要かがあまり伝わってこず、番組の趣旨を理解できないまま、番組の中盤まで見ていた。マイノリティや外国人という要素に関係なく、人間はプレッシャーの中で生きており、どんな人でも、その中で何かを得たり、諦めたりしながら生きていると思う。マイノリティや外国人に対するものだけを偏見あるいは差別として扱っていること自体が、

時代に追いついてないように感じられた。また林准教授も、前半は「社会の仕組みが追いついていない」「周りが認め合う」「周りの理解が必要である」というコメントが多く、解決につながる話がなかった。自分は変われても人を変えることは非常に難しいことだと思うので、少し残念だった。しかし番組の後半で、看護師のメグミさんの言葉から、自分の中での偏見、差別をなくすことが周りも変えていくのだということが伝わり、非常に納得できるものであった。

（ＮＨＫ側）

着ぐるみの演出は入局２年目のディレクターの発案で、美術作家の清河さんの作品である「黒部多様性一家」を題材としている。ほかの若手ディレクターたちからも支持があり、幅広い年代への訴求を目指したこと、深刻な話題を深刻に見せるのではなく、エンターテインメントとして見せようと思ったことから、今回の演出を採用した。一方で、設定が非常に複雑な中、導入部分で番組に合わせて説明するのが難しく、エンターテインメントといっても、ポピュラーで受けいれやすいものではなく、シュールで、違和感から入るという演出を選んだため、委員からのご意見だけでなく、モニターリポートも賛否両論となった。

○　宇奈月温泉に飾ってある清河さんの「黒部多様性一家」を使った芝居ふうの舞台設定は、ユニークであり、楽しかった。作品を知っている人間は違和感なく見ることができたと思う。また、異文化の壁、性への偏見、結婚・妊娠のプレッシャーという難しいテーマを、閉鎖性が高いと言っても過言でない富山県で作ったことは、非常に高く評価しており、実例を挙げて丁寧に作った制作者と関係者には、敬意を表したい。番組で、出演した方が、結婚・妊娠のプレッシャーを感じ「社会に申し訳ない」と言っているのを聞いたとき、家庭や地域などの教育に大きな問題があるのではないかと感じた。すでに固定観念を持っている人を変えるのは難しいが、若い人たちへの教育につながるような番組を作っていってほしい。また、最近発達障害などマイノリティに関しての番組がたくさんあるが、従来からさまざまな視点、多様性は存在したし、その軽重の付け方は時代や地域で変化していた。ある意味でマジョリティやマイノリティ

が生じるのは必然だと思う。ＮＨＫには番組制作にあたり、現代のマイノリティの理解促進以外の視点ももってもらいたい。

○　二ホンカモシカ、ライチョウ、イワナ、アユの家族という設定に違和感があり、その違和感は最後まで消えなかった。多様性を語る上で、家族の設定にもう少し工夫が必要だったのではないかと思う。最初の人種の問題では、お互いの文化の違いを理解するのが共存の始まりであるという結論だった。人種問題は昔から大きな問題だが、アメリカなど多民族国家で社会に適応するのはそれほど難しくなく、むしろ海外から日本の社会に適応しようとするときのほうが難しい。それは日本が、外国人だけでなく異質なものを排除したがる国民性があるからだと思うので、その点についてもう少し触れてほしかった。また、最初から多様性を認めようという前提で番組が進行しており、なぜ多様性を認めなくてはいけないのか、なぜ外国人を差別してはいけないのかということを、きちんと伝えてほしかった。２つ目の性への偏見についての座談会は、同性愛者と知り合う中で相手を理解するようになったという、学生の若々しさを感じる話や、同性愛者の方の「自分自身にも偏見があることに気がついた」という本質を鋭くついた話もあったが、性の偏見への理解という本質からは少し離れていたように感じた。また、Ｘジェンダーは、体は男性で、心は時に男性、時に女性と説明していたが、これだけでは不思議な人がいるものだという興味本位で終わってしまい、差別意識を助長してしまうことになりかねないので表現には気を付けてほしい。性的マイノリティが２０人に１人いるという話や、同性愛の分類は勉強になった。３つ目に結婚・妊娠の問題もあったが、これは個人が個人であるということとどれほど大きな差があるのかということをもう少し掘り下げてほしかった。番組として、外国人差別、同性愛者、結婚・妊娠の問題を積み重ねていたが、多様性とは何か、壁とは何かという掘り下げが浅い印象を受けた。

○　多様性に対する掘り下げ方が浅かったというのが結論だが、多様性という難しいテーマを正面から扱う気概を感じた。番組は全体的にコンテが練られていない印象を受けた。番組を通して、先に３つのテーマでやることを前提にエピソードをつないだように見えてしまう。取材を進めるなかで掘り起こした新しい事実を取り入れながら、テーマを練り直す作業も行うことで、内容をもっと

掘り下げていってほしい。どうして人はマジョリティの側にいたがるのか、異端少数派の人たちをなぜはじこうとするのか、これは人間の本質なのか、あるいは日本の社会のありようなのかというような疑問を、はじく側、はじかれる側の双方から、感情面から解説することで理解が深まると思う。また、着ぐるみの演出は、多様性の象徴性を訴えることはできたかと思うが、一方でリアリティを薄めているようにも思った。

○　異文化の壁、性への偏見、結婚・妊娠のプレッシャーという現代社会の３つの課題を取り上げていたのはとてもよかった。また、各テーマの問題や解決策が大変具体的だった。各テーマのＶＴＲでスポットを当てた方がスタジオパートにも出演したことや、富山大学の林准教授の話など、共感しながら見ることができた。気になる部分が３つあり、１つ目は冒頭の演出について。番組開始時点で、多様性一家の家族構成から効果音付きのポーズをとる演出まで、「黒部多様性一家」の設定を知らない人にとってはこじつけを感じたり、テーマからかけ離れた印象を受けたりするものだった。２つ目は、番組で取り上げた３つのテーマはどこでもあることなので、黒部地区と何の関係があるのかがわからなかった。最後は番組タイトルについてだが、「多様性」というあまり聞かない言葉であるため、番組に入りづらい上、わが事として捉えづらくなっている。「多様性」について知らない人向けに番組冒頭で説明したり、サブタイトルで３つのテーマが分かるようにしたりするなど、視聴者が見ようと思える工夫をしてほしい。

○　このタイトルだったら見ようとは思わなかった。カモシカやライチョウが登場する冒頭に衝撃を受けながら、最後まで見ると中味の濃い考えさせられる番組だった。異文化の壁は大きく、アリさんの「日本人が何を言っているか分からないから怒ったようになってしまう」という発言から、言葉の壁がきっかけとなることが分かったし、この番組だけで解決できる問題ではない。アリさんのように挨拶を大切にし、自ら受け入れてもらいたいという気持ちを出しながら交流している人は本当にごく一部だと思う。アリさんの奥さんが座談会に来ていなかった事や、ほかのパキスタン人の発言がなかった事から問題の深刻さを感じ、トラブルが減少しているという行政の話に疑いを持ってしまった。２つ目のテーマの性への偏見については、性的マイノリティが２０人に１人いる

話は本当に驚いた。性への偏見をなくすために開いている「やわカフェ」でXジェンダーのアカネさんが言った「本当の自分を隠すつらさを分かってほしい」や、「性的マイノリティとして理解するのではなくて、ひとりの人間として理解してほしい」という言葉は、本当に心に残るものだった。性的マイノリティがどんなに苦しみながら過ごしていたのかがよく分かる番組だった。3つ目の結婚・妊娠については、結婚して子どもを産むのが当たり前という考えは今も根強く残っており、特に田舎ほど強いと思うし、悩んでいる人も多い。その中で林准教授の分かりやすい助言はこの番組にとって必要だったと思う。お父さん役の声を担当した奥田瑛二さんの声が心地よかった。

○　オープニングから設定が分かりにくかったが、多様性の問題点や課題、対応策など、難しいテーマを、地方の富山放送局が取り組んだことには敬意を表したい。多様性は富山だけの話ではなく、先進とされる欧米でも未だに解決していない。人間だけでなくサルなど動物の世界でも生じているほどで、人種に起因する問題は世界中で発生している。継続的に番組を制作していくのであれば、演出などで奇をてらうことなく、きちんとテーマを深掘りし、人間としてどうすべきかを伝えていくことが、意味のあるものになると思う。また富山県は、富山市を中心にし、南北を逆さにした日本地図を作っていたり、富山空港には地域性を考慮して日本語だけでなくロシア語の案内があったりするなど、グローバルな視点を持っている地域だと思う。地域発の番組として地域独自の視点を持ちつつ制作してほしい。今後に期待したい。

（ＮＨＫ側）

番組の掘り下げが浅いというご指摘は真摯（しんし）に受け止めたい。富山県の閉鎖性についてお話があったが、富山県には古き良き日本、共同体が残っていると思う。隣近所への気遣いを忘れない一方で、同じ生き方をしていない人に対してはやや理解が足りない。そんな閉鎖性への反発心から東京に出ていってしまう若者がいるのが今の富山県だと思う。富山放送局は、そうした地域の問題に向き合うために多様性キャンペーンを行い、今回の番組を制作した。特に結婚・妊娠など話しづらいテーマの中、出演して

くれた方々には本当に感謝している。日本から海外へ行くより、海外から日本へ来るほうが溶け込みづらいといった日本の特殊性や、マイノリティだけではなくマジョリティ側の問題など、今後もキャンペーンを通して、さまざまな角度から、多様性について深めていく。

＜放送番組一般について＞

○　「ほっとイブニングぎふ」を視聴した。１０月２４日(火)は、大垣ミナモソフトボールクラブが２部リーグで優勝し、1部リーグに昇格したことを番組冒頭で紹介していた。キャスターが笑顔で「うれしいニュースが入ってきました」と話していたシーンはリアリティがあった。見ている側もうれしくなるし、地元の新しいニュースが瞬時に入っていることはすばらしいと思う。１０月２５日(水)も静岡で行われた試合結果を伝えており、行けなかった地元の人はチームの様子がよく分かってよかったと思う。地元の大垣ケーブルテレビの映像を使って、朝早くから応援に向かう関係者やファンの様子、選手や監督のインタビューなど、地元に密着し、よく取り上げていた。１０月２７日（金）には岐阜県知事に報告に行く選手の様子を取り上げているなど、総じて地元のことがよく分かるいい番組だと思う。

○　「ニュースザウルスふくい」を１１月６日(月)から１１月１０日(金)まで１週間視聴した。地元にこだわる取材が満載で、季節感や地域感がよく分かる内容だった。特に１１月６日は越前がに漁の解禁日だったが、３日間にわたりニュースやリポートで、競りや漁などの情報や、地元の人がどれだけ期待しているかが紹介されていた。また、６日から９日まで毎日子どもに関連したニュースがあり、保育園から大学まで幅広く取り上げていた。放送を通して福井県の教育の源を作っているように感じられた。週末のおでかけ情報として福井以外の北陸の情報があることもよかった。番組内の「いま本」という特集で紹介していた本が、ベストセラーにはならないような隠れた名作だった。ＮＨＫらしいこだわりで、著者にもインタビューしており、いい内容だった。週間ベストセラーの紹介もあったが、インターネットでも調べられるような内容はＮＨＫはやらなくてもいいのではないかと思う。スポーツコーナーでは、画面の切り替わりでアナウンサーの手が映るのが気になった。映さないか、上半身

を全部映すなどしないと、非常に中途半端で、見ていて違和感があった。番組のセットに「福井ザウルス」とローマ字で書いてあるのだが、アナウンサーの陰に隠れているため、１週間で一度も「福井ザウルス」全体を見ることが出来なかった。位置を変えるなり、ロゴの配置を変えるなりしたほうがいいのではないかと思う。

○　１０月２０日(金)金とく　中部ネイチャーシリーズ「伊豆半島と能登半島～潮流が生んだ奇跡の絶景旅～」を視聴した。自然の紹介という点では申し分ない番組だった。ただ、真っ青な海の中で、比較対象が何もない中で魚を映したり、魚の大小にかかわらずアップで画面に映したりしていたため、サイズ感が伝わらなかった。比較対象や目盛りなどを入れてもらえるとわかりやすいと思う。

○　富山湾と駿河湾の海岸風景や深海の様子を見ることができ、ここにしかいない海洋生物の織りなす神秘に魅了された。絶景である海底の成り立ちをＣＧで説明していたことで、より理解が深まった。伊豆半島の神子元島では、世界でも珍しい絶滅危惧種のハンマーヘッド・シャークの群れである「ハンマーリバー」を見ることができ、撮影するまでの苦労を聞いてみたいと思うくらいすばらしい映像だった。

○　伊豆半島、能登半島の映像はすばらしく、視聴者の「行ってみたい」に応える番組だった。一方、映像の重厚さと比べ、ゲストの発言が軽い印象だった。番組内で「大きい」と言っていたが、海の中でサイズ感が分からないこともあり、群れが大きいのか、個体が大きいのか伝わりづらい部分があった。

○　日本海の富山湾、太平洋の駿河湾を比較したのはよい視点だと思う。能登の海藻や地味な魚と色鮮やかな伊豆の魚との対比や、海底や半島の地形や地質の違いなど興味深く見ることができた。番組の最後には神子元島で赤シュモクザメの大群が泳ぐハンマーリバーの撮影に成功しており、制作時間が短い中で、うまく作られていた。旅人も語りもよく、画像も美しい、全体的によい番組だった。一方で、簡単な魚の名前を間違えたり、イソギンチャクを海藻としていたりと、明確な誤りが多く、どのように生物名を確認したのか疑問に思った。番

組に協力してくれている水族館などに確認を依頼すればいいのではないか。ブリの若魚のことを、能登半島では「ハマチ」、伊豆半島では「ワラサ」と呼んでいたが、ブリの紹介もなく、地域によって呼び名が異なることに一切触れていないのは違和感があった。加えて、「ハマチ」は能登半島では「ガンド」という歴史的に別の呼び名があることもあり、歴史的な文化を否定しているようにも感じられた。また、ハンマーリバーになかなか出会えない一因として、今年発生した黒潮の大蛇行を取り上げていたが、出会えた後に大蛇行がどうなったのか全く触れておらず、ラストを盛り上げるための手段でしかなかったのかと、作為的な番組の流れを感じた。番組構成上の調整は必要だが、番組のベースとなる歴史や文化、科学的視点が重要で、それがＮＨＫの信頼の礎であると思う。シリーズ全体を通して「奇跡」という言葉を多く使いすぎていることも気になった。

（ＮＨＫ側）

生物名に間違いがあった点については私たちも把握しており、制作にあたって詰めが甘かったということに尽きると思っている。ご協力いただいた方にご迷惑をかけてしまったことは、心からお詫び申し上げたい。ご指摘いただいたことについて改めて調べ直して、今後放送が予定されているものについては再度チェックを行う。

○　「ハマチ」は関西の言葉で、北陸で「ハマチ」と言うのは本来魚津周辺だけだ。ただ現在は、魚屋などでお客さんに「ハマチ」と言わないと売れないため、ほかの地域でも使われている。富山で取れたものを東京に売るときには「ワラサ」という名前で売っている。どちらを取るかということではなく、新しい文化を伝えていくのであれば、歴史的な変遷もきちんと調べた上で、その変遷も併せて伝えていってほしいと思う。

○　ネイチャーシリーズは人気番組でもあり、正確を期すという意味で、チェックをする専門家がいたほうがいいのではないか。

○　ディレクター個人の問題ではなく、地域放送局の弱体化を懸念している。東

京や名古屋からちょっと出張してきた人が取材しても、なかなか撮影できないものもある。また地域放送局の方は異動でどんどん代わってしまい、地域のことに詳しい、もしくは自分が詳しくなくてもここへ行って、この人に聞けばよいというようなことを理解している人が、地域局からいなくなってしまう。地域放送局を強化するのであれば、金銭面だけではなく、人員配置なども配慮していただければ、地域の情報の質が上がりやすくなるのではないか。今回、特に制作期間が短かったと聞いており、大変さは理解している

（ＮＨＫ側）

重要なご指摘をいただき感謝を申し上げる。ご指摘を真摯に受け止め、共有していきたい。今回の番組に限らず、大切なのは間違いを起こさないように、何重もの確認をすることだ。これはどの番組でも同じであり、公共放送の信頼性を担保するものであるので、きちんと対応していきたい。 万が一、間違ってしまったときにどうするかという点で、例えばニュースでは訂正を出している。生放送中に対応できれば生放送中に出すし、再放送に間に合えばそこを修正して出す。また、ご指摘いただいたようなことがあった場合、それを該当放送局や制作者に限定することなく、ＮＨＫ全体で検証し情報共有を図る仕組みがある。今回のご指摘も検証、共有し、間違いを起こさないようにしていくのが肝要だと思っている。

○　番組冒頭の石川県の千里浜海岸を見て、現地を訪れた時の感動がよみがえり、この後どのような感動を見せてくれるのかと期待しながら視聴した。春の富山湾でしか見られない、ホタルイカが青い光を出す幻想的な情景や、能登島の珍しい海藻やニジギンポの卵が貝殻の中からふ化する瞬間の貴重な映像などが見られ、とてもよかった。旅人のＡＫＢ４８の大家志津香さんの案内で、美しい日本海を堪能させてもらった。南伊豆は、太平洋を思わせる熱帯の色鮮やかな魚を、美しい音楽とともにいつまでも見ていたいと思わせる海だった。神子元島でのハンマーヘッド・シャークのシーンは、旅人の品川祐さんよりもガイドのほうが喜んでいるように見えたので、旅人にはもっと感動をコメントなど

で表現してほしいと思った。最後に大家さんが言った「海は、陸で生きている自分たちにとっては、ちょっと違った世界。ひとつの地球に２つの世界があるのは神秘的。改めて海ってすばらしい」という言葉は、美しい海を守り続けていかなければいけないと強く思わせるうれしいコメントだった。

○　１０月２２日(日)ナビゲーション・選「石碑は警告する　～南海トラフ大津波　先人たちの記録～」を視聴した。南海トラフ地震の記録が石碑や痕跡として 300 以上も三重県に残されていることを、初めて知った。三重県の地震に関する石碑を調査している三重県立伊勢まなび高校の新田康二先生が、鳥羽にあるお寺に国の想定を上回る２３メートルの津波が 1854 年の安政東海地震のときに来ていたという石碑を見つけていた。地元の先人たちが残してくれた教訓を若い人たちに伝え、津波に対する対策を一緒に考える新田さんの活動はすばらしい。海の近くに住む人も改めて津波の恐ろしさを認識することができた番組だった。

○　１１月１２日(日)日曜Ｔｕｂｅ「おもてなし中部ｉｎ静岡　沼津市」これまでの放送回と同様に、現地の名産など、さまざまなものを紹介していたが、自分が沼津を知っているためか、物足りない内容だった。番組ではユーチューバーが取り上げるスポットしか紹介されていないので、その土地の成り立ちや多くの文豪が愛した歴史的背景などを伝えることで番組に奥行きがでると思う。次回があれば、紹介の仕方を考えてほしいと思った。

○　干物を知っているかという質問に「着物なら知ってる」と答えるなど、外国人ユーチューバーをゲストに迎えることで日本文化への理解や感性の違いなどが表れており、おもしろかった。

○　１０月２５日(水)ガッテン！「ビタミンＣ＆食物繊維！レンコンが信じられないほど美味になる」を視聴した。３節に分かれたレンコンを長男、次男、三男と名付けたことで、その後の番組がとても分かりやすかった。それぞれの特徴がよく分かるいい番組だった。特に実際にレンコンを掘り上げて、根っこが伸びる説明をした点や、空気を吹きかける実験はおもしろく分かりやすい。今後もこういう番組を続けていただきたい。

○　１０月２９日(日)目撃！にっぽん「認知症でも　笑顔のままで」を視聴した。一度放送されたものの拡大版だったが、かなりブラッシュアップされた印象を受けた。家族が見せる表情を多く取り入れたことで、その家族が抱える物語に焦点があたり、番組の構成がよくなっていた。常に不安と隣り合わせでいる中で、けなげなことを言う患者や、それを支えながら今を明るく生きようとする家族が映し出されていた。通常のアルツハイマー病の進行を考えれば、あと数年で感情の変化がなくなり、さまざまな認知症による症状が進行すると予測されるが、このような家族と同居していると、ひょっとしたらもっと違った展開を見せるかもしれないという期待を視聴者に感じさせる優れたドラマだった。ぜひこの患者の継続した取材と放送をお願いしたい。

○　１０月２９日(日)ダーウィンが来た！生きもの新伝説「高速道路に５０００羽！？サギ大集結」を視聴した。蟹江インターチェンジでは３０年以上前からサギがコロニーを作っており、なぜ今ごろとりあげたのかと思いながら視聴した。細かい点でいえば、天敵はイタチとテンと紹介していたが、濃尾平野にテンはいないと思う。

○　１０月２９日(日)ＮＨＫスペシャル「“血液サージ”が危ない　～命を縮める「血圧の高波」～」を視聴した。検査では正常でも血圧は測るたびに変わるので、常に脳梗塞や認知症、心臓病になるリスクがある。その対処方法として「測る」と「握る」という２つのキーワードで予防策を紹介していたが、どちらも見ていてふに落ちなかった。「測る」は、一日中血圧を測るわけにはいかないので、朝と昼と就寝前など３回測るといいと言っていたが、それ以外の時間に血圧が上がる症状の人には意味がなく、タイトルにある「血圧の高波」をどうやって見つけるのか分からなかった。また、タオルを「握る」ことで本当に血圧サージが防げるのか、解説もあったが、見ていて分かりづらかった。健康になるための番組を制作していくのはよいことだと思うので、これからも続けていただきたい。

○　１０月３０日(月)ニッポンの里山　ふるさとの絶景に出会う旅「トンボの楽園　都会のため池　横浜市」(BS プレミアム　前 7:00～7:10)を視聴した。番組内でビオトープを人工の池と解説していた。ビオトープは生き物の生息空間

であって、決して人工の池に限った話ではない。ＮＨＫの番組で紹介することは、非常に影響力が高いので、ミスリードにならないような放送を心がけてほしい。

（ＮＨＫ側）

ビオトープについては、内容を確認した上で、制作部局にもきちんと確認をしたい。

○　１０月３１日(火)クローズアップ現代＋「ナイトタイムエコノミーが日本を救う！？観光立国・新戦略」を視聴した。日本政府観光局特別顧問のデービッド・アトキンソン氏が、夜の暇つぶしのおつき合いを通して、日本に来て楽しかった、おもしろかった、刺激的だったと思わせることが重要だと語っていた。イギリスの先進事例が紹介されていたが、訪日観光客の実態も変わってきていると思う。日曜Ｔｕｂｅ「おもてなし中部」も、この番組を参考にしながら、番組を進化させていってほしい。

○　１１月１日（月）あさイチ「出たトコ！村　長野県木祖村」を視聴した。名古屋の水がめである味噌川ダムを取り上げていて興味深く視聴した。日本の「ダム湖百選」に選ばれた景色に加え、日本で第２位の高さ 140 メートルというロックフィルダムの見事な映像が素晴らしかった。近隣の自治体、酒造会社と連携し、ダムのトンネルを活用した酒の熟成など地域振興事業の紹介も、見ていてエールを送りたい気持ちになった。ＮＨＫが地域の活性化の取り組みを取り上げてくれるのは大変意義があると思っている。

○　１１月３日(金)「ゴッホは日本の夢を見た」（総合　前 10:05～10:55）を視聴した。色使いのせいで、番組冒頭の題名のテロップが見にくかった。「タンギー爺さん」の絵に浮世絵が描かれていることをこの番組を通して知ることができた。ナレーションや音楽、旅人の吉岡里帆さんも落ち着いた番組の雰囲気に合っていた。

○　１１月３日(金)ＮＨＫスペシャル「ばっちゃん～子どもたちが立ち直る居場所～」を視聴した。番組を通して、“ばっちゃん”こと、元保護司の中本忠子さん

の生き方に感銘を受けた。貧しさのあまり家で食事をとれない少年が番組に出ていたが、一緒に温かい食事をとることがコミュニケーションであり、気持ちが伝わるのだと思った。

○　１１月４日(木)ＳＷＩＴＣＨインタビュー達人達(たち)「松任谷由実×坂東玉三郎」、１１月１０日(水)ＳＯＮＧＳスペシャル「井上陽水×玉置浩二」を視聴した。出演した４人は各分野で天才といわれている方々だが、多くの美しい言葉を知っていて、心に響く言葉で歌を作り表現していること、日々勉強し努力していることが共通していると知った。また、生まれ持ったものを努力で開花させたことが、数年で消えていく人との違いなのだなと感じた。坂東さんは歌舞伎の女形なので、柔らかいパーソナリティを想像していたが、芸術に対する努力には迫力や男らしさを感じた。また、井上さんと玉置さんの「夏の終りのハーモニー」ではすばらしい歌を聞くことができてよかったが、作詞と作曲のどちらを先に作ったのかという、一歩踏み込んだ話も聞きたかった。

○　１１月５日（金）トランプ大統領来日関連の報道について。民放が放送していない中で、ＮＨＫはライブで放送していたことは意義があるものだった。トランプ大統領が乗るヘリコプターを、最新の超望遠レンズを駆使したカメラワークでとらえるなどＮＨＫの力量がいかんなく発揮されていたと思う。

○　１１月８日(水)チョイ住み　ｉｎ　リスボン（総合　後 7:30～8:43）を視聴した。台本も演出もなく、すべて２人のパーソナリティによる自然な振る舞いから醸し出される魅力がとてもすばらしい番組だった。出演者の人選がカギだと思うが、毎回どのように決めているのか知りたいと思った。

○　１１月９日(木)ドキュランドへ　ようこそ！「ロボットがもたらす“仕事”の未来」（E テレ　後 10:00～10:45）を視聴した。ニューヨーク郊外のニューバードでは、ロボットやＡＩが進化によって大半の仕事をこなしており、その結果、町が閑散としてしまったという事例は見ていて恐ろしかった。２０年後に今のアメリカ社会の仕事の半分は自動化されてなくなる可能性があるとのことだが、日本も遠くないうちに同じ状態になると思い、危機感を持った。社会が大きく変わっていくことを実感でき、大変意義のある番組だった。このよ

うないい番組は、総合テレビなど、より多くの人に見られるように編成してほしい。

○　１１月１１日(土)ＥＴＶ特集「熱き島を撮る　沖縄の写真家　石川真生」を視聴した。６月２０日(火)に「ハートネットＴＶ」で放送したものに新たな取材と映像を加えた番組だが、非常に出来がよく、ドキュメンタリーとして歴史に残るような番組ではないかと思った。感心したことが２つある。石川さんの目線が捉えられていることと、石川さんを紹介する番組スタッフの目線がすばらしいことだ。取材の経験では、沖縄の人たちは、歴史的な背景からなかなか心の奥を話してくれないこともあるが、本番組では石川さんによって核心の部分が普通に出てきており、とても感心した。制作者が沖縄の方言を話すシーンがあるが、かなり深いつき合いができているのであろうと推測され、沖縄をよく理解した上での番組づくりだと感じた。被災地と沖縄の人々はいつも意識してほしい対象で、孤立させないように報道を続けてほしい。

○　１１月１３日(月)あさイチ　特集「すべて性ホルモンのせいだった！　～女性ホルモン編～」を視聴した。女性が更年期になると出てくる悩みや疑問に対して、今までしてきたことは何だったのだろうと思うような、目からウロコが出る内容だった。有働由美子アナウンサーのコメントや質問は的を射ていて、本当に気持ちのいい番組だった。２９日(水)の男性ホルモン編も期待したい。

○　１１月１３日(月)クローズアップ現代＋「“ネットリンチ”の恐怖　突然あなたも被害者に…」を視聴した。ネットでの炎上をきっかけにネットリンチにつながった事例や、スマイリーキクチさんが１８年間も殺人予告を受けていた事例は、非常に衝撃を受けた。対策として、アカウント閉鎖や削除依頼など、お金のかかる告訴の前にやれることを紹介していたのはよかった。無記名のアンケートだと何でも書いてくるような空気感があって、それが何万人分も積み重なることで、大きなプレッシャーになることを教えてくれる非常にいい番組だった。今後も取り上げていってほしい。

○　連続テレビ小説「わろてんか」を視聴している。魅力的な女性がたくさん出てくる一方、高橋一生さんが演じる伊能栞以外の男性はどうしようもない役が

多い。その中で、主人公の夫である北村藤吉を演じている松坂桃李さんが格好いいため、ダメ男なのにダメ男に見えないことに違和感があった。演技力の問題か俳優の選定の問題か分からないが、今後に期待したい。

○　ＮＨＫの選挙報道の取り組みについて意見を述べたい。選挙のたびに選挙報道に疑問を感じている。投票所でなるべく個人情報が分からないように投票をしているのに、ＮＨＫの出口調査と称して「どこに投票しましたか？」と聞かれることに違和感がある。また事前の取材や出口調査によって、開票率数パーセントで当確を出しているが、数分や１時間早く結論を知らせることに何の意味があるのだろうか。私と同じようなことを考えている人もいると思うので、ＮＨＫは真摯に答えていただきたいと思う。

（ＮＨＫ側）

国政選挙を始め、ＮＨＫの選挙報道については大変たくさんのご意見をいただいている。その中には、ご指摘のように翌日には開票結果が分かるというのに「当選確実」の情報をいち早く打つ必要があるのか、といったご意見もある。ＮＨＫは当選確実の早打ちを使命としているわけではない。選挙は民主主義の根幹であり、この結果を正確に伝えることが公共放送の第一の使命と考えている。またＮＨＫの選挙報道には、何十年も積み重ねてきた、選挙情勢を正確に読むノウハウや各種調査がある。出口調査などを適切に行うことで、間違いのない確実な情勢が分かる。正確さを確保しつつ、迅速に伝えることが、視聴者の関心に応えるひとつの方法ではないかと思っている。当然、情勢が分からないもの、接戦になっている選挙区は、開票が終わるまで待って報じている。当確情報を伝える上で、正確さと迅速さを両立させることは二律背反ではなく、正確に伝えるための情報収集や取材が、結果的に迅速に当選確実を伝えることにもつながっていると思う。いずれにしても、ＮＨＫにとって選挙報道は災害報道と並び、公共放送の使命として最も大切な役割だと思っており、ご理解いただき

たい。

ＮＨＫ名古屋放送局
番組審議会事務局

平成２９年１０月ＮＨＫ中部地方放送番組審議会

１０月のＮＨＫ中部地方放送番組審議会は、１９日(木)、ＮＨＫ名古屋放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、金とく　中部ネイチャーシリーズ「槍・穂高と白山　～雪と水がつくる絶景をたずねて～」について説明があり、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、今後の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	小澤　正俊	（大同特殊鋼（株）相談役）
副委員長	小寺　功子	（三重県漁協女性部連合会会長理事）
委　　員	井口　昭久	（愛知淑徳大学健康医療科学部教授）
	稲村　修	（魚津水族館館長）
	加藤　勇二	（愛知県農業協同組合中央会専務理事）
	清川　卓二	（清川メッキ工業（株）専務取締役）
	徳田　八十吉	（徳田八十吉陶房代表）
	中村　智景	（四季料亭「助六」女将）
	長谷川明子	（日本ビオトープ管理士会中部支部会長）
	東　　惠子	（東海大学海洋学部環境社会学科教授）
	真能　秀久	（中日新聞社常務取締役）

＜金とく　中部ネイチャーシリーズ
「槍・穂高と白山　～雪と水がつくる絶景をたずねて～」
９月２９日（金）放送について＞

○　登山をしない人間からすると、大変な思いをしてなぜ山に登るのかと思っていたが、大変な思いをして登ったからこそ見ることができる絶景があることを番組から教えてもらった。槍ヶ岳は、年に１、２回しか見ることができない太陽柱や、涸沢の太陽が山頂を赤く染めるモルゲンロートなど、実際に自分の目で見たらどんなにきれいだろうかと感動した。また、氷河で削られてできたこ

となど槍ヶ岳の成り立ちを初めて知った。図での説明も分かりやすく、自然の雄大さを実感した。また、白山の雄大な姥ケ滝や、噴泉塔、高山植物の花畑は本当にきれいで、機会があれば、高山植物を見てみたいと思わせるような映像だった。最後の白山山頂の日の出のシーンは、たくさんの登山者の思いがひとつになったような感じが伝わってきて感動した。それぞれのガイドの人選もよかった。特に、白山の乾靖さんと工藤夕貴さんのやり取りは自然な感じで、乾さんの工藤さんに対する思いやりも伝わってきた。語りも、槍ヶ岳は男性、白山は女性と変えていたので、メリハリがあり、聞きやすかった。要所での地図、標高などの説明は登山をしたことのない人間にも分かりやすかったと思う。槍ヶ岳の四季折々の絶景や白山の花畑を、家のテレビではなく８Ｋや４Ｋで見てみたいと思った。

○　槍ヶ岳、白山を登るだけでなく、めったに見られない光景やふだん行くことができない場所の映像、山の歴史など盛りだくさんで、ＮＨＫならではのだいご味を感じる番組だった。また、出演の華恵さんや工藤さんは、人柄、コメントなどがすばらしく、よい人選だったと思う。気になることが３点あった。１つ目は、なぜ１つの番組でこの２つの山を選んだのか分からなかった。番組冒頭でダイジェストを流すよりも、なぜこの２つの山を登るのか説明があると、もっと深い感動を得られたと思う。２つ目は、取材時期を明確にしてほしかった。太陽柱などめったに見られない現象が見られた日にちや、花の季節などは、視聴者もこの季節に自分も行ってみようと思える有益な情報になったのではないか。３つ目は、番組全体を１つの山で構成したほうがよかったと思う。途中で白山から槍ヶ岳の話になり、見ていて唐突に感じた。両山ともすばらしかったが、１つの番組としては情報量が多すぎるので、それぞれ別の番組で放送してほしい。また、一部のテロップが景色と同色で見づらいものがあった。中部地方にはすばらしい山があり、美しい景色や神秘的な場所を求めて登山する方の気持ちが伝わってくる、とてもいい番組だと思う。

（ＮＨＫ側）

１つの番組で２つの山を取り上げることについては、制作中も議論になったが、それぞれ美しい山であり、できるだけお互いの山を見せ合う形でいきたいとの結論に至った。

仮に、今後もネイチャーシリーズを制作するのであれば、番組の長さや、１つの山をじっくり見せることも含めて構成・編成について検討していきたい。取材時期の明示についても制作中は議論になった。一口に「花の咲く時期」と言っても、白山では雪が溶けた所から花が咲いたり、標高などの条件により同じ花でも２か月近く見ることができるものもあったりと、表現が難しい。また年によって冬の積雪量や雪解け時期が大きく変化するため、厳密にやるのが難しい部分もある。ただ、視聴者に登山に適した時期を伝えるためにも、「何月中旬」などある程度の時期は示せるようにしていきたい。

○　いわゆる「冒険登山」と呼ばれるような未踏の山が少なくなり、一般の人たちが山の楽しさや美しさを知るといった山番組が主流になっている中で、これはいい番組だと思った。私も北アルプスなど、中部地方の山岳地帯の美しさは、ＮＨＫの番組を通して知った。水中カメラやドローンが活用されており、梓川や姥ケ滝などのふだん見ることのできない映像を見ることができた。ネイチャーシリーズは昔から知っているが、故・田部井淳子さんが出演した回の印象が強く、田部井さんの人柄、人間力のすばらしさが改めて思い起こされた。中部が誇る自然はまだまだあると思うので、これからも放送していってほしい。４Ｋで撮影していると聞いているが、撮影機材や映像の特徴など、いろいろ新しい発見があると思うので、メイキングの番組も見てみたい。

（ＮＨＫ側）

４Ｋ用のカメラは業務用以外にも、一般向けでも優れたカメラがたくさんあり、槍・穂高だけでも６種類のカメラで撮影をした。水の中につける小さいカメラから、夜空、出演者、景色など、対象によっていろいろなカメラを使っている。ご意見を伺って、撮影機材を紹介するメイキングを制作することも今後は検討したい。

○　今回は２回視聴した。初回の感想は、映像は美しいが観光案内にしては控えめで、旅行記のような番組だと思った。しかし２回目は、美しい中部の自然にスタッフが誠実に向き合って撮影している印象を受けた。初回の印象が薄かったのは、最近のテレビ番組に多い、即興的に強いインパクトで視聴者に印象づける手法に、自分が慣れていたための反応だった。日本屈指の大自然を壮大な映像で見せるという、制作者の意図や、随所に凝らされている工夫が見てとれた。冒頭から感動的な映像をピックアップして紹介しているが、番組後半でも色あせることなく、最後まで期待感を失わせない演出はすばらしかった。出演者の華恵さんと工藤さんは、ロープウェイの紹介や美しい景色の感想など、当たり前の言葉を使って表現しているが、分かりやすく気取りがない。映像と合わせ、自分も一緒に登山している気持ちになった。入山届から始まる登山の臨場感、音楽のオンオフなどの使い方、モルゲンロートなどの幻想的な景色、広角カメラなどを活用した映像美など随所に見事な要素が見てとれた。この番組は、美しく壮大な映像を見せることに成功した。家族と一緒に見て、お互いに感想を口にしながら視聴することで、旅をしているような気にさせてくれる番組だった。

○　登山をする人は、山に登り雄大な自然の中でリフレッシュしたり、神秘的なものを求めていたりする人が多いと思う。今回は登山者の気持ちになって見ることができた。出演の華恵さんは、コメントの中に神秘的な言葉をちりばめていたのが印象的だった。特に、太陽柱についての科学的な説明のナレーションとの対比で、「神様の通り道」というコメントが際立っていた。それ以外にも、自分が山に登った時に感じたことと同じであったり、登山者に共感できたりするコメントが多かったと思う。工藤さんは女優という職業柄、感動や状況を表情で見せてくれると期待していたが、マスクで顔を隠していて、登っているときの苦しい表情、着いたときの感動が全く見られなかったのは残念だった。コメントも分かりづらいものがあったので、なおさら表情で示してほしいと思った。槍ヶ岳の氷河が削った擦痕などを紹介していたが、成り立ちを知ることで山を登るときの景色の見方も変わるし、自然の営みが理解できて、楽しみが増えると思う。

（ＮＨＫ側）

工藤さんのマスクは、実は現地では虫が大量に飛んでおり、女優なので日焼けを避けるために、できるだけマスクを付けておきたいという意向があった。その中で、マスクをつけている映像を編集上使わざるを得ない部分があった。登山中全てで、カメラを回しつつ、マスクを外すという撮影体制を維持するのは難しいが、今後に向けての課題として取り組んでいきたい。また、ドラマなどと違い、一人の人間として登り、そのときに感じた素の部分を出していただくことが大事だと思っている。

○　登山をすることが難しかったり、現地になかなか行けなかったりする人にとっては、花、太陽、滝など美しい自然を見ることができる、ほっと癒やされる番組だった。姥ケ滝の水の中の映像を目にした時に、自分が水に入った時の記憶が思い起こされて楽しい気持ちになった。白山の美女坂にある美女岩の、女性が岩に変えられてしまったというエピソードなどを聞いて、男女の体力の違いや、山の厳しさについて考えさせられた。２万年前の氷河による擦痕など、初めて知ることも多かった。

○　番組は幸運にも年に１、２回しか見ることのできない太陽柱や、モルゲンロートなど、いつか見てみたいと思っていた絶景に遭遇できており、奇跡的な登山に感動を覚えた。山を熟知したガイドをはじめとして、地形と気象が織りなす景観を予測し、解説していたことで、視聴者は、美しい風景が生まれる理由や意味があることを理解できたのではないかと思った。北アルプスは６万年前に氷河が作り出したという話を聞いて華恵さんが発した「時間の感覚がグワグワと見える絶景」「時に思いを馳せ、見える絶景」という言葉に心を打たれた。白山では、開山 1,300 年の今、白山信仰の記録として残る白山曼荼羅図が紹介され、登頂前の祈願から女人禁制であった歴史などが語られるなど、白山信仰の精神文化に触れることができたように感じた。また、滝に打たれてこそ分かる水の勢いや温泉が噴き出す力が、工藤さんを通してリアルに伝わってきた。御来光に照らされた工藤さんや他の登山者の表情や言葉は、大変印象深く心にしみた。華恵さんと工藤さんは、それぞれすばらしい異なるパーソナリティの

案内人だったと思う。一方で、情報を盛り込み過ぎたのか、番組内で画面の切り替わりが多く、話についていくのに苦労した。

○　目に見える山がすばらしい自然にあふれていることを紹介しており、すばらしい番組だと思う。登山カードの提出から紹介していたのは、一般の方への意識づけとしていいと思う。ガイドの方が「急登」と言った時に意味がわからなかったが、その後のナレーションで、急な斜面を登ると言い直していた。ナレーションでの補足は非常によかった。ニリンソウを映す際に近づきすぎて、一輪に見えていたのはもったいなかった。取材前に、その時期見頃な植物は分かっていると思うので、その特徴を伝えてもらうともっといいと思う。モルゲンロートは山の赤と空の青と雪の白というコントラストや、空気感が伝わってくる映像はすばらしかった。地図の説明が分かりやすかったが、白山では途中で別の地図に変わったため、どこにいるのかが分かりづらくなってしまった。カメラマンがみずから滝の中に入って撮影するシーンは、滝の強さがカメラを通して分かり新鮮だった。白山の登山中に「険しい山を登れないお年寄りや女性はあそこで手を合わせて山を下りた」と説明した。そのため、元気な女性は登山していたのだと思ってしまった。その後、美女坂で「女人禁制だから登れなかった」と言っていた。「女性と険しい山を登れない老人」というように誤解の少ないコメントにして欲しい。ベニヒカゲの調査目的を尋ねていたのはよかったと思ったが、一方で、植物の名前をコメントのみで紹介していたものあり、せっかくならば映像で見たかった。滝雲のシーンがすばらしかっただけに、最後に白山を持ってきたことで余韻が薄れてしまい、構成もばらばらだったように感じられ、もったいなかった。

○　すばらしい絶景を楽しむことができる番組だった。副題が「雪と水がつくる絶景を訪ねて」だったが、槍ヶ岳は氷河が作ったことを考えれば「雪と水、そして氷河が作り出した絶景」というとさらに伝わったのでは。太陽柱は年に１、２度しか見られないというが、よくその映像が撮れたなと思った。滝雲のシーンは最初、遠すぎてよく分からなかったが、そのあとに雲が流れ落ちる映像を大きく映すなどフォローがよかった。番組を通して、旅人の華恵さんと工藤さんは本当に山が大好きなのだなということがよく伝わってきた。噴泉塔や高山植物など初めて見るものがたくさんあって、新鮮だった。７３分の放送時

間は少し長く感じた。構成も白山と穂高の切り替わりが多く、槍・穂高をすべて伝えてから、白山の話に入るという手法もあったと思う。絶景を実際に見に行くにはどうすればいいか、ガイドなど連絡先を紹介してもらえるとよかったと思う。

○　穂高連峰は、エッセイストの華恵さんが日本を代表する名峰のすばらしい景色を届けるとともに、太古の造山の歴史をひもといていた。華恵さんはエッセイストでもあるため、小さなコメントのひとつひとつに感動した。ちょっとしたコメントが番組に色を添えていて、もう少しあってもいいと思えるくらいだった。高山特有の雲の動き、朝焼けや滝雲、空の青さ、モルゲンロートなどすばらしい自然の映像は、自分も行ってみたいと思わせるものだったし、槍ヶ岳の特徴的な天を突くような描写もすばらしかった。季節感も表現しており、特に冬ならではの近寄りがたさを感じさせる山々に、服部隆之さんのテーマ音楽がマッチングしていた。日本の山が太古の時代にどうやって出来たかという、歴史的な要素も山の見方を深めてくれるものだったと思う。可能なら梓川のトレッキングだけでも、春先の爽やかさ以外の描写を見たかった。白山は、沢歩きや温泉など、水いっぱいで内容はすばらしいのだが、槍・穂高連峰と、はるか西の白山では関連性が見えてこなかった。白山は、信仰の対象として霊峰という位置づけもあるので、なおさら穂高連峰とリンクさせるのは難しいと思う。例えば、白山が活火山であることを全面に出しつつ、焼岳などとリンクさせると分かりやすかった。水に関連した話は、白山だけでも、東の荘川、西の手取川、手取湖など、魅力的な素材はたくさんあるので、長時間の番組にして２か所を取り上げるよりは、１か所を集中的に放送する方がいいと思った。

○　ドローンや水中カメラを使うなど、時間と手間をかけて撮影しており、制作者の苦労が伝わってきた。番組構成も「槍・穂高連峰」と「霊峰・白山」、そして冬と夏を対比し、山々の景色や雲、朝日、滝、温泉などの自然や、哺乳類から高山ちょう、高山植物とバラエティに富んでいるなど、見ていて飽きが来ない工夫も感じられた。さらに、白山の開山 1,300 年という歴史にも焦点を当てており、自然と文化の関係を伝えていたと思う。一方で、内容が多すぎて絶景の奇跡の瞬間には当たらない場面も多かったほか、二人のゲストの語りと顔のアップが多い印象を受けた。自然の映像をメインとする番組なら、もっと内

容にメリハリをつけた構成にしてほしい。例えば、滝雲の映像は雲の流れに浸るようにもっとゆっくり見ていたいと思った。また、さまざまな識者の解説でわかりやすくなっていたが、白山の河川内の湧水（ゆうすい）が空気を含んでいる部分は説明が全くなく、違和感があった。番組のスーパーで「つくる」と「造る」が２つ使われており、ホームページでは「作る」が使われていたが、異なる意味を持つので細かい配慮が必要と感じた。

（ＮＨＫ側）

２か所を取り上げることや、番組内で２か所を行ったり来たりすることに対するご意見は、次回以降の課題として検討していく。

＜放送番組一般について＞

○　１０月１３日(金)静岡スペシャル　イッピン「くっきり鮮やか！天然モダン～静岡の染物～」(総合 後７：30～７：59)を視聴した。鈴木ちなみさんが現地を訪れ、染織家と話をしつつ、平野義和さんの落ち着いたナレーションで進行していく構成がこの番組にマッチしていた。一定以上の年代の方は、伝統工芸技術や染色が古くから静岡に根付いていることを知っているが、多くの若い人たちは知らないと思う。そうした地域に根づいた伝統技術を生かして現代のニーズに応えた取り組みを番組で紹介していくことが、静岡にとってふるさとの再認識になるのではと思った。

○　９月２２日(金)ナビゲーション「認知症でも　笑顔のままで」を視聴した。番組では、認知症患者が普通に生活しているシーンと、立体的な空間認識ができずラーメンの食べ方が分からなくなるシーンの対比などを紹介し、認知症患者の実態を伝えていた。主治医で国立長寿医療研究センターの佐竹昭介先生のコメントは的確で、認知症患者の今後の経過を予見するものだった。今を明るく生きようとする患者の家族の姿や、症状が進行し不安が漂う中でもけなげに生きる患者の姿がうまく表現されていた。

○　１０月６日(金)ナビゲーション「残留孤児　孤立する老後」を視聴した。帰国した残留孤児の厳しい現実が紹介されていた。「孤独に決まっているでしょ

う」と老女が話すシーンや、足腰が悪くなっているため、転倒したり、お風呂に入れないシーンは印象的だった。ゲストの解説で「貧しさや孤独を耐え抜いてきた残留孤児は我慢することが当たり前になってしまっているため、彼ら自身の我慢強さが、社会生活の疎外の原因になっている」という話に強い悲しみを覚えた。フォトジャーナリストの安田奈津紀さんが「実際の戦後はいつまでも続く」と言っていたが、この番組を見て確かに戦後は終わってないと思った。こういう番組を今後も放送してほしい。

○　１０月８日(日)日曜Ｔｕｂｅ「おもてなし中部　ｉｎ　岐阜　養老町」(総合後４：10～４：53)を視聴した。別の回を視聴した時は外国人向けの番組と感じたが、今回は養老町のすばらしさについて誰が見てもよく分かり、ぜひ行ってみたいと思わせる内容だった。養老町を紹介する際は飛騨牛がよく取り上げられるが、今回は飛騨牛以外の名品やグルメ、観光スポットなど、近くに住んでいる人でも知らないことが多くあるなど大変勉強になった。紹介されたものを食べてみたい、行ってみたいと思わせる魅力的な番組だった。ただ、番組の途中で唐突にお笑い芸人が出演し、笑いの演出になってしまったのは残念だった。初めから飛騨・美濃観光大使として案内すればよかったのではないか。この番組を見て、養老町を訪れる方が増えることを期待したい。

○　１０月１３日(金)ナビゲーション「ＩｏＴで米作りが変わる」を視聴した。農業・漁業がＩｏＴで生まれ変わろうとしている実態が読み取れる、よい内容だった。農業・漁業は自然環境との闘いであり、ＩｏＴで管理するのは難しいと思っていたが、単純作業などをＩｏＴで行うことで効率化できることがよく理解できた。これからの農家、漁師に希望を与える内容だったと思う。しかし、番組では今後につながる話が少なかった。実際にはまだまだ導入が進んでいない状況で、知識や技術、資金や人材など、新しいものを導入するために必要なものや、導入に至ったきっかけや行動を取り上げれば、それを見たほかの農家や漁師の参考になるのではないかと思った。

○　ナビゲーション「ＩｏＴで米作りが変わる」を視聴した。農業・漁業へのＩｏＴの活用は研究が進んでおり、珍しいことではないと思う。一方で、ＩｏＴが広がっていかないのは、平地と山間地の違いといった用地の問題、自然にさ

らされる中で、設備の耐久性や信頼性、導入するにあたっての費用対効果など、さまざまな要因があると思う。ＩｏＴの取り組みを広く伝える番組としてはよかったが、ＩｏＴ導入の課題を提起しつつ、新たな取り組みへの挑戦など、将来につながる話を番組で示していってほしい。

○　ナビゲーション「ＩｏＴで米作りが変わる」を視聴した。タイトルは農業だが、途中から漁業の話に変わってしまったことに違和感があった。農業・漁業と幅広く扱うのなら「一次産業が変わる」や「農林漁業が変わる」としたほうが見る人に伝わったのではないか。内容は、短時間で非常にコンパクトによくまとめられていた。ただし、ＩｏＴが進むことで生じる問題点や農家の方が抱えている悩みなど、今後に向けての課題を出すと、次につながっていくのではと思う。

○　おもてなし中部ミニ「富山・高岡市　高岡銅器」を視聴した。高岡の銅器職人が努力する姿に共感したほか、世界中でオンリーワンの体験ができる旅行が人気という話を聞いて、自分だったら何ができるかなど考えながら視聴した。こういった伝統工芸が途絶えないように引き続き、番組で取り上げていってほしい。

○　９月２４日(日)ＮＨＫスペシャル「亜由未が教えてくれたこと～障害者の妹を撮る～」を視聴した。大病を患っている母親が障害者の娘を介護する姿を軸に、親の思い、子どもの生き方、障害者を抱えて生きる人たちの不安など、色々なものが伝わってきて涙が出た。ＮＨＫ青森放送局のディレクターが自分の家族にカメラを向けて取材した番組で、介護に関わる人の本音や本心が映し出されており、大変すばらしい番組だった。

○　９月２５日(月) 超絶　凄（すご）ワザ！「奇跡のヴェネチアン・グラスに挑め！」を視聴した。これまでも「凄ワザ！」は何回か見たことがあるが、これこそ「凄ワザ！」だと思わせる回だった。120 年前の風が吹くだけで揺れるグラスが今日まで割れずに残っている事実への驚きや、何回も作っては割れるなど、職人が試行錯誤しつつチームワークと根気によって作品の完成に至る感動があった。実際にグラスを風に揺らすシーンでは、千原ジュニアさんの表情か

ら「吹いて割れたらどうしよう」という雰囲気がよく表れていた。完成までの苦労を見ていたので、息を吹きかけ、グラスが揺れたシーンにはすごく感動した。本当に凄ワザを見せてもらった。

○　１０月１日(日)第５０回日本女子オープンゴルフ選手権最終日(総合後1：05～4：15)、１０月１５日(日)第８２回日本オープンゴルフ選手権最終日(総合 後1：05～4：20)、を視聴した。番組では最後の表彰式まで放送していたのがよかった。女子の試合は、選手のプレーに感動するとともに、森口祐子さんの解説が大変分かりやすかった。すべての選手を「さん付け」で丁寧に呼び、よいプレーにはすべての選手に対して公平に称賛を送る森口さんの解説に好感が持てた。グリーンの傾斜や芝の目を矢印などで可視化する演出は、グリーンの難しさなどがよく伝わってきた。生放送にもかかわらず、よいプレーを瞬時に場面を切り換えて伝えていたのも、大変よかったと思う。男子の試合は女子と違い、グリーンの傾斜などを可視化する演出を使っていなかったのが少し残念だった。スポーツの秋を満喫できるタイムリーな編成だったと思う。

○　１０月２日(月)あさイチ「特集　美と健康が手に入る！？“攻め”の間食」を視聴した。美や健康には、間食の有無ではなくドーパミンの制御が大事という説明や、エネルギーではなくいろいろな栄養素を補うような間食はしたほうがいいという話は驚きだった。これまでの番組でも健康に向けて様々な取り組みを紹介しているが、番組内でも言っていたように、何が一番いいのか統一してほしいし、新情報や新しい研究結果は尽きることがないのだなと感じた。

○　１０月４日(水)ガッテン！「血圧急上昇の正体！“血圧サージ”にご用心！」を視聴した。朝起きると血圧が高くなるサージという現象を紹介していた。加齢や、ゴミ捨てなど起床後の行動によって加算式にリスクが上昇するような説明をしていたが、血圧のリスクは単純に加算されるものではないと思う。

○　１０月４日(水)ファミリーヒストリー「西田敏行～二人の母　二人の父～」を視聴した。毎回楽しみにしている番組だが、人気の俳優なので、より楽しく視聴できた。西田さんが俳優になりたいと思った動機や、両親が西田さんの夢を応援するため、福島から東京に家族で引っ越して俳優活動を支えた話など、

とても感動的だった。両親の愛情が西田さんの役を作っているという言葉が、この番組の全てを物語っていると感じ大変心に残った。

○　１０月８日(日)目撃！にっぽん「大阪ミナミ　“パッチギ”の男」を視聴した。すばらしい番組だった。こういう番組を地方から全国に発信してほしいし、ＮＨＫオンデマンドにも掲載してほしい。ＮＨＫオンデマンドは地域放送を紹介するページがあるとさらによいと思う。

○　１０月８日(日)ＮＨＫスペシャル「天才棋士　１５歳の苦闘　独占密着藤井聡太」を視聴した。今年の５月に佐藤天彦名人がＡＩの「ポナンザ」に負けたが、将棋界の大きな節目に藤井聡太さんが出てきたのは、極めて象徴的だと思う。番組では澤田真吾六段、森内俊之九段が最善手よりも勝負手を重視した解説をすることで、人間同士の勝負のおもしろさを表現していた。中学校の成績が真ん中より少し上とか、負けると周囲が驚くほど泣き出す「泣き虫聡太」など、密着取材で映し出される将棋以外の部分が、構成にメリハリを持たせていた。そのため、番組で紹介している「天才」という表現より、「才能を開花させた少年」というイメージを持った。テレビの役割の一つに、多様な生き方を追うことで人それぞれの個性を表現していくことがあると思う。人間の豊かな未来につながることだと思うので、この番組はすごく価値があったと感じた。

○　１０月９日(月)美と若さの新常識　カラダのヒミツ「しっかり食べてキレイに！ＳＰ」(総合　後７：30～８：43)を視聴した。尿に含まれる８－ＯＨｄＧを測定して老化のスピードを測っていたが、そもそも老化の因子とはどういうものか、医学的に定義が決まっていないため、断定的な表現は避けるべきではないか。一つの物質の増減によって老化の速度が変わるというのは、学問的ではないと思う。番組制作にあたり、表現をもっと丁寧に検討してほしい。

○　１０月９日(月)「息子が語る“母ダイアナ”」(総合　前８：15～９：03)を視聴した。ダイアナ妃の死後２０年という節目に、ウィリアム王子とヘンリー王子の２人が、皇太子妃ではなく母親としてのダイアナ妃を、貴重なプライベート写真や映像を見ながら振り返り、母への思いを語る、とても見応えのある番組だった。ダイアナ妃が亡くなる日に二人の王子に電話をかけていたこと、話も

そこそこに素っ気なく電話を切ってしまったことを二人が今でも後悔していることなど、これまで知らなかった事実が興味深かった。誰からも愛されたダイアナ妃の魅力が十分に伝わってくる、とても良い番組だった。

○　１０月１１日(水)くらし☆解説「衆院選公示と国民の視線」を視聴した。国政選挙に向けた世論調査や、その分析結果から選挙がどうなるか、図表などを使い分かりやすく、テンポよく解説していた。投票に行くか行かないか、投票率から選挙結果がどう変化するかなど、選挙結果だけでなく、予想、分析の部分も大変興味深かった。各政党の言い分だけではなく、ＮＨＫ独自の解説や分析を視聴者に伝えることには評価したい。

○　１０月１１日(水)趣味どきっ！国宝に会いに行く　橋本麻里と旅する日本美術ガイド　第２回「平等院鳳凰堂・浄瑠璃寺」を視聴した。京都の平等院鳳凰堂・浄瑠璃寺を訪ねていたが、宇治をよく訪れる人でも刺激を得ることができる内容だった。特に、案内役の橋本麻里さんが、平安時代の国宝の魅力がよく伝わってくる解説をしていた。国宝から、平安時代は疫病や大災害が発生し先を見通せない不安が背景にあるなかで作られていることや、当時の人の心の動きなどを推察するという大変おもしろい番組だった。美術品の鑑定や、作品に対する見識、嫌みのない話し方、落ち着いた雰囲気など、橋本さんのような魅力ある出演者を探し出したことはすばらしい。教養番組として誰が見ても魅了されると思う。

○　１０月１３日(金)にっぽんの芸能「７０回記念！華麗なる祭典・名古屋をどり」を視聴した。終戦後、人々のすさんだ心を慰めるため、舞踊家達が街頭でうきうきするような踊りを始めたというエピソードに感嘆した。また、一般の方が舞踊の家元と同じ舞台に出られたところに名古屋をどりの「受け入れる包容力」といったようなものが表れているのではと思った。

○　１０月１５日(日)ＮＨＫスペシャル「ホームラン新伝説～“怪物球児”ドラフトへ～」を視聴した。非常にタイムリーな編成だった。３人のスラッガーがどのようにして生まれたかについて、三者三様であることを丁寧に説明していた。大越健介キャスターは、落ち着いた声、話し方などがよいと思う。番組の

最後で、大越キャスターが、自分たちはすごくいい時代を生きてきたけれど、それを食いつぶしてきてしまったのではないか、今の子どもたちに残してあげている時代は子どもが野球もサッカーもできない社会にしてしまっているのではないかと悩み、それを受けて小早川毅彦さんが、「いろんなものが変わってきたが、普遍的なものがあるとすれば真面目にコツコツ努力した者が未来を変えることができる」というコメントをするなど、すばらしい話がいくつもあった。

○　連続テレビ小説「わろてんか」を視聴している。今回は幼少期が短く、１週間で女学生になるなど、展開が速い中でも、毎回笑いのシーンが出てくると聞いているので、すごく楽しみに見ている。今後も期待したい。

○　趣味どきっ！「今どきっ！ゴルフはシンプル＆スタイリッシュ」を視聴している。これまでのゴルフレッスンの番組はプロゴルファーが指導していることが多いが、今回はツアープロコーチが指導する点に珍しさを感じた。また４人の受講者の癖をそれぞれ１か所ずつ直すという大変シンプルな構成で、４人いれば１人くらい自分に当てはまる人がいるため、見ていて参考になった。受講者４人の内訳が６０代のアベレージゴルファー２人と、２０代、３０代の若い初心者ゴルファー２人と２つのグループに分かれていることも、これまでのレッスン番組と違って新鮮だった。女性側のファッションを紹介していたが、男性年長者側のファッショントレンドも紹介してほしい。また「こんなオヤジは嫌い」として例を挙げていたが、大半がゴルファーとしての基本マナーの話だったので、中年男性に限った話では無いと思う。

ＮＨＫ名古屋放送局
番組審議会事務局

平成２９年９月ＮＨＫ中部地方放送番組審議会

９月のＮＨＫ中部地方放送番組審議会は、２１日(木)、ＮＨＫ名古屋放送局において、８人の委員が出席して開かれた。

会議ではまず、「平成２９年度後半期の国内放送番組」について説明があり、「平成　３０年度の番組改定」の意見交換を行った。続いて、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、今後の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長	小澤　正俊	（大同特殊鋼（株）相談役）
副委員長	小寺　功子	（三重県漁協女性部連合会会長理事）
委員	加藤　勇二	（愛知県農業協同組合中央会専務理事）
	井口　昭久	（愛知淑徳大学健康医療科学部教授）
	清川　卓二	（清川メッキ工業（株）専務取締役）
	徳田　八十吉	（徳田八十吉陶房代表）
	中村　智景	（四季料亭「助六」女将）
	東　　惠子	（東海大学海洋学部環境社会学科教授）

（主な発言）

＜「平成２９年度後半期の国内放送番組」および
「平成３０年度の番組改定」について＞

○　ＢＳで放送している「連続テレビ小説」の時間帯を見直してほしい。ＢＳプレミアムは午前７時３０分からの放送、総合テレビは午前８時からの放送と３０分しか差がない。朝早くに出勤される方のことを考えると、ＢＳプレミアムでは午前６時台に放送した方が、違ったメディアで時間をずらして放送する意味もある。同様に、夜間の再放送が午後１１時３０分からというのも、本放送の時間帯に出勤する人は、すでに就寝している人も多い時間帯だと思うので、もう少し早めてはどうか。

○　幼児・子どもゾーンで放送している子ども向け番組を、午後０時台にも放送してはどうか。親子が、昼食を食べながら、もしくは食べ終わったところで一緒に見られる時間に編成してほしい。

○　ラジオ第一の「ＮＨＫマイあさラジオ」で放送している「社会の見方・私の視点」は時間枠を早めるか、再放送を検討してはどうか。ターゲット層となる社会人はすでに出勤している人が多く視聴しづらいと思う。

（ＮＨＫ側）

放送時間について頂いたご意見については、担当者に伝えつつ、３０年度改定で検討したい。

○　「ＮＨＫマイあさラジオ」はラジオだけでなく、「らじる★らじる」によるインターネット配信も実施している。リアルタイムのほか、聞き逃した場合も一定期間は聞けるようになっているので、そちらもご活用いただければと思う。

○　すでに実施していると思うが、放送枠を考える際には、意向調査や日々の問い合わせなど、視聴者の意見も貴重だと思うので、そういった情報も参考にして欲しい。

（ＮＨＫ側）

視聴者の皆様からは日々、モニター報告、要望、お問い合わせなど貴重なご意見を頂いている。ご意見を踏まえ、総合的に判断していきたい。

○　連続テレビ小説は本局と大阪放送局で交互に制作しているが、ドラマの時代設定も戦前、戦後、現代というようなサイクルがあるのだろうか。昭和初期から戦後の話が続いているので、そろそろ現代の話を見たいと思っている。また、ストーリーを決める際に、若年層に見てもらいたいから現代劇を制作するなど、視聴者のターゲット層を定めているのだろうか。

○　時代設定のサイクルに法則性があるわけではないが、連続テレビ小説だけでなく、大河ドラマなども含め、可能な限り幅広い世代の方に見ていただけるものをお届けしたいと思い、テーマや舞台などを選んでいる。

（ＮＨＫ側）

次回作は明治・大正時代の「わろてんか」だが、平成３０年度前期は岐阜県を舞台にした「半分、青い。」を放送する。中部地方が舞台の現代の話が始まるので、是非ご覧頂きたい。

○　毎週、中日新聞にテレビ視聴率のランキングが出ているが、最近ＮＨＫの番組が半分を占めていることがあった。ＮＨＫは最近よく見られているのか。

（ＮＨＫ側）

「ＮＨＫニュース７」など、ニュースはよく見ていただけているほか、先週末の台風１８号のような災害情報は多くの方に見ていただける傾向にある。また、大河ドラマや連続テレビ小説などたくさんの番組を放送しているため、全部合算すると、ランキングの上位にＮＨＫの番組がたくさん上がることもある。もちろん、常時ＮＨＫがトップということはないので、もっと多くの方に見ていただけるよう努めていきたい。

○　ＮＨＫの放送範囲で東海エリアという場合、愛知、三重、岐阜の東海３県が基本とのことだが、静岡を含めた東海４県での放送はないのだろうか。

（ＮＨＫ側）

定時で名古屋放送局から放送している番組は、東海・北陸７県に向けた放送と、愛知県・三重県・岐阜県の３県に向けた放送の２種類がある。静岡県の視聴者は、三重県、岐阜県と比べると、名古屋圏よりも首都圏の情報

を知りたい方が多いため、定時での東海４県の放送は行っていない。ただし特集番組など、内容を考慮して東海４県で放送することもある。

○　「ウイークエンド中部」は、東海・北陸ブロック向け番組のため中部７県のイベント情報などを扱っており、大変興味深く見ている。自分が住んでいる県だけでなく、少し足を伸ばそうかという気持ちになるので、いい情報提供だと思う。

○　最近、重大なニュースが多い中で、速報スーパーやＬ字放送、特設ニュースなど「速報性」に関しての取り組みは日々感じているが、「放送内容の質」をより高めていくために何か取り組んでいることはあるのだろうか。

（ＮＨＫ側）

「放送内容の質」に関する取り組みは、日々努力しているということに尽きる。災害報道やミサイルなど緊急を要する機会が増えているが、情報の質を高めるべく努めていく。

○　伝えるべきニュースがあった際に、「Ａ社はこう言っている」というような伝聞で終わるのでなく、対象へのしっかりとした取材やＮＨＫとしての提言をしていって欲しい。

○　前回の意見聴取の際も申し上げたが、番組審議会では毎半期ごとに改定内容の説明はあるが、前期の結果はどうだったのかも教えて欲しい。ジャンル別などで総括してもらい、当初の目標に対して、視聴者の反響などはどうだったかなども聞いてみたい。

（ＮＨＫ側）

今年度前期について簡単に説明すると、まず総合テレビの目玉として「ごごナマ」を開始した。生放送にする

ことで緊急性を有するニュースなどを放送しやすくしつつ、より多くの方に見ていただけるような情報番組を目指している。視聴率は改定前と同水準で推移している。番組内容に関して日々視聴者からの意見を取り入れながら、定着を目指している。また、幅広い世代の方に見てもらえる番組を増やしたいと考え、「日本人のおなまえっ！」を開始した。視聴率は回によってばらつきがあり、試行錯誤が続いているが、平均すると改定前と同水準で推移している。できるだけ幅広い世代の方に見てもらえる番組を放送すべく、開発番組として試行、制作した番組を随時編成し、視聴者拡大の方法を探っている。Ｅテレについても、全体としては前年度と同程度の視聴率となっている。ＢＳ１は海外のプロスポーツなどを放送しているが、日本人選手の不調もあって視聴率は漸減傾向にあるものの、ＢＳプレミアムは上昇傾向にある。ＢＳプレミアムは、昨年度から「スーパープレミアム」と題して月１回、長時間の特集を編成している。視聴者にも定着してきたのか、これまでの最高値を更新するなど成果は上がっているのではと思っている。

＜放送番組一般について＞

○　７月２８日(金)静岡セレクション　人生デザイン　Ｕ－２９「英会話教室運営」(総合 後 7：30～7：54)を視聴した。かめちゃんこと亀澤奈保子さんの生徒は老若男女がいて、学びの目的も異なっているが、ゆっくり、のんびりを生き方のモットーに、間違えても楽しく英会話を学ぶ教室を開催している姿が映っていた。その姿は英会話教室というよりも、幸せの輪を広げている姿に見えた。出演者に自分を重ね合わせて共感できる番組だったと思う。英会話教室の収支のグラフや週間スケジュールを図で紹介するところが分かりやすかった。英語を学び海外でお菓子屋さんをするのだと、子どもたちが海外に夢を求めていることも、大変印象的な番組だった。

○　８月４日(金)静岡スペシャル　大河ドラマ「おんな城主　直虎」コンサー

ト(総合 後 7：30～8：43)を視聴した。６月に視聴した４３分の番組が、改めて７３分番組に再編集されたということで、臨場感あるドラマチックなコンサートが、藤井フミヤさんのソロパートや語りが加わることで、より一層深みが増したように思えた。司会の静岡放送局の吉田一貴アナウンサーの進行が絶妙な流れを作り出していた。番組ではないが、静岡県立美術館で開催している特別展「戦国！井伊直虎から直政へ」を見た。早朝から訪れる見学者たちは熱気にあふれていた。静岡県浜松市の「おんな城主 直虎 大河ドラマ館」など、大河ドラマを主軸としたさまざまな文化発信が地域理解や地域愛を育み、静岡県内外からの来訪者を迎えることで地域振興効果を及ぼしていると感じた。今後も期待したい。

○　９月１５日(金)静岡スペシャル「夏休みってなんだっけ？～大幅短縮で吉田町は…～」(総合 後 7：30～7：55)を視聴した。共稼ぎの家庭は夏休みが短い方がよいという意見や、夏休みがあるからこそできることがあるのではないかなど、保護者の間でさまざまな意見が交わされる中、番組では教育の質と教師の勤務時間の軽減、そして子どもたちにとって夏休みはどのようなものがいいのかという課題提起を行っていた。学校のチャイムや黒板に書かれたチョーク絵といった演出が、学校の現場をリアルに表現していた。

○　７月２８日(金)金とく「中部　境界線ワンダーランド」を視聴した。味付けや方言などさまざまな分野で、地域による違いがどこで現れるか検証していた。例えばタクシーの色が地域で違うなど、言われてみればそうだなと思った。また、愛知県の尾張と三河は歴史的にも長い間、東と西を分ける大きな文化の分岐点になっているということが改めて分かった。番組では中部地方の画像を東海・北陸７県で表示していたが、長野県や新潟県が入って９県だという人もいる。ＮＨＫの放送範囲ではなく、学校で習ったものや慣習で中部地方を捉えている人はどう理解するのかが気になった。大変興味が湧く内容で、まだまだいろいろな文化の違いがあると思う。今後も続編を作ってもらいたいと思える番組だった。

○　７月２８日(金)金とく「中部　境界線ワンダーランド」を視聴した。境界線というとても面白い視点で、改めて中部の多様性を知ることができた。民

放の情報番組で、道を歩いてうどんの味の境界線を見つける番組を以前放送していたが、ＮＨＫでは図表に入れることで視覚化されたことや、多くの人が利用する新幹線のホームのお店を取り上げることで、より分かりやすかったと思う。また、畳についても歴史を踏まえた話によって納得しやすく、文化は過去からつながっているのだと実感することができた。タクシーの色などについても、普段見ているのに全く気が付かなかったりと、新たな発見をすることができた。境川で狩猟生活と稲作が分かれていたという話は、初耳だったので少し驚きだった。沢山の境目が紹介され、バラエティに富んで楽しかったが、一つ一つの項目をもう少し深く知りたいと思う部分もあったので、続編を作るのであれば期待したい。番組の中で、富山大学の中井先生が解説する際に急に立って入ってくるのが不自然に見えた。アナウンサーとゲストが座ったままで、先生が立ってお話されている姿も、アナウンサーとゲストが横柄に見えてしまい損だと思った。番組自体の内容は大変おもしろかったので、続編を期待している。

○　７月３０日（日）日曜Ｔｕｂｅ　ショートストーリーズ「＃１２　神主を継いで・富山」を視聴した。高齢化や神社離れが起きている中で、悩みながらも講話を実施するなど神社を訪れてもらう機会を増やし、開かれた神社として氏子の皆さんを支え、また氏子の皆さんに支えられている姿が丁寧に描かれていた。若宮萌さんは、神社を継いで 3 年目だが、祝詞（のりと）を歌うようにあげる姿は、とても神秘的で卑弥呼を想像させた。番組の中で、自宅の新築工事に伴う地鎮祭で、萌さんに祝詞をあげてもらっていたが、歌のような祝詞によって土地が清められていくように感じられ、施主のご夫婦が幸せそうな顔をされていたのが印象的だった。神社は、初詣やお稚児さん、七五三、結婚式など様々な行事と密接につながっているが、そこで働く人に焦点を当てた番組を見ることは少なく、未知の世界だったのでとても興味深く見ることができた。今回、同年代のディレクターの生き方と対比して番組を作ったことで、社会の広がりを感じることができた。

○　８月４日(金)ナビゲーション「お寺が消えてゆく　～困窮にあえぐ　過疎地の僧侶たち～」を視聴した。お寺は全国でコンビニより多く、その中でも愛知県が最も多い事実を初めて知った。金銭に困窮し、将来廃止するしかな

いなど、身につまされるようなお寺の実情を的確に伝えていた。お寺の衰退は感じていたが、ここまで追い込まれているとは思っていなかった。國學院大学の石井研士教授の解説が簡潔で的を射ていたと思う。お寺の衰退が今まで表面化してこなかったのは、人々が長寿で、健康な期間が長いからだという話は、何とも逆説的で皮肉だと思う。集落の景色の映像やＢＧＭの効果により、過疎地の寂しさの実態がうまく表現されており、田舎から都市部へ移住し、田舎の衰退を傍観する者になってしまった人間への後悔を呼び起こすものがあった。全体を通して、郷里を離れた世代の宗教離れ、祖先崇拝の薄れ、精神文化の変容など、多くの課題を内包した番組だった。今後も継続して取材を続けてほしいと思った。

（ＮＨＫ側）

今回は富山放送局が取材した、富山の切実な問題としての発信だったが、全国でも同じように起きていることだと思う。今後、都市部への集中や高齢化社会の中で、より深刻になっていくと思うので、引き続き取り上げていきたい。

○　８月２５日(金)ナビゲーション「“モッタイナイ”をどう生かす～広がる食糧支援～」を視聴した。生活困窮者自立支援法が２年前に改正されたことをきっかけに食糧支援の取り組みが進んでいると紹介されていたが、どう法改正されたかが分かりづらく、その後の内容を理解するのが難しかった。世界の先進国でも日本は食料自給率が低い中で食品廃棄率が一番高いという、食品ロスの問題を取り上げることで、食糧というのものは本当に大事なのだということも、もう少し取り上げて欲しかった。一番基本の生理的欲求である食べることより、スマートフォンが大事という人のシーンが印象的で、番組を見終わって、こんなことでいいのかと思った。今後は食糧の話題のほかにも、番組で出ていたワーキングプアや格差社会について、ＮＨＫとして問題提起をしていって欲しい。

（ＮＨＫ側）

ワーキングプアについては「ＮＨＫスペシャル」で

2006 年にシリーズを始めて以来、毎年「ＮＨＫスペシャル」のみならず、「クローズアップ現代」や「あさイチ」など、さまざまな番組で多角的に取り上げている。一方で、社会情勢は悪化しているという現実があることから、ご指摘のとおり、今後も番組で取り上げていかなければならないと考えている。景気がいいという報道が大勢な中、かえって格差は拡大しているのではないかという関心で取材を進めていた。ご指摘があった生活困窮者自立支援法と食糧支援の関係については、生放送という放送時間の中で説明が足りなかったかと思う。生活保護世帯にはきちんと法的整備がされてきたが、一般世帯と生活保護世帯との中間層にあたる世帯へのセーフティネットがなかった。その中間層に対して、救いの手を差し伸べる趣旨で生活困窮者自立支援法が成立し、その中のひとつとして食糧支援があると理解している。ただ、そこまでの説明が番組の中で尽くせなかった。引き続き食糧支援に限らず、こうした格差の問題にも取り組んでいきたい。

○　先ほども申し上げたが、日本は先進国で一番、食品廃棄率が高い。食べ物という大切なものを、多くの金銭をかけて輸入し、また国内で生産しているが、結果的に家庭や業者が廃棄している。廃棄される予定のものが支援に回ることは良いことかもしれないが、そもそもの仕組みがおかしいのではないか。そういった仕組みに対してメスを入れるような番組づくりもお願いしたい。アフリカで何億人という人が飢餓で苦しんでいる中、そういった議論ができるような雰囲気を、ＮＨＫの番組を通して醸成していってほしい。

○　ナビゲーション「“モッタイナイ”をどう生かす～広がる食糧支援～」を視聴した。映像を通して、現代の貧困生活の実態をよく表現できていた。番組で廃棄されている食糧が 621 万トンとあったが、具体的にどの程度の量なのか、例えば昼食何人分というような説明があればよかった。廃棄量をより身近な数字で説明することが、その後の番組の展開にとって重要だったと思

う。食糧支援を受けている男性の実例を跡見学園女子大学の鳫咲子教授が解説していたが、誰でも食糧がほしいと言えば食糧支援を得られるのかと疑問が湧いた。生活困窮者自立支援法の解説をいれるなど、より広い視点からの話があるとよかったのではないか。出演していたＳＫＥ４８の鎌田菜月さんは、素直な表現でコメントしており好感が持てた。視聴者からの「食糧支援は作りすぎの観点からも問題にすべきだ」という意見はもっともだと思う。

○　８月２５日(金)金とく「追跡　巨大沈没船～若狭湾・隠された秘密～」を視聴した。偶然見つけた若狭湾の沈没船から、悲しく、苦しく、信じ難い、封印された歴史の真実に迫った番組だった。戦時中にオランダの病院船を拿捕し、日本の船にして秘密任務を負わせていたなどの事実が明らかにされており、このようなことは繰り返されてはいけないと強く感じた。番組は、当時の日本が悪く、負の遺産が若狭湾にあるのだという印象だけが残ってしまったのが残念だった。

○　８月２７日(日)日曜Ｔｕｂｅ「おもてなし中部　ｉｎ　福井　敦賀市」を視聴した。豪華客船が敦賀港に入港することをきっかけに敦賀市が紹介されていたが、訪れた店で外国語が堪能な店員がいるわけでもなく、屋台のラーメンはイスラム教徒の方が食べられないなど、どちらかと言えばおもてなしができていないシーンが多かったように思う。可能ならもっとおもてなしができている部分を見たいし、あるいは今後どうしていけばよいかも示して欲しかった。

○　日曜Ｔｕｂｅ「おもてなし中部　ｉｎ　福井　敦賀市」を視聴した。昨今、原発関連で報道される機会の多い敦賀だが、番組で映っていたハワイのような遠浅の海に行きたいと思わせるものがあった。一方で、食事をしたお店が、観光客など初見では入りにくそうな雰囲気に見えたことや、１、２人で旅行することが多い現代、周りの人と一緒に網引きをすることなどは、自分がその場を訪れた時に実践するのは難しいのではと感じた。シリーズで放送しているが、時間や金銭など労力をかけて観光地を訪れたときに感じるものや、訪れた人へのおもてなしとは何なのかを毎回考えさせられる番組だ。

○　９月１日(金)ナビゲーションスペシャル「身近に危機が！“異常豪雨”」(総合 後 7:00～8:43)を視聴した。この番組は、地元密着で我が身に降りかかる問題として期待を持って視聴した。さまざまな事例、備えに向けた取り組み、気象の仕組みなどを紹介しており、ニュースとして見れば一つ一つの項目は新鮮で良いのだが、多くの話題をオムニバスふうに盛り込みすぎだったと思う。視聴者が７５分間飽きずに見続けるには、全体を通して、制作者の伝えたい意図を明確にし、構成の筋道をたてる必要があるように思う。

○　９月３日(日)静岡スペシャル「家族になるということ～里親　それぞれの思い見つめて～」(総合 前 8:00～8:25)を視聴した。子どもは社会の宝だと思っているし、自分もそうやって親に育てられてきた。現代の家族のあり方は血のつながりよりも絆であるという話や、血がつながっている本当の親にはなれなくても社会的な親にはなれるという話を聞いて、さまざまなことを考えさせられた。

○　９月１５日(金)ナビゲーション「検証　原発避難計画～“再稼働時代”の陰で～」を視聴した。番組では、大飯原子力発電所再稼働の説明会における住民のアンケートやインタビューから、住民は原子力発電所の近くは危険性が高いという認識がある中、自治体で対応できる人数や予算が少なく対応が不十分なため、避難計画や避難経路の危険性が指摘されていた。また大飯町は原子力発電くらいしか産業がなく、予算や人口も少なく、かつ高齢者が多いため、ほとんど対応ができていないという危機感がよく伝わってきた。できれば、近隣の自治体が自らの予算で避難計画を充実させているという実例を提示するよりも国からのサポートや学者による提言など、解決に向けた糸口となるものを多く提示してもらえるとよかったと思う。

○　７月３０日（日）ＮＨＫスペシャル　列島誕生　ジオ・ジャパン　第２集「奇跡の島は山国となった」を視聴した。日本の成り立ちを、映像を通して見ることができて、大変おもしろかった。紀伊半島に火山が無いのに、何故温泉があるのか？など疑問を投げかけながら進行する番組に引きつけられた。単なる大きな岩で不思議としか思えなかったことが、番組によりカルデラ噴火の証拠だったと理解でき、ワクワクした。また、紀伊半島の下に６０ｋｍ

×２０ｋｍの大きな花崗岩があって、花崗岩が軽いために紀伊半島が持ち上がった、という説明にとても驚いた。太平洋プレートの移動による気候への影響を、模型を用いて説明することで、とてもリアルに実感できた。南海トラフの地震問題など、プレートの移動をまるで悪いことのように感じていたが、こういう番組を通して、日本の成り立ちを理解でき、地球の中の一部に自分たちが生活していることを認識することができる良い番組だと感じた。番組内でかなり、民放番組のタイトルをオマージュしていた。それをＡＫＢ４８の指原莉乃さんが、やりすぎと指摘するなど視聴者目線の出演者の起用はよかった。たしかに、オマージュしたタイトルにより笑いも取れていたが、あまりやりすぎると、せっかく保存版になるような良い番組なのに、ギャグが古すぎて数年後には使えなくなってしまう。また茶化しすぎたことで、番組がチープに見えてしまうのは、もったいないと感じた。堅苦しくなりがちな科学番組を、より多くの人に見てもらうためにバラエティ化したのだと思うが科学的な部分だけでも充分面白い番組だった。

○　８月２日(水)「チコちゃんに叱られる！」(総合 午後 7:30～8:15)を視聴した。チコちゃんというキャラクターと芸人の岡村隆史さんの絶妙なやり取りの中、疑問にさえ思っていなかったが聞かれると答えられないことを、ゲストの人たちと一緒に解決していくのがおもしろい。「なぜ学校で座高は測らないのか」という問いに、「７８年間意味があるのかないのか分からないことをしていたから廃止した」など、これまでのクイズ番組とは違う視点に目を向けた秀逸な問題と解答だった。特に印象に残ったのは、「親と過ごせる残り時間、わが子と生涯で一緒に過ごす時間は？」という問いの解答で、過ごせる時間が驚くほど短いということを知り、親や子どもたちと過ごす時間を大切にしたいと思った。前回３月に放送した第１回目の末尾で、４月２４日(月)夜８時から第２回の放送の予告が出ていたのに、実際には放送されなかったのはなぜか教えて欲しい。

（ＮＨＫ側）

この番組は将来の定時化や特集番組を目指す、いわゆる開発番組として制作したもの。３月の放送回末尾で４

月放送の予告をしたが、開発番組として、放送後にいただいた反響を踏まえて再度検討し、内容・演出をブラッシュアップすべく放送日を延期することにしたもの。１度告知をした後に変更となったこと、期間が数か月空いてしまったことは申し訳ない。結果的に、演出、放送時間を変更しての２回目の放送となった。

○　８月５日(土)ＥＴＶ特集「告白～満蒙開拓団の女たち～」を視聴した。この番組は、同じ女性として、また戦争を知る上でも見る必要があると感じていた。当時 21 歳の安江善子さんがうがい薬を子宮に入れて洗浄したという話は、耐えがたいものだった。その結果、子どもが産めない身体になってしまったが、妹のひさえさんが、自分の息子の泉さんを善子さんの養子としたことで姉妹の絆の強さを感じたとともに、２人がそれだけ辛い思いをされたことの裏返しでもあるかと思うと、胸が張り裂けそうだった。番組内で、泉さんの「戦争の愚かさはどこにあるのか？」との問いがあったが、戦後生まれにも関わらず、ずっと背負っている泉さんの苦悩は計り知れないものがあると実感した。ひるがの高原はのどかで、平和な良いところだと思っていたが、この番組で「蛭しか棲まない」から「蛭ヶ野」と呼ばれていた未開のひどい土地に追いやられざるを得なかった社会の現状、悲しみと苦労の中で生き続けてきた安江さんたちを思うと、本当に頭の下がる思いだった。また、無意識に人を傷つけてしまわないよう、そんな「土地の記憶」をしっかりと理解すべきであると感じた。つらい思いをされてきた方々が、これからも平和であるために、「戦争はひどい。だから戦争は絶対してはいけない」と身をもって私たちに伝えてくださった気持ちを、しっかり受け止めなくてはいけないと感じた。「前向きに生きることがしあわせの道しるべ」と、これだけつらい思いをした人たちから発せられた「しあわせ」という言葉がとても深く、それを目指して顔をあげて生きて行くことが大切なんだと改めて納得した。最後に、安江善子さん、佐藤ハル江さん、山本みち子さんたちが、本当によくインタビューに答えてくださったと感謝したい。また、番組制作者が、信頼関係を築けたからこそ制作できた番組だと感じた。

○　８月１１日(金)「究極ガイドＴＶ　２時間でまわるモン・サン・ミシェル」

(総合 午後 10:00～11:50)を視聴した。行ってみたいとよく聞くモン・サン・ミシェルを取り上げていた。島であることや、キリスト教の聖地であるなどとは全く知らず、今でも礼拝が行なわれているのは驚きだった。歴史や、行き方、建物の意味など、番号を振って紹介することでポイントが分かりやすかったり、地図を活用することで島の全容が把握しやすかったりと、丁寧な演出でよかった。ナビゲーターが島を巡るのではなくナレーションのみで、映像が旅人の目線になっているため、自分が旅をしているように感じるとともに、現地を訪れても見ることのできない建築物などまで見ることができたのは大変よかった。建築物だけでなく、現地の名物であるオムレツを見られたのも好印象で、卵を混ぜるリズミカルな音、作り方、名物の理由など、食べてみたいと思わせる内容だった。この番組を見ずに現地へ観光に行くのと、番組を見て知識を得てから実際に観光するのでは、旅の味わいが全く違うと思う。視聴後に現地へ一層行きたくなる番組だった。ぜひこのようなＮＨＫの旅番組を、番組だけでなく、ガイド本にしてほしい。

○　書籍化の話に加えて、ＮＨＫにおける旅番組の現状や今後どうしていこうと思っているか聞きたい。

（ＮＨＫ側）

本番組は現時点で書籍化の予定はないが、評価を頂いた上でご意見があったことは担当に伝えておく。書籍化に限った話ではないが、受信料を使わせていただいて制作した番組を、より活用していただけるのであれば、展開していきたいと思っている。旅番組については一定のニーズがあり、「小さな旅」などさまざまな番組で日本各地や世界を訪れている。視聴率だけではなく、視聴者の声をいただきながら、公共放送としてできること、できないことを踏まえて制作している。地域の魅力や伝統などを掘り起こし、その地域の方だけではなく、全国放送、国際放送の視聴者に伝えるにはどうすればいいか考えて制作する番組が増えている。「おもてなし中部」も

外国人の方の視点で地域の宝、魅力を再発見し、全世界から見に来てほしい、日本の魅力を探しに来てほしいという視点でお送りしている。旅番組の話を補足すると、ＢＳプレミアムを中心に、新しいタイプの番組制作に取り組んでいる。「２度目の○○」は、誰もが知っている有名な観光地を２度目に旅するなら、こういう所を訪ねたらどうかという疑似体験型の新しい旅番組だ。ほかにも「きらり！えん旅」は東北、震災の地を中心に歌手の人が巡る旅であり、「世界入りにくい居酒屋」は、地元の人しか知らないディープな名店を紹介するもの。「岩合光昭の世界ネコ歩き」は、世界中のネコを撮影している写真家の岩合光昭さんが写す世界中のネコを取り上げているなど、さまざまな旅番組を放送しており、有力なソフトとして力を入れている。

○　８月１２日(土)鶴瓶の家族に乾杯「鶴瓶のひとり旅スペシャル　２０１７＃１」(総合 午前 8:15～8:58)を視聴した。まず、笑福亭鶴瓶さんとゲストが地方を訪ねるという番組がこれだけ長期継続していることについて評価したい。毎回、出演者と地域の人々との交流が描かれ見ていて心が温まる番組になっている。今後も継続していってほしい。ＮＨＫには「ＮＨＫのど自慢」など、地方が舞台のすばらしい番組がある中で、本番組は著名人で都会に住んでいる鶴瓶さんが地方の町をふらっと訪れて、個人の家に立ち寄り、深く交流していくという構成を通して、都会と地方のつながりが非常によく現れている。また、これまでの放送回をオムニバス方式で振り返っていたが、どの地域でも鶴瓶さんが訪れてくれることを期待しており、とても歓迎されていた。地域の人たちからも、鶴瓶さんに自分たちの地元のよさを教えてあげたいという気持ちが伝わってきて、大変いい番組だと改めて見直した。地方の過疎化などが社会問題になっているが、心温まる庶民性、気さくな雰囲気、家族との深いつき合いなど、地方の人間に見ることができる人と人のつながりや、美しさに感動した。富山県八尾町の話では、地元の若者と鶴瓶さんの出会いや地域のお祭りに参加することで、八尾町の美しさ、特色や魅力を見事に伝えていた。宮城県東松島市では、震災の跡地を訪ねていたが、この回

は時間が経過する中で生じるあわれさや寂しさが伝わってくるとともに、その中にも人のつながりは生まれるという大変味わい深い内容だった。鶴瓶さんは、時に厳しい言葉も使う方だが、彼の笑顔に優しい人間愛や大らかな魅力がにじみ出ておりキャスティングの妙だと思う。鶴瓶さん以外にも、ＢＳプレミアム「にっぽん縦断 こころ旅」の火野正平さんや「ブラタモリ」のタモリさんなど、魅力的な出演者を軸にした番組をしっかり放送していると思う。今後も継続していってほしい。

○　８月１２日(土)土曜ドラマスペシャル「１９４２年のプレイボール」(総合 後 7：00～8：43)を視聴した。名古屋出身で４人ともプロ野球選手になった野口４兄弟の物語だが、ふだんドラマをゆっくり見ない私でも見入ってしまう番組だった。戦争というバックグラウンドがある番組のため少ししか触れていなかったが、次男の二郎さんは延長２８回を１人で投げ抜くなど、現在の大谷翔平選手のように投打ともにすごい人だったなど、彼らの偉業をもう少し取り上げてもよかったと思う。一方で、兄弟の絆を表現したかったのだと思うが、４兄弟の放尿シーンを３回も出さなくても良かったのではと思った。絆については、帽子に「約束」という文字を書き、それを守ろうとするところで示すことができていたと思う。特に三男の昇を始め、兄弟４人の投球、素振りなどの姿が、野球経験者の目から見てもしっかりしており、出演者の演技に感心した。

○　８月１３日(日)ＮＨＫスペシャル「７３１部隊の真実～エリート医学者と人体実験～」を視聴した。番組を通してたくさんの衝撃の事実、特に人体実験に戦慄を覚えた。この研究所は、満洲という医学界ではへんぴな、日の当たらない環境で密かに行なわれていたと思われてきたが、実際は日本のエリート医学者が学閥を越えて集まった、むしろ栄誉ある職場であること、学閥と関係して研究費を大学側がもらいつつ、京都大学や東京大学から直接派遣された医師たちが携わっていたことなどに衝撃を受けた。謎に包まれていた医学界のタブーを明らかにした、優れたドキュメンタリーだった。

○　８月１５日(火)　夏だ！サザンだ！　今日は一日“桑田佳祐”三昧(ＦＭ後 0:20～9:00)を視聴した。桑田佳祐さんファンの芸能人の方々が多数コメ

ントしていた。自分も知っている同じ曲でも、人によって浮かぶ風景、気持ちが違うというのが、新鮮だった。1 日中一人のアーティストについて放送するという面白い番組だと思う。また次回を期待したい。このようなターゲットをしぼった番組によって、ラジオ離れしていた人たちがラジオを聞くようになるのではないかと感じた。これからも期待している。終戦記念日という日に、サザンが流れる番組を聞くことで改めて「平和」を実感することができた。

○　８月２０日(日)大河ドラマ「おんな城主　直虎」第３３回「嫌われ政次の一生」を視聴した。番組の中核となる小野但馬守政次が死ぬ回ということで注目していた。政次を最終的に直虎が刺し殺すシーンでは、これまでの直虎と政次のやりとりが思い返され、涙がこぼれ、とても衝撃を受けた。まだ終わっていないが、次回作の「西郷どん」も含め、引き続き期待したい。

○　８月２１日(月)ノーナレ「元ヤクザ　うどん店はじめます」(総合 午後10:00～10:25)を視聴した。タイトルや元ヤクザの方の目つきの鋭さ、全身のイレズミ、小指のない手を映すところにインパクトがあった。やくざが更生したいと思っても働き口がなく、結局元のさやに収まってしまう悪循環の中で、手を差し伸べることができていない社会なのだと感じた。そんな中、１人の元ヤクザの方がリーダーとなり、ほかの元ヤクザの方たちと一緒に更生するために地道に努力する姿は見ていて感動した。一番印象的だったのは、番組当初は目つきの鋭さが目立ち、本当に更生できるのかと思っていたが、うどん作りの練習、接客の実践、開店という段階を通して、番組の最期には柔らかい目つきをしていたことだ。ＮＨＫが取材を続けることが、元ヤクザの方が途中で諦めず、困難を乗り越える糧になると思うので、引き続き取材をしていってほしい。社会にはこのような人がたくさんいると思うので、国や地域が力を合わせることが必要だ。

○　ＮＨＫニュース　おはよう日本「夏点描」を見た。夏点描のコーナーは、タイトル文字のロゴが大変おしゃれで、デザイン性が高く、気に入っている。８月２４日(木)放送の「子どものびのび　プレハブ文庫」は、小さいプレハブ文庫を開設したおっちゃんのもとに集まる子どもたちの日常が映し出され

ていた。さまざまな境遇の子どもたちを見守るおっちゃんのまなざしは大変優しく、そこにずっといたくなるような場を提供し、子どもたちを包んでいた。慕う気持ちが裏返しになって悪態をつく子どもたちの感情表現もよく取材しており、立派な建物よりも、心のよりどころのできる環境が今、求められているのではないかと気づかされた。こんなすばらしい取材をどんな方がしようと思ったのか、大変気になった。８月２６日(土)「まだ知らない絶景を求めて」は、香川県父母ヶ浜で、ボリビアのウユニ塩湖に行かなければ撮れないような絶景が映し出されていた。インスタ映えする写真撮影ができることで人気が広がり、そこに大勢の方が訪れていた。番組を通して、インスタ映えの撮影ということが観光資源として有効ということに気づかされた。日常の中にも可能性があるのではという、新しい視点をもらった。

（ＮＨＫ側）

「子どものびのび　プレハブ文庫」は神戸局のカメラマンによるリポートだ。兵庫県尼崎市の住宅にある６畳ほどの小屋で、定年後に自宅に文庫を作って、子どもたちの居場所を作りたいという男性が運営している。子どもたちに真摯(しんし)に向き合おうとするおっちゃんの姿を見て、リポートしたいと感じたことによるものだ。

○　８月２８日(月)クローズアップ現代＋「高校野球の“怪物”たち　最多本塁打はなぜ」を視聴した。大会のホームラン記録が更新されたことを取材し、高校野球終了直後に番組化するなど、非常にタイムリーな編成だった。高校球児の名前や感動した場面が過去のものになってしまう前に放送することはとてもよい。具体的な練習方法の紹介や、高校野球全体の数値データをグラフで表すなど、番組の構成も含め、近年の高校野球の戦術や選手の能力の変化が非常に分かりやすかった。変化は進化なのだと言った解説者の元監督、元野球選手たちの言葉は、大変現実味のある言葉だった。また、解説の小早川毅彦さんが、努力した者が勝つ、変えない努力が野球を変えていくといった言葉にも感動した。ようやく変化し、進化し始めた日本の高校野球から、世界に通用する選手が育ち始めたことが、野球をあまりよく知らない人間にも伝わる番組だった。

○　８月２９日(火)ニュース「北朝鮮ミサイル関連」(総合　午前 6:02～6:24 など)を視聴した。北朝鮮の大陸間弾道弾の速報を視聴した。朝７時前後の放送だったが、国際、外交、軍事など各分野の専門家が意見を述べるなど、速報に近いニュースでありながら、大変中味の濃い報道だった。アナウンサーも、早朝、かつ大事件でありながら、沈着冷静なアナウンスで、専門家を前にメリハリある進行をしていた。アナウンサーの適切な進行によって、専門家の説明もより分かりやすかった。事実確認、分析、評価、今後の見通し、首相をはじめとした閣僚のコメントなど、一般の方にも分かりやすく、安心・安全を提供できていたのではないか。今後も、Ｊアラートの伝え方などブラッシュアップしていくものもあると思うが、しっかりとした報道をしていって欲しい。

○　８月２９日(火)クローズアップ現代＋「あなたの遺骨はどこへ！？～広がる新たな“処分”～」を視聴した。お墓に納めるべき遺骨が貸金庫やコインロッカーに置き去りにされる案件や、散骨ビジネスが広がっているという実態が紹介されていた。散骨ビジネスには毎日のように依頼があり、２年で 1,000 件を越えるということに驚きを覚えた。代々のお墓を守っていくことを当然と思っている人でも、自分の子どもには迷惑をかけたくないと考える時があると思う。弔いの形として広がってきた散骨が受け皿になってしまうことに危険性はないのか、核家族化が進むことで問題が深刻化するなど、今後もこの問題の解決策を見つけるべく、続けて取り上げてほしい。

○　クローズアップ現代＋「あなたの遺骨はどこへ！？～広がる新たな“処分”～」を視聴した。　遺骨の処分が大きな問題になって、地方自治体が困っている現状や、散骨ビジネスが広がっているということを初めて知った。少子化や核家族化で、「墓じまい」を行う人が多いことは聞いていたので、遺骨の処分が問題になるのは当然といえば当然のことだと思った。日本の少子高齢化や社会状況の変化から、空き家が増えたり、寺がつぶれたり、身寄りのない年寄りが増えたり、終活が必要とされたりと、人生の終わりにかかる課題が多く、自分自身の将来にも不安が大きい現状がある。これらに関しては、ＮＨＫでも多くの番組で取り上げてきており、社会問題化しているといって

よいであろう。今後もこういう番組をつくっていく上で、問題提起だけでなく、問題解決につながることを取り上げていってほしい。今回の番組でも、問題提起としての事例紹介が多く、最後にゲストによる解決策の提案がされていたが、「家族での弔いから、地域での弔い」といった提案などは、都会はもとより田舎でも地域のつながりが弱くなっている現状ではナンセンスだと感じた。武田真一キャスターが口にした自治体などでの対応の方がまだ現実的だと思う。また業者の処理による問題点がよく読み取りづらいなど、テーマの視点は良いので今後は一層の現状把握に努めた上で解決策を提案してほしい。

○　また、９月１２日(火)「多発する“記録的大雨（キロクアメ）”新たなリスク」を視聴した。河川の水位計、気象庁のＨＰ情報を活用しようとする糸魚川市や、独自の雨量情報をタブレット端末で受けて町内で対応する富山市の事例などを紹介していたが、これらの情報は、ＮＨＫとして取り上げるには意味のあるものだと思う。一方で、すでに多くの地域で豪雨対策が行われている中で、今年の被害は生じており、それぞれの地域における対応策の実例と問題点を洗い出し、その対策を具体的に行えるかが肝要だと思う。しかし、番組のまとめはリアルタイムで心配される台風１８号に結び付けながら、「身の周りのリスクを洗い出せ」だった。事例紹介だけでは誰も動かないだろうし、誰に何をしてほしいのか、より明確にして欲しい。「災害から身を守るのはあなた自身です！」ということを前面にして、予防やＳＮＳ情報があっても、自分自身で身を守ろうとしないとダメだということをもっと強く伝えたほうがわかりやすいと感じた。昔は、情報が少ない中でも、みんなそうしていたと思うが、情報量過多で、マスコミや自治体などに頼り切っている現状では、それに対する対応策が個人レベルで十分でないことが問題だと思う

○　８月３１日(木)クローズアップ現代＋「北朝鮮ミサイル発射　危機の行方は」、９月４日(月)クローズアップ現代＋「北朝鮮“水爆実験”の衝撃　危機の行方は」、９月１０日(日)「これでわかった！　世界のいま」を視聴した。「クローズアップ現代＋」は、各専門家からの解説が難しいと感じた一方、「これでわかった！世界のいま」のＮＨＫの津屋尚解説委員の解説は、

パネルを使って分かりやすく、難しい言葉も使わずに丁寧に説明されていたため、これまで見た番組で一番理解しやすいものだった。専門的な話を平易に説明することで、幅広い世代に受け入れられる番組を作ってほしい。

○　９月７日(木)ハートネットＴＶ　ＷＥＢ連動企画“チエノバ”「精神科病院の“身体拘束”を考える」を視聴した。視聴者からの意見がリアルタイムで表示される中で、精神科医で筑波大学大学院教授の斎藤環氏の話はわかりやすく、コメンテーターの荻上チキ氏のコメントも、斎藤氏の話を別の表現でかみ砕いてくれたこともよかった。このような一般に知られていなくても、重要な問題を取り上げたことは高く評価できる。しかし、内容的には、多くの視聴者からの意見にもあるように、まず、やや現状の解析が弱いと思う。ゲストが現状の身体拘束に批判的な意見であることは理解できたが、それは一方の意見でしかないので反対意見を言うゲストなりコメンテーターを出演させて議論を活性化させてほしい。問題提起するくらいの時間しかない中で、今後の解決策まで示唆しようとするゲスト、コメンテーターの発言まで詰め込むことで一方的な意見を押し付けているように感じられた視聴者もいたのではないか。

○　９月７日(木)人名探究バラエティー　日本人のおなま　えっ！「【部のつく名字】～９割以上が○○部サマ？～」を視聴した。今回の【部のつく名字】の由来は、地形だけでなく、職業にもあったという内容は興味深かった。一方で、浜名湖でウナギを食べるなど、名前の由来とは別の取材が多いと感じたので、もう少し名前に関して掘り下げてもらえればと思う。後期改定後も続くとのことなので、より一層、内容のある番組にしてほしい。

○　９月１０日(日)日曜討論　第１部「小野寺防衛相に問う」第２部「北朝鮮相次ぐ挑発」を視聴した。日本列島を飛び越す弾道ミサイルの発射や、水爆実験の強行など、戦後最大の安全保障問題をどう取り上げるのか、どんな討論となるのか、大変興味深く視聴した。他の討論番組と比較して、沈着な分析をする出演者が多く、かなりテーマを掘り下げた討論会になったと思う。司会者も視点が非常にしっかりしており、切り口をきちんと示して討論会を引っ張っていた。特設ニュースの時も感じたが、ＮＨＫのアナウンサーのレ

ベルの高さを感じた。人間の欲望や歴史的な問題などが根幹にあるため、傍観し、祈るだけでは解決しない問題だと思う。今後もしっかりと取り上げていってほしい。

○　９月１６日(土)ラン×スマ～街の風になれ～「“朝ラン大会”に挑む！～福井・南越前町　花はす早朝マラソン～」を視聴した。参加者夫妻の家族愛、マラソン愛を感じる大変すばらしい内容だった。早朝に走るという大会の特徴や、それに合わせた準備のしかたの紹介も分かりやすかった。この大会の一番のポイントは、大会運営を地域の方が行うことで、地域愛があふれる大会であることだと思っている。例えば１０㎞以上走った方に地元の婦人会が作ったお守りを配布しており、それを楽しみに毎年出られる方もいらっしゃるなど、他とは違う特徴をもう少し取り上げてもらえると、より良い内容になったと思う。

○　９月１８日(月)特集ドラマ「眩（くらら）～北斎の娘～」(総合 後 7:30～8:43)を視聴した。有名な父だけでなく、父と娘が同じ絵師であり、その娘に光が当たっていく番組として楽しく見させていただいた。２２日(金)の総合テレビ「歴史秘話ヒストリア」でも取り上げると聞いているので、楽しみにしている。

○　９月２０日(水)ガッテン！「世界も注目！あなたの知らない“こんにゃく”パワー」を視聴した。こんにゃくにより味をしみ込ませる方法は非常に驚きだった。季節感も合致しており、これからおでんをつくる時などに実践してみようと思わせる番組だった。

○　９月２０日(水)ニュースウオッチ９を視聴した。有馬嘉男キャスターが、国連総会でのトランプ大統領の発言に対して「アメリカファーストというトランプさんの主張は古い中世の時代のもので、相手にしないという反発の声の方に僕は共感を覚えてしまいました」とはっきり主張していたのが印象的であり、その主張に共感した。

○　連続テレビ小説「ひよっこ」を視聴している。「ひよっこ」は、日常では

起こり得ない、取りとめのない事件の連続が持ち味の番組だと思う。毎日楽しく視聴している。

ＮＨＫ名古屋放送局
番組審議会事務局

平成２９年７月ＮＨＫ中部地方放送番組審議会

７月のＮＨＫ中部地方放送番組審議会は、２０日(木)、ＮＨＫ名古屋放送局において、１０人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、ナビゲーション「みんなと学びたい～どう支える？“医療的ケア児”の教育～」について説明があり、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、今後の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長	小澤　正俊	（大同特殊鋼（株）相談役）
副委員長	小寺　功子	（三重県漁協女性部連合会会長理事）
委員	井口　昭久	（愛知淑徳大学健康医療科学部教授）
	稲村　修	（魚津水族館館長）
	清川　卓二	（清川メッキ工業（株）専務取締役）
	徳田　八十吉	（徳田八十吉陶房代表）
	中村　智景	（四季料亭「助六」女将）
	長谷川明子	（日本ビオトープ管理士会中部支部会長）
	東　惠子	（東海大学海洋学部環境社会学科教授）
	真能　秀久	（中日新聞社常務取締役）

（主な発言）

＜ナビゲーション「みんなと学びたい～どう支える？“医療的ケア児”の教育～」７月７日（金）放送について＞

○　番組で取り上げたケースは、より多くの人と触れ合って成長して欲しいという両親の願いで特別支援学校ではなく、通常学級に通わせることにした、その選択が両親の不安を生むことに繋がっていると思うので、そこにもっと触れてもよかったのではないか。自分が育ってきた環境では医療的ケア児が身近におらず、特別支援学校に通っている子がいるくらいだった。番組のように子どもの時から医療的ケア児に接する人が増えることで、障害者との関

係性も変わっていくのではないか。公共放送として今後もこのような番組を放送していってほしい。運動会など、主人公が体力的にクラスメートと同じことができないシーンが多かったが、きちんとできた部分もあれば見たかった。医療的ケア児を考慮したカリキュラムを組むことの難しさが、学校の先生たちの取り組みを通して描かれるとよかった。また、いじめに直面したとき大人がどうフォローするか、子どもたちが成長していく中、医療的ケア児と接する事で人の痛みが分かるようになるのではなど、今後につながるような部分を伝えてほしかった。医療的ケア児である主人公がどんな気持ちで通学しているかがずっと気になっていたが、本人が「みんなといるのがたのしい」と書く最後のシーンを通して、制作者のポジティブな思いが伝わってきた。この番組が医療的ケア児をどう受け入れていくべきか考えるきっかけになればと思う。

○　医療的ケア児が支援を得て通常学級に入学し、成長していく日常が鮮明に描かれており、大変説得力のある番組だった。自分は医療的ケア児の存在をこの番組で初めて知った。また、保護者、教師、医者、行政の連携が重要であること、自治体が既存の制度を柔軟に活用したことなどが語られる中で、実際に入学するまでの道のりの厳しさを知った。番組では、障害を抱えながらも、学友の手の平に指で文字を書いてコミュニケーションをとるなど、優しさやハンディを克服する生きる力に、とても感動した。通常学級の生活の中で、皆と一緒にできないこともあるが、その悔しさや感情が、人としての成長を育んでいると思う。教育の現場にいる者として、子供の可能性が伸ばされていることを実感し、勇気をもらった。また、番組を通じて、両親の勇気とコメントが素晴らしく、胸が締め付けられるとともに、生きる重みを感じた。今後は、医療、福祉、教育などさまざまな分野が連携を図り、切れ目のない支援体制の確立が望まれる。このような番組で実例を伝えていくことで、社会が障害を持つ子を受け入れる環境作りの一助になるのではないか。今回、この番組を通じてＮＨＫの「ハートネット」というポータルサイトの存在を知った。ひとりで悩むのではなく、同じ悩みを抱える人の声を聞くことで救われる人もいると思う。改めて公共放送としてのＮＨＫの存在意義を実感した。

○　自分が子どもだったときは、心や体が不自由な方と接する機会があまり無かった。そのため、自分が主人公と同じ境遇だったらどう思うか、友達として優しくできるか、友達の親だったらどうするかなど、さまざまなシチュエーションに自分を置き換えながら視聴した。海外で医療的ケア児に該当する子どもの教育は日本とどう違うかなどを知りたいと思った。グローバル化にともない、日本でも小さいときからさまざまな人とつき合い、同じ人間でも違いがあるということを学ぶ機会が増えている。人は一人一人違うことを理解しつつ、どんな形であれ、自分の意見を言えることは大切だと感じた。

○　今回の番組は３つの視点があった。１つ目は、主人公を支える社会、行政。２つ目は、それを受け入れる学校や家族。３点目は、医療的ケア児である主人公であったと思う。社会、行政の立場では、前例主義になりがちな行政が、既存の法律の中で柔軟に対応し、看護師を手配する前向きな姿は、今後の行政の姿勢の変化を期待させるものだった。国民の６％を超える方が何らかの障害を有しているといわれており、学校のクラスに置き換えれば、クラスに１人か２人はいる計算だが、実際に障害者と接する機会は、自分はそこまで多くなかった。従業員が一定数以上の企業では、障害者を従業員の２％以上雇用することが義務づけられているが、実際は半分以上の企業が実施できていないのも、障害者とふれあう機会が少なかった人間が多い中で、組織として障害者を受け入れなければならないギャップが原因だと思う。子どもの頃から障害者も自然に受け入れられる社会が必要だと感じており、周りの子どもの成長につながることなどを付け加えてもらえると、より番組に広がりが出たのでは。学校という立場では、教師、看護師に加え、特にクラスメートが医療的ケア児を自然に、いたわりながら受け入れている姿が非常に印象的だった。特に音楽の授業で、クラスメートや先生が主人公の発表を自然な感じで受け入れていたところが感動的だった。人生に大事なことは金銭や名誉ではなく友達であるということを感じ取ることができるすばらしい番組だった。

（ＮＨＫ側）

いじめの可能性についてご指摘があったが、医療的ケア児という存在を周りの子どもたちが本当はどう受け止めて

いるのか、局内でももっと深く知りたいという声はあった。学校の協力の下、子どもたちにも自然な感じで取材協力をいただいたが、もう少し取材を掘り下げることが出来ればよかったかと思う。

○　番組の構成は、過剰な演出やコメントはなく、自然な展開で好感が持てた。近年、ＮＨＫの番組などを通して、フィジカルやメンタルに障害がある方が社会的にクローズアップされている。本番組でも、本人や周囲の人間が抱える悩みの大きさと、それに立ち向かっていくたくましい姿に感銘を受けた。一方で、１人の子どもに１人の看護師を付けるような対応が自分の住む自治体でも可能か、周りの児童や保護者、教員がどこまで理解してくれるのかなど、自分の身に置き換えたとき、非常に考えさせられる内容だった。社会的弱者の現状を伝えることはＮＨＫの重要な役割であり、高く評価できるものだった。今後も取り上げていってもらいたい。一方で、現在の学校や保育園の現場では、給食のアレルギー対策や未納給食費の収納、保護者対応といった本業の教育以外の業務の増加に苦労している。社会福祉や教育、地方行政、さらには個人の働き方対策など、さまざまな問題はお互いに関係し合っていると思う。一面からだけの問題提起ではなく、さまざまな立場の視点を踏まえ、総合的な解決に向けた番組制作を行ってもらいたい。それができるのはＮＨＫだけだと思う。

○　医療的ケア児の問題は今回初めて知った。また、昨年の児童福祉法改正にともなう通知まで、国が医療的ケア児に言及したことが無かったことも驚きだった。番組冒頭の何気なく遊ぶ子どもの喉にチューブを差し込む映像や、それを毎日繰り返すという話に衝撃を受けた。毎日数時間のたんの吸引が必要で、家族か医療従事者しか出来ないため、看護師がいつも付き添っている姿も印象的だった。医療的ケア児への対応については各自治体が独自に模索しているが、看護師不足の中、制度の特例を用いて専属の看護師を確保したという行政の対応に驚くともに、誰にでも、どこでも出来ることではないのではないかとも思った。また、通常学級に医療的ケア児が入ることで、本人の大変さ、ほかの子どもへの影響、担任の負担増加などのリスクを考えれば、特別支援学級のほうが適しているという見方もあり、そのような意味でも今

回は極めてまれなケースだと思う。本番組はあくまで一個人にクローズアップしていたので、ほかの医療的ケア児はどうしているのか、福井県以外の自治体の対応はどうなっているのかなどが知りたくなった。番組では、医療的ケア児とその家族、クラスメート、教師など、関係者が皆で一丸となって取り組んだことや、児童の成長や達成感が教育に効果的であったことを伝えたかったのだと思うし、それは成功していた。医療的ケア児の教育における多くの問題を投げかけ、あえて解釈しない番組の構成も良い印象を与えていた。できれば、両親のうれしそうな表情や、先生の達成感のようなものがもう少し出ていると、もっと良かったと思う。

○　３０年前にも名古屋市内の小学校で障害児を通常学校で迎えることが議論になるなど、この問題は古くからあった。当時は今回紹介されたような制度や医療機関との連携もなく、当時と比べここまで理解が進んだのかと感慨を持つ一方、まだこれだけの課題が残っているのかという印象を受けた。障害の種類や程度は一人一人皆違うし、得意不得意や身体の能力の特徴は十人十色なので、教育はそれぞれの個性に合わせて行うことが基本だと考えればいいと思う。また、医療的ケア児を通常学級で受け入れることで本人よりも周りの人の方が大きな教育効果を得ると思う。医療的ケア児ができないことを周りが自然に支えることで成長できる点などをもう少し強調してもよかったのでは。主人公の今後に向けて２つのポイントがあると思う。１つは、高学年になり、成績主義や中学校受験など、学校生活の中に社会的な要因が入ってきた時、周りがどう反応し、本人がそれをどう捉えるかということ。もう１つは、今回なぜ特別支援学校が選ばれなかったのかということ。特別支援学校は、個人の状態に合った教育プログラムを組んで児童を支援し、社会に送り出すことができるはずなのだが、今回のケースを見て、まだそういう機能を持ちえないのかと思ってしまう。特別支援学校と通常学級がそれぞれ役割を持ちつつ、連携できるような新しい事例があれば今後見てみたい。

○　今回の番組で、医療的ケア児という言葉を初めて知った。最初はたんを吸引する場面や同級生から遅れて走る姿を見るのがつらかったが、番組が進むにつれて主人公が精一杯の力で走ったり、勉強したり、友達の中で遊んだりする姿や、家族、学校、医療関係者の支えを見るにつれ、頑張れと応援しな

がら見るようになった。医療的ケア児とは違うかもしれないが、自分には障害者の家族がおり、５０年前の両親の努力や周りの反応を思い出した。昔より社会的弱者が世の中に受け入れられている現状を知ることができたのは良かったし、よき理解者が多くなったことはすばらしいと思う。医療的ケア児を迎え入れる同級生の親の意見なども聞いてみたかった。今回はコメンテーターがいなかったため、専門的な意見に寄らず、素直に自分の気持ちで番組を見ることができたのも良かった。取材者の医療的ケア児に対する「皆に支えてもらって嬉しい？」「学校は楽しい？」という質問はあまりいい感じがしなかったので、「遊べて嬉しいね」とか「来られていいね」といった、見ていてほっとする質問のほうがよいのではと思った。医療的ケア児とその周りの関係者を今後も引き続き取材し、誰でも、どの地域でも通じるモデルを紹介できれば、より理解が広がっていくのではないかと感じた。

○　医療的ケア児という言葉や、児童福祉法の改正で医療的ケア児を本人や保護者の意向を尊重して通常学級に受け入れる動きがあることを、この番組で初めて知った。同世代の子どもたちと関わってほしいという親の願いに、どれだけ多くの人たちが理解を示し、支援しなければ通常学級に通うことができないかという実状がよく分かった。番組前半は主人公が同級生と同じことが出来ないことをどこまで受け入れているのか、通常学級に通ってよかったのか心配になったが、番組後半で、皆の前に出て自分の意思を一生懸命示したことが、病気の再発という不安を抱えながら見守る家族にどれだけの喜びを与えただろうかと思い感動した。番組最後の「みんなといるのがたのしい」という言葉は、主人公が、自分を受け入れてくれる同級生を大事に思っているからこそ出てきた言葉だと思う。看護師を確保しづらいなど、医療的ケア児への国や自治体の対応がまだ不十分なことを伝えたいのか、ひとりの医療的ケア児を受け入れていくドキュメントを見せたかったのか、やや不明瞭だった。

○　この番組で医療的ケア児が全国に 17,000 人もいることを知るとともに、本人、両親、医者、学校、同級生、行政がそれぞれの立場で、障害という苦難を克服しようと努力している姿や課題が伝わってきた。教育現場の最前線や地方の実情を悲観的にならず、温かく、明るく取材したことに敬意を表した

い。命の大切さをしっかりと問いかける姿勢は今後も継続してほしいし、こういう番組を地域から全国に発信することで、行政に対しても刺激を与えてもらいたい。番組最後の「みんなといるのがたのしい」という筆談のシーンを見て、主人公の成長をとても楽しみに感じるとともに、いろいろと苦労が待ち受ける中で、支援する人々の努力が報われたような気にさせてくれた。

（なお、欠席の委員より、文書で次の意見が寄せられた）

○　取材を受けた主人公は、たんの吸引を必要とするのみならず、右半身麻痺という障害を持っており、日常生活を普通に送ることが困難な状況にもかかわらず、通常学級で機能回復に努力する姿には頭が下がった。また、障害をもたない児童も、クラスみんなで医療的ケア児を支えるという行動ができ、児童の人間形成にも良い影響を与えると思った。一方、教育現場では、医療的ケア児をどこまで障害を持たない児童と同じ扱いをして良いのか、意欲と安全のバランスが難しいことも良く分かった。こうした医療的ケア児を通常学級で教育するためには、行政、学校、医師等の連携が大変重要だと感じた。看護師不足の中、どのようにして、医療的ケア児を担当する看護師を確保しているのか、優良事例を示すとより良い番組になったと思う。さらに、医療の進歩する中で、こうした医療的ケア児が増加する傾向であり、将来、社会で活躍できる人を育てる制度を早期に充実させることが必要と感じた。

（ＮＨＫ側）

この番組の趣旨としては、主人公の成長ぶりが良かったと思っていただくよりは、今回のケースが属人的な努力と制度上の苦肉の策で初めて可能になった事実を通して、制度の整備について考えるべきと感じていただきたかった。また、ご指摘のとおり番組の舞台となった学校は、特別な支援や手当てがあるわけではない普通の公立小学校であり、取材を通して、先生方の負担軽減を含め、よりきめ細かく教育の効果を考えていかなければならないのではと感じた。また、なぜ特別支援学校が選ばれなかったのかというご意見があったが、今回は特別支援学校への入学を勧奨された年にたまたま入学生が少なく、１人で学ぶことになってしまったため、あえて

ご両親が通常学級を希望されている。特別支援学校も、障害の種類と度合いによっては必要だと思うので、両親や本人が望む教育が可能な限りかなえられるような制度などが整えられていけばよいと思っている。

＜放送番組一般について＞

○　６月２３日(金)「ほっとイブニング」を見た。番組内のコーナー「とりっぷ愛知」で豊明市の花卸市場を取り上げていた。世界で５番目に大きな花の市場で、ＩＴ化が進んでいるなど、こんな所があるとは知らなかった。非常にほのぼのとする良い話題だった。

○　６月２９日(木)「ほっとイブニング」を見た。この時期は将棋の藤井聡太四段が連勝中で、藤井四段や将棋の話題を取り上げていた。名古屋で将棋盤を作っていることを番組内のリポートで初めて知ったほか、藤井四段の学校生活の話が興味深かった。

○　「ほっとイブニングぎふ」を見た。番組導入部分の音楽が柔らかく、ほっとした気分で見始められた。番組を視聴すると、同じ岐阜県内でも地域性が分かれていることが分かる。相撲のぼりの職人が岐阜県にいること、祭りなどの地域のイベント、スポーツで活躍している人など、さまざまな事柄を知ることが出来て興味深かった。ちなみに、金曜日に週末のイベントを紹介するときは「あす」「あさって」よりは、「８日の土曜日」など数字を使った方が分かりやすいと思う。また、毎週金曜日の天気予報で実施しているバーチャルセットを使った大きな天気図での説明が分かりやすい。表示範囲が大きいため、地域を細分化し天気が表示されるので重宝している。天気予報だけでなく、リポートや特集などで他県のことを取り上げる場合もあるが、「ほっとイブニングぎふ」として、できる限り岐阜県のことを積極的に紹介していってほしい。今後も地域のニュースとして、アナウンサーの笑顔や優しさを感じながら、ほっとした気分で見ていきたい。

（ＮＨＫ側）

番組でお届けする情報は、その日のニュース項目の状況を

見ながら、岐阜県民が関心のありそうなものをピックアップしている。岐阜局としても、可能な限り岐阜県の話をお届けしたいと思っているので、引き続き番組制作に取り組んでいく。金曜日の天気予報は、岐阜県の詳しい気象情報を、原則週１回のみ岐阜局から実施しているものだ。従来の天気予報を継続的に見てくれている視聴者もいるため、気象情報の伝え方については、今後の反響をふまえ総合的に検討していく。

○　６月１７日(土)Ｕｔａ－Ｔｕｂｅ「祝２００回スペシャル　きょうは生で感謝まつり！」を見た。番組審議委員を務める前から知っていたが、今では200回も放送していることに驚きを覚えた。過去には石川さゆりさんや、いきものがかりなどトップアーティストも多数出演しており、そこをもっと前面に出してもいいと思う。また、歌手とライブ参加者の年代層が合っていなかったようにも見えたので、今後はその辺りも考慮するといいのでは。

○　６月２５日(日)日曜Ｔｕｂｅ　金とく・選「長良川鵜飼　～１３００年の伝統を未来へ～」を見た。1300 年の歴史がある岐阜の長良川鵜飼は、国の宝とも言える貴重な歴史的財産だと思う。俳優の近藤正臣さんが現場を見て回りながら鵜飼をひもといていく番組で、長良川鵜飼の歴史や、鵜匠と鵜の関係、自然との関わりなどがよくわかるすばらしい番組だった。鵜飼の知人が宮内庁式部職を兼ねている事を長年疑問に思っていたのだが、番組を視聴して、明治時代に鵜飼を宮内庁管轄にすることで伝統文化を維持したことが由来なのだと理解できた。今後も身近な文化財として受け継いでいくために、歴史を始め、長良川鵜飼を理解することが重要だと再認識した。また、歴史的意義以外にも、長良川の清らかな流れ、水音や鵜の鳴き声、かがり火の火花、真っ暗な金華山の黒のグラデーションなど、映像美としても感動する内容だった。

○　７月９日(日)日曜Ｔｕｂｅ　金とく・選「伊豆の海　冒険！シーカヤック紀行」を見た。自分も伊豆の海に潜ってみたくなるような内容だった。水中の世界に思いをはせることで、また新しい世界の作品ができるかと創作意欲をかきたてられながら視聴していた。ＮＨＫオンデマンドもいいが、過去の

番組でも、内容や季節感が合致していれば、セレクションとして地上波で編成することで、気軽に視聴できてよいのではないか。

○　７月１４日(金)ナビゲーション「中村俊輔　３９歳　～広がる共感～」を見た。番組のねらいは、中村選手と同世代の方が、挑み続ける気持ち、向上心に勇気をもらい、自分の仕事、人生を省みて共感を覚えることだったと思う。しかし、理想のサッカーを求めてプレーし続ける姿や、命をかけてきたものを後輩に伝えたいという言葉など、中村選手のサッカーに対する強い思いに圧倒されてしまい、登場する社会人３人が付け足しのように見えてしまった。３月１７日(金)に「静岡スペシャル」で放送した「ここにサッカーを残したい～中村俊輔　３８歳の現在地～」の続編とも取れる内容だった。不安定な世の中で暗いニュースが多い中で、真摯（しんし）に生きるすがすがしさこそ、今多くの人が求めていることだと感じた。

○　データ放送で、天気予報や、気象図などを常に出してくれているので非常に助かっている。高解像度降水ナウキャストなど、今後も充実させていってほしい。

○　６月２日(金)ごごナマ　助けて！きわめびと「メークと掃除　もっと知りたい！」を見た。家がゴミ屋敷になってしまった方が出演していたが、私もあまり掃除が得意ではなく、自分が掃除に関して母に言われた言葉を思い出したり、出演者の女性を自分に置き換えて感情移入しながら視聴した。「100万円あげることになったとしても絶対掃除しない」と言っていた部屋がきれいになったのは衝撃的で、番組を参考にしようと思った。

○　６月１７日(土)ブラタモリ「＃７６　名古屋・熱田」を見た。自分の周りで非常に評判が良い。放送後に熱田神宮近くの坂を通るとき「この坂はタモリさんが歩いた台地の縁なんだな」など、ふだん歩いていた場所が違う視点で見えるようになるところが改めておもしろい番組だと思った。一方で、名古屋を取り上げるのであれば、名古屋駅周辺を取り上げて欲しかった。土地のなりわいや、駅前再開発に対して警鐘を鳴らしている地震の研究家がいるなど、「金とく」などでも、自分たちが住んでいるところは一体どういうと

ころなのかがわかる番組を作っていただけると、楽しく見ることができると思う。

○　６月１８日(日)ＮＨＫスペシャル「睡眠負債が危ない～“ちょっと寝不足”が命を縮める～」を見た。番組ホームページで睡眠負債に関するアンケートを行っており、自分も放送を見ながら参加した。最近の番組は、放送と一緒にこういう取り組みをするものがあって楽しい。健康に向けた注意喚起として良い番組だった。

○　６月１８日(日)ＮＨＫスペシャル「睡眠負債が危ない～“ちょっと寝不足”が命を縮める～」を見た。小さい頃は夜更かしする大人の世界に憧れていたが、現在は可能な限り睡眠時間をとるようにしている。自分の周りにも寝不足な人が多いので、この番組を引き合いに睡眠をとるように推奨している。

○　６月１８日(日)ＮＨＫスペシャル「睡眠負債が危ない～“ちょっと寝不足”が命を縮める～」を見た。毎日のちょっとした寝不足がたまり、それが睡眠負債になるということをこの番組で知った。睡眠負債のリスクを抱える方が６０％も存在すること、がんや認知症、日々のやる気にまで影響するといった専門家の話を聞き、自分も睡眠負債を抱えているのではと恐ろしさを感じた。また、睡眠負債の返済方法として、寝る時間と起きる時間を１時間ずつ増やすなど極意が紹介されていたが、とても簡単なことだったので早速実行してみようと思った。番組内で募集した質問や意見に分かりやすく、丁寧に答えてくださる先生方の人選も良かった。私はこの番組を生放送で見ることができなかったので、チェックリストに参加できなかったのは残念だった。

（ＮＨＫ側）

「睡眠負債が危ない」のチェックリストは、現在も番組ホームページで診断できるので、ぜひやっていただければと思う。このチェックリストは、放送前からホームページに掲載し、生放送中には連動データ放送でも視聴者の方々が診断できるようにした。番組の視聴者一人一人に自分の睡眠負債のリスクを知っていただくための試みで、事前および放送中に

２５万人以上の方に参加していただいた。インターネット等による調査のため精査が必要だが、番組制作に協力いただいた研究者たちからも、多くの有意義なデータが集まったことのへの評価をいただいたと聞いている。視聴率も高く、社会にインパクトを与えた番組だと思う。

○　６月２５日(日)ＮＨＫスペシャル「人工知能　天使か悪魔か　２０１７」を見た。番組の視点、構成が素晴らしく、制作者の意図も分かりやすかった。番組では、開発者もＡＩが答えを出す過程が分からず、ＡＩが判断の根拠を人間に示せないという問題点を提起しており、今後はＡＩの開発に加え、解析研究へと移行していくのではと思った。人間の肉体的な部分を機械がりょうがしたように、頭脳的な部分はこれからＡＩがりょうがしていくことは明らかだ。まだ解明されていない人の心に、ＡＩが今後どのように関与していくのだろうか。番組を通して、人工知能を天使にするのも悪魔にするのも結局は人であるということを強く感じた。ＡＩは道具という位置づけを明確にすべきであり、人と比較することに意味はないと思う。

○　６月２５日(日)ＮＨＫスペシャル「人工知能　天使か悪魔か　２０１７」を見た。電王戦や、羽生三冠の解説と取材記を織り交ぜながらＡＩの活用事例を見せることで、哲学の縁に触れたかと思うと遠ざかる、遠ざかったと思うとまた近くに見せる構成が秀逸だった。羽生三冠や佐藤名人が将棋を宇宙に置き換えながら、銀河系しか知らない人類が今まで気がつかなかった大宇宙の存在を思わせるという趣旨の発言をしていたが、将棋以外の世界も同様だと思う。裁判の事例のように、ＡＩが出す根拠が無い予測を材料に人を裁いてよいのか、また、ＡＩ政治家の事例では、ＡＩが本当に思想を作れるかなど多くの問題があると思う。最近は、人間の心は物質によって作られているという話をよく聞く。将来的には人間が、ＡＩを作ったように、心を作ることができる時代が来るのかもしれない。ただし苦心して作りあげても、ＡＩが根拠を示せないように、どうしてそういう心が作られたかわからないという世界を想像してしまった。

○　６月２７日(火)うたコン「絶品！心ふるえる名曲をあなたに」を見た。幅広いジャンルの方が出演していると思う。

○　６月２７日(火)ハートネットＴＶ　シリーズ認知症　当事者とつくる新時代（１）「絶望から権利へ」を見た。2004 年の国際会議で、認知症患者であるクリスティーン・ブライデンさんが語ったこと、その訴えが日本社会の認知症に対する見方を大きく変えるきっかけになったことをこの番組で始めて知った。当事者自身が認知症ワーキンググループを結成し政策提言を行うなど、自分たちの生きる環境を作ろうとする取り組みに驚いた。共に生き、共に作るという社会の重要性を改めて感じる。この国際フォーラムの主催はＮＨＫ厚生文化事業団だったが、社会の在り方を先導し、多くの人々に勇気を与えてくれていることに心から感謝したい。今後は実際にフォーラムやシンポジウムに参加してみたいと思うし、安心して生きることのできる社会のあり方を考えていきたい。

○　６月２９日(木)あさイチ「ＪＡＰＡ－ＮＡＶＩ　三重・尾鷲」を見た。三重県尾鷲市梶賀の「あぶり」が紹介されており、特産品として注目を浴びていることは知っていたが、昔の保存食を再現したこと、製造方法などは知らなかったので、この番組で見ることができたのはよかった。また、尾鷲で取れる豊富な魚の紹介、何でもお茶をかけて食べる習慣、尾鷲ヒノキを使った雑貨など、尾鷲独特の魅力が紹介されていた。都市部とつながる高速道路もあり、交通の便も良いところなので、行ってみたいと思う人が増えることを期待している。

○　６月３０日(金)美の壺「九谷焼～色をめぐる冒険～」を見た。九谷焼は、加賀の人々によって大切に守られてきた伝統がありながら、前衛的な芸術でもあると思っているので、興味深く視聴した。創造性豊かな焼物である九谷焼の作品をはじめ、伝統を継承しながら細やかさや独特な色使いなどの技術や、九谷焼作家たちの特異な個性が色濃く表現されており大変感動した。また、古九谷、ジャパンクタニ、古九谷の色を再現した人間国宝の三代徳田八十吉など、歴史的な変遷も表現されている良い番組だった。また、ＮＨＫの撮影技術はすばらしく、質感、色合い、光が見事に表現できていたことを高

く評価したい。このような番組を４Ｋ・８Ｋスーパーハイビジョンで視聴できればすばらしいと思う。

○　７月４日(火)人生デザイン　Ｕ－２９「雑貨製作・販売」を見た。店のオープン準備や、実際に商品が売れて喜ぶシーンなど、主人公の目がきらきらと輝き、夢や希望に満ちた顔はとても美しく、年を重ねることで失われていく気持ちや若さの大切さを感じた。このようなすばらしい若者をクローズアップすることが、ＮＨＫの若者に対する応援だと思うので、引き続き取り上げていってほしい。

○　７月６日(木)クローズアップ現代＋「“異常な”豪雨が街を襲う～緊急報告　九州北部　記録的豪雨～」を見た。被災された方々や自衛隊、自治体、地元の救助に当たる方たち、そしてＳＮＳによるＳＯＳや被害状況がリアルタイムで映し出されていた。スタジオでは記者による気象情報の説明や専門家による科学的な解析が行われ、全国的に今後も予測できない大雨の危険があることや自助の必要性を喚起する内容は、非常にタイムリーな報道だった。一方で、臨場感があるとはいえ、災害の恐怖から逃れた人への直接インタビューは見ていてつらいものがあった。

○　７月６日(木)美と若さの新常識～カラダのヒミツ～「お酒は“老ける毒”若さを守る対策術」を見た。「お酒は“老ける毒”」という言葉に衝撃を受けた。番組を通して、酒を痛飲し、嫌なことを全部忘れて次の日すっきりするということがどれだけ体をむしばむかがよく分かった。視聴後は健康を考えて酒を控えている。

○　７月８日(土)週刊　ニュース深読み「“記録的豪雨”があなたの町に　そのときどうする？」を見た。最近の大雨情報についての被害の大きさを知り、興味深く見ることができた。パネルを使って基礎から詳しく気象情報の説明をしてくれていた。情報量が多く、全てを把握することは難しかったが、住んでいる地域によって注意する情報が違うことや、警報の順位が違うことなどが分かった。また、４人の専門家がゲストや視聴者からの質問や疑問に分かりやすく丁寧に答えており、特に静岡大学の牛山素行教授が、「どの情報

に注意すべきかという考え方より、ふだんと違う情報が出てきたら危険と考えたほうが身を守るために大事である」という話や、南利幸気象予報士が「昔に比べて気候の状況が変わってきていると思ったほうがよい」と話していたのが印象的だった。そのほか、都市や地下での災害の怖さなどさまざまな説明もあり、本当に興味深く見ることが出来た。

○　７月８日(土)ウワサの保護者会「どう向き合う？思春期コンプレックス」を見た。番組を通して、台本ではない保護者のふだんの会話の感じがよく出ていた。また取材したＶＴＲを見ていく中で、保護者の様子を小窓で見せていたが、感心したり、うなずいたりする表情が大変自然で、非常にうまい使い方をしていると思う。ただ、保護者の私服と尾木ママの衣装のギャップが非常に気になった。尾木ママのさまざまなコメントを踏まえ、保護者同士が話し合って、自分たちで答えを導き出していく、勉強会のような進行が自然に見えてよかった。

○　７月９日(日)目撃！にっぽん「沖縄戦・遺族からの３５７通」を見た。沖縄戦でたくさんの部下を失いながらも生き残った部隊長の思いを、遺族からの手紙を通して、若い大学生たちがたどっていくストーリーが示唆に富んでおり、非常にいい番組だった。学生達の取り組みは今後もぜひ続けてほしい。日本の平和がどのように作られ、保たれているか、今後どうすれば良いかを考える上で指標となるように、過去の戦争や現在の紛争を想像できるような番組を今後も積極的に発信していってほしい。そして、現在、世界各地で行われている戦争や紛争は、何がどのような形で起きているのか、そしてどうすれば解決できるのかを番組化してもらいたいと思う。

○　７月１２日(水)ガッテン！「ひざ痛がついに解消！関節を滑らかにする３分ワザ」を見た。膝の痛みの仕組みを分かりやすく解説しており、医学的に見ていい番組だった。一方で、以前に比べ検証実験の独創性や演出のインパクトが抑え気味なのではないか。

○　７月１６日(日)大河ドラマ「おんな城主　直虎（２８）　死の帳面」を見た。寿桂尼が死ぬ間際に、繁栄した今川家を再度よみがえらせたいと強く願

うシーンを、浅丘ルリ子さんが迫力ある演技で表現していた。主人公直虎だけでなく、家は女性がつないでいくものだと感じた。

○　７月１６日(日)最後の講義「ランディ・パウシュ教授」(ＢＳ１　後 10：00～10：49)を見た。これまでにネットで 1,800 万回以上見られている有名な講義だが、自分は番組を視聴して初めて知った。以前ＮＨＫで放送していた「マイケル・サンデルの白熱教室」も面白かったが、今回の番組も、出演者の個性、バーチャルリアリティという研究テーマ、人気のあるソフトの共同開発など、興味を引く内容だった。仮に今後シリーズ化するならば、余命が明確な人は避けた方がいいのでは無いか。例えば、余命２か月の人が一生懸命言っていることに対しては、論理的にではなく、感情的に否定しづらくなってしまう。

○　７月１６日(日)ＮＨＫスペシャル　シリーズ　ディープ・オーシャン「南極　深海に巨大生物を見た」を見た。これまで仮説とされてきた未知の世界を見ることができた。出演した各方面の専門家もベテランだったためか、自分たちがこれまで唱えてきたものが実証されて、満足しているように見えた。映像的にもすばらしく、４Ｋ・８Ｋスーパーハイビジョンで見たら、より鮮明に未知の世界が伝わるのだろう。一方、地球温暖化により生態系が崩れていく話などが出ていたので、未来に向けて、今後の課題についてどうすべきかをもっと知りたかった。

○　７月１７日(月)最後の講義「石黒浩教授」(ＢＳ１　後 10：00～10：49)を見た。子どもの頃から自意識にとらわれ、人間とは、人の気持ちとは何だと考えてこられた教授の個性に若々しさを感じた。「青春の夢に忠実であれ」という最後の言葉も、小さい頃からの夢と疑問が今の研究にも生きている教授らしく印象に残るものだった。人やロボットに対して、教授とは違う意見を持っている自分でも面白く視聴できた。ぜひ、今後もさまざまな人に出演してもらい、続編を期待したい。

○　「すイエんサー」を見た。子供と一緒によく見ているが、すイエんサーガールズの挑戦がおもしろい。彼女たちが理論的で分かりやすく、自分でもや

ってみたくなるような実験を行いながら、回答や結果を出す姿に共感を覚える。達人からのヒントも面白く、印象に残るので後で再現しやすい。ＶＴＲ中にゲストや司会が小窓で出てくるが、表情がオーバーリアクション気味で、小中高校生対象の番組としてはあまり必要ないかもしれない。失敗、理論化、実験の面白さ、科学のだいご味に加え、伊吹五郎さんのナレーションも光っており、大変楽しめる番組だと思う。

○　土曜時代ドラマ「みをつくし料理帖」を見た。毎週非常に楽しく視聴していた。恋愛や料理屋の再建など最終回を迎えても続きが気になるので、ぜひ続編を制作してもらいたい。

ＮＨＫ名古屋放送局
番組審議会事務局

平成２９年６月ＮＨＫ中部地方放送番組審議会

６月のＮＨＫ中部地方放送番組審議会は、１５日(木)、ＮＨＫ名古屋放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、ナビゲーション「職業“ＹｏｕＴｕｂｅｒ”　～動画サイトの光と影～」について説明があり、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、「平成２８年度中部地方向け放送番組の種別ごとの放送時間」、今後の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	小澤　正俊	（大同特殊鋼（株）相談役）
副委員長	小寺　功子	（三重県漁協女性部連合会会長理事）
委　　員	井口　昭久	（愛知淑徳大学健康医療科学部教授）
	稲村　修	（魚津水族館館長）
	加藤　勇二	（愛知県農業協同組合中央会専務理事）
	清川　卓二	（清川メッキ工業（株）専務取締役）
	徳田　八十吉	（徳田八十吉陶房代表）
	中村　智景	（四季料亭「助六」女将）
	長谷川明子	（日本ビオトープ管理士会中部支部会長）
	東　　惠子	（東海大学海洋学部環境社会学科教授）
	真能　秀久	（中日新聞社常務取締役）

（主な発言）

＜ナビゲーション「職業“ＹｏｕＴｕｂｅｒ”　～動画サイトの光と影～」
５月２６日（金）放送について＞

○　全く知らない世界を教えてくれる番組だった。ＹｏｕＴｕｂｅが世界中で利用され、ＹｏｕＴｕｂｅｒという職業があり、子どもの憧れの職業であることに驚いた。地元のＰＲ動画が多くの人に見られているという紹介があったが、再生回数の割には観光客が増加していないと実感している。発信と視聴の気軽さや収入が得られるという利点によりＹｏｕＴｕｂｅｒが急激に増えたとい

うことが、よく分かる番組になっていた。また、犯罪につながりかねない過激な映像は見る人がいるからこそ投稿者もエスカレートするわけで、見る側への規制が必要だと思った。動画サイト側もそのような動画に対処できていない現状もよく分かった。番組では時間の制約がある中で新たな情報を数多く伝えていたが、終わり方が慌ただしかった。結論にまでうまくたどり着けるとよい。

○　ＹｏｕＴｕｂｅの活用法や影響力、制作の方法、ＹｏｕＴｕｂｅｒが職業として確立しつつあることがよく分かった。ＹｏｕＴｕｂｅｒの心理も理解でき、養成講座というのも興味深かった。本やテレビ、スマートフォンなど、媒体が異なるだけで、どんな時代でもその媒体に熱中しすぎてしまう人々がいることが問題なのは変わらないというコメントは納得できた。またピコ太郎さんの動画ヒットの裏には売れるための綿密な準備や計算があったことが分かり、古坂大魔王さんの“動画投稿で成功するコツ”の話には説得力があった。番組の終わり方は慌ただしく、ＹｏｕＴｕｂｅｒに関して人数や成功者の割合などの具体的な数字に加え、収入構造や稼ぎ方などについても、もっと知りたかった。

○　ネット時代のメディア環境という観点で見た。名張市の一家の映像では、こたつにテレビという一般的な家庭の雰囲気であるにもかかわらず、子どもがスマートフォンしか見ていなかった。この光景にテレビが見られなくなってきている危うさを感じた。また、愛知県で活動している現役“You Tuber”詐欺メイクすうれろさんの話題は、送り手側がパソコンで作ったものを受け手側がスマートフォンで見るという現状が伝わる分かりやすい事例だった。番組を見て、仕事にパソコンを使い、個人はスマートフォンで情報を送受信する時代になったのだと感じた。さらに伊賀市の自称ＹｏｕＴｕｂｅｒによる、犯罪に至った過激な動画投稿を見て、時代やツールが変わっても過激な行為に及んでしまう人は出てくるのだと思った。メディア媒体やソフトは日々進化するため、ＹｏｕＴｕｂｅも、おそらくすぐに時代遅れになるだろうと思うが、流行を追うのもテレビの大事な仕事だ。さらに、先日の東名高速道路のバス事故で、スマートフォンで撮影した動画がニュースで速報されていたのを見て、今後の報道の在り方を考えていく必要があると思った。

○　ＹｏｕＴｕｂｅは、勉強や料理にも利用されていて、子どもたちの生活の一

部であることを知った。また番組視聴後に、インターネットで検索すると動画が大量に出てきて、身近に迫った問題だと感じた。インターネット時代の情報発信は、何かの判断や審査を受けず、マスメディアも経由せずにダイレクトに視聴者に届くということがよく分かった。価値が変遷していき、過去の権威を次々に破壊していく社会が見て取れた。科学の分野でも、論文をインターネットに投稿しアクセス数で価値を決めるといったことが出てきており、文明が変わりつつあることを肌で感じる。伝達の手段が変わることで価値は変わるのか、それとも従来の価値の基準は守られるのか。非常に興味がある。今後も継続してこのテーマを追いかけてもらいたい。

○　全世界的な話題を中部に関連した素材で制作しており、よい構成だった。導入から結びまで構成が工夫されていて、ＹｏｕＴｕｂｅの特徴を“発信と視聴の気軽さ”と“もうかる仕組み”に単純化したことがよかったと思う。小山径キャスターの進行はスムーズで、ゲストの古坂さん、稲増龍夫さん両氏も分かりやすい言葉で話していた。個人的には、自分でも使っているのでよく分かる内容だったが、一般視聴者はどのように受け止めたのだろうかと思った。サブタイトルの「動画サイト」の語句には違和感があったので「職業ＹｏｕＴｕｂｅｒその光と影」でよかったのではないか。番組でも紹介していたソニー生命保険による「中高生が思い描く将来についての意識調査２０１７」によると、ＹｏｕＴｕｂｅｒは将来なりたい職業として中学生男子では第３位だが、他の学年では常に高い順位の職業というわけではなく、ランキング圏外の場合もあった。この結果をどのように捉えて番組制作に用いたのか気になった。

（ＮＨＫ側）

すばらしい２人のゲストに出演いただくことができ、時間の許す限り、情報やいい話を引き出したいと考えた。一方でＶＴＲもしっかり紹介したいという思いもあり、結果的にスタジオに残された時間が少なくなった。ＹｏｕＴｕｂｅがこれだけ浸透する中で既存のメディア、特にテレビの、存続危機に対するアプローチについては、ＮＨＫでは、３月２２日(水)に放送記念日特集「今　テレビはどう見られているか」(総合 後 10:00～10:50)を放送し、全くテレビが見られてな

い現状を伝えた。内容は、ある女子大生が自宅で何を見ているかを定点カメラで撮影したもので、テレビは１時間の間で約５分しか見られていなかった。我々も非常に驚いた。テレビ業界としてはどうしていくべきか常日頃考えているなかで、今回の番組も制作した。現在、公共放送から公共メディアへというのがＮＨＫの経営計画のひとつの柱だ。放送に視聴者を呼び戻すのも当然だが、インターネットの方にＮＨＫが踏み出していくことも検討の対象になっている。

○　番組で取り上げられた名張市の一家の映像で、新聞がこたつの上になかった点も、生活スタイルが変わってきていることを感じさせるシーンだった。

（ＮＨＫ側）

サブタイトルは相当検討した。ＹｏｕＴｕｂｅだけに絞ってしまうのを少し緩めるため「動画サイト」という言葉を入れた。他のＳＮＳなどでも動画はたくさん存在していて、なかには炎上するものもある。たくさんの人に見てもらいたいという欲求が過激な動画投稿につながってしまうという本質的なところは、それほど変わらないため、「動画サイト」という言葉に決めた。ただ、ＹｏｕＴｕｂｅだけが収益の仕組みがある。その仕組みが過激さをエスカレートさせる大きな要素になっているため、今回の中心はＹｏｕＴｕｂｅｒにした。

○　紹介された事例がさまざまで、誰に見てほしい番組か少し分かりづらさがあったが、多角的な視点で幅広い人々に理解しやすくしているという面は非常によかった。日々新しく変化しているものの一つがＹｏｕＴｕｂｅであることがよく理解できた。職業という面でみるとＹｏｕＴｕｂｅｒが、どう社会に役立つ仕事なのかは分かりにくかった。単なる趣味の世界の延長線上の話が多く、職業観はあまり表現されておらず、本当に職業と言えるのか疑問が残った。ＹｏｕＴｕｂｅ教室で教えていることも常識の範囲の内容で、ＹｏｕＴｕｂｅはいまだ、動画投稿の心得から教わらなければいけないような世界で危険だと思った。実際のＹｏｕＴｕｂｅｒの数はほんの一握りで、本来は何かのプロと

して活躍しながら、その仕事の一部をＹｏｕＴｕｂｅで紹介している人が多いのではないか。古坂さんの解説は非常に分かりやすく、職業としてのＹｏｕＴｕｂｅｒの説明をもっと聞きたかった。ＹｏｕＴｕｂｅｒは“好きなことをしてお金が稼げる”という単純な発想に至ってしまう危うさを認識させる内容があればよかった。

○　番組を見るまでは利用したことがなかったが、発信と視聴の気軽さや、時と場所を選ばない即時性、さらにもうかる仕組みによって、ＹｏｕＴｕｂｅｒが増えていることを理解できた。過激なことをしたほうが受けるといった感覚については、若い時は世間や善悪が分からないこともある上に、それを教える周りの大人も昔に比べて少なくなった社会の中では、非常に難しい問題だと思った。番組視聴後、英語の勉強やヒーリングミュージックのコンテンツなどＹｏｕＴｕｂｅを視聴するようになり、気楽に見られて、元気づけられている。この番組を見てよかったと思っている。またいろいろなことを番組で紹介してほしい。

○　中学生男子のなりたい職業第３位がＹｏｕＴｕｂｅｒということに大変驚いた。自由に自己表現や発信を行って視聴者に共感されれば、動画再生回数が対価となり何億円も稼げるというのは、職業として魅力的でおいしい話になってくるのではないか。小山キャスターと古坂さんのコンビネーションが、この番組の主軸として大きな役割を果たしていたと思う。ＹｏｕＴｕｂｅを使った好事例や誰もが自由に発信者になれるインターネットという世界を明快に紹介・分析していた構成だった。一方で、問題点も指摘され、ネットリテラシーの重要性に触れていた点もよかった。ただ、過激な誹謗中傷や炎上といったリスクへの対策として、ガイドラインの作成や教育制度が急務であると、番組ではまとめていたが、若干物足りなさを感じた。情報過多の時代においては、どの世代も倫理観や価値観の形成が必要だと思う。今後、この便利なツールをどのように使い、新たな文化を生み出していくのかを考えさせられた番組だった。

○　タイトルの「動画サイトの光と影」はよく見かけるタイトルのように思えたが、動画サイトの光の部分と影の部分がうまく表現されていた。続編を期待したくなる内容だった。子どもが動画サイトを使い勉強する様子には驚いた。

もっとそのよさを強調してもよかったのではないか。詐欺メイクすうれろさんの映像で、彼女の芸術性の高さをしっかり見せたことは非常によかった。動画を投稿するともうかると簡単に言うが、実際には動画を見てもらうことは大変で、だからこそ過激になっていくこともある。送り手にカリスマ性が無ければ、投稿した動画は簡単には見てもらえないというハードルの高さを視聴者に伝えられるとさらによかった。またＹｏｕＴｕｂｅの特性として誰もがすぐに投稿できるという即時性があるが、それ故にテレビや新聞などの他のメディアに比べて信頼性や信ぴょう性に欠ける情報も多い。その部分をしっかり説明出来ていなかったことは非常に惜しい。またリテラシーという言葉は、せめて日本語の訳を入れるべきだった。リテラシーの意味を伝えられれば光と影の部分や、これから先、求められるものが伝わったのではないか。古坂さんの話は面白く興味深かったが、インターネットとビジネスの関係など深い説明があるとさらによかった。

○　ＹｏｕＴｕｂｅｒが職業だということに驚いた。職業は、反復継続できるという概念なので、本当に動画投稿が常にできて職業になるのかが疑問だった。番組を見るうちに、今や動画投稿は、本や音楽などの創作活動と同じで、そこに共感する人がお金を出して買ってくれるというサイクルがあれば、職業になるという意味なのかと思った。ＹｏｕＴｕｂｅｒが男子中学生の将来なりたい職業第３位であることや、動画投稿で年収数億円稼ぐ人がいること、さらに数学の解説動画を無料で見られるなど、世の中はずいぶん変わったという印象を受けた。発信の気軽さや、多くの視聴者が集まるというメリットがある一方、誤った情報や危険な動画との隣り合わせでもある。対策としてガイドラインが設けられているという説明があったが、もっと厳しい措置を講ずることが必要だと伝えてもよかったのではないか。

○　古坂さんの話は、テンポが非常に速くて内容も魅力的だった。ＹｏｕＴｕｂｅが、１日にのべ１０億時間も視聴されているとは考えもしなかったが、やはり時代は変わったと思う。ＹｏｕＴｕｂｅの普及の背景には、若者の自分を認めてほしいという深層心理があるのだということが、非常によく表現されていて魅力的なテーマだった。ただ、影の問題への対策として、もう少ししっかりと実務的に教育なりの問題点を示したらどうか思った。番組では取り上げられ

なかったが、人間のコミュニケーションとは、画面や活字を通してだけではなく、直接話し、関係性を作ることで成り立っていく。今後、社会性の育成という点ではさらに問題が出てくるのではないかと大変心配している。最近、いろいろなところでポピュリズムが出てきているが、これも結局、直感的な不特定多数の視聴者の反応を重視してしまう。こういう点の評価についてもＮＨＫとしての提案があったらどうかと思った。ＹｏｕＴｕｂｅやＹｏｕＴｕｂｅｒについて鋭くアプローチされていて、皆さんから高い評価が出たと思う。続編も期待したい。職業として本当に社会貢献できるかという切り口が足りないのではないかという指摘が出たが、そのことについてはどう考えているか

（ＮＨＫ側）

日本国内のＹｏｕＴｕｂｅｒで、まとまった収入を得ていられるのは、およそ 2,000 人程度。素人がすぐに真似できるものではなく、それなりの技を持っている人がそれを少し見せているケースが多く、ごく一握りの存在だ。確かに、放送の中で明確に釘を刺し、簡単になれるものではないということを、もう少ししっかりと伝えればよかった。リテラシーなど一般的に分かりづらい言葉の扱いは、注意したい。影の部分については、三重県で起こった一番大きな事例としてチェンソー事件を取り上げた。このように過激に走った事例だけでなく、嘘の情報で世間を騒がせて楽しむというフェイクニュースのような事例も伝える必要があったと思う。具体的な数字を知りたいという意見については、ＹｏｕＴｕｂｅｒの定義を、ＹｏｕＴｕｂｅに動画を投稿する人と広げると、本当に身近な人たちもＹｏｕＴｕｂｅｒとなるので正確な数は分からない。収入の仕組みについては、動画の再生回数だけではなく、質について複雑な計算がコンピューターでなされ対価が算出されており、一概には言えなかった。

＜放送番組一般について＞

○　６月５日(月)「おはよう静岡」の中で「若手社員の離職を防げ・ある中小企業の取り組み」というリポートを見た。就職してもすぐに離職してしまう人が

いることが社会的な課題となっている。とある企業の取り組みが具体的に紹介され、ほかの企業にも大変参考になると思った。

○　５月２８日(日)日曜Ｔｕｂｅ「おもてなし中部　ｉｎ　愛知　常滑市」を見た。さまざまな常滑焼が紹介されていたが、定番の見せ方をしていた。たとえば旅行好きの女性は行ってみたい、やってみたいと思うだろうかと疑問を持った。女性同士で旅行に行くことも多いので、おしゃれな空間を演出した方が、その土地のものも魅力的に映り、人が多く訪れるようになると思う。「おもてなし中部」シリーズの１つとして、過去に取り上げた地域と何か関連性があるのか気になった。

○　５月２８日(日)日曜Ｔｕｂｅ「おもてなし中部　ｉｎ　愛知　常滑市」を見た。常滑市に少しでも人を呼び込もうと自治体と協力しプランを考えていたが、常滑焼やイチゴ狩りなど定番のものが取り上げられ、目新しさに欠けた。常滑市は、アグリ・フロンティア創出特区として提案している場所でもあるので、農業的な特徴を取り上げてもよかったのではないか。また、中部国際空港（セントレア空港）を訪れる人を呼び込むのであれば、常滑市の隣の半田市の特徴を紹介しても話題が広がりおもしろかったと思う。

（ＮＨＫ側）

今回の番組は、セントレア空港で飛行機の時間を待っている間にまわれる範囲というテーマもあり、常滑市に限定したうえで今回のような内容になった。

○　６月８日(木)「ほっとイブニング」では、抗生物質（抗菌薬）の使い過ぎによる問題や、３月に厚生労働省が発表した、「抗微生物薬適正使用の手引き」に関する内容を報道していた。抗生物質を使いすぎると、耐性菌が生まれてしまい、将来的にはリスクとなることもよく分かった。かぜには抗生物質が効くと勘違いしている人も多いので、今後も繰り返し伝えてほしい。

（ＮＨＫ側）

医療分野を専門に取材を重ねている記者が取り上げたテー

マだ。今後も粘り強く取材を続けたい。

○　６月９日(金)の「ほっとイブニング」で衆議院選挙区の区割りについて伝えていた。三重県で１つ減り、愛知県では線引きが見直されていたが、現地ではどのように受け取られているかも伝えてほしかった。

（ＮＨＫ側）

発表が夕方だったため、区割りを伝えるにとどまった。今後、市民の反応を取り上げる予定だ。

○　６月９日(金)ナビゲーション「走る　～知的障害・陸上短距離　川上春菜～」を見た。最初は、パラリンピックの応援番組かと思い見たが、海外で行われた大会にも同行して撮影を続けたカメラマンの気持ちに寄り添った時、この結果が分からない物語に次第に感情移入でき、興味がわいた。そして、彼女が走る場面では思わず感激し、父親と娘のやりとりも感動的な内容だった。

○　５月１８日(木)クローズアップ現代＋「『高齢者だってセックス』言えない“性の悩み”」は、ＮＨＫに失望する内容で、非常に残念だった。アダルトサイトを閲覧して高額の金銭を請求される問題や、介護現場での性のトラブルは、こんな問題があるのかと違和感なく見ることができたが、夫婦間の性の問題は、個々の夫婦の問題であり、メディアが立ち入るのはナンセンスだと思う。紹介されていた内容は、女性蔑視と取れるような切り口で、不快だった。高齢者全般の性の問題ではなく、男性高齢者の性の問題を取り上げているように感じた。また、コメンテーターの卑わいな言葉の多くに驚き、見ていて恥ずかしく、憤慨さえ覚えた。今後は、性などといったナイーブな問題を取り上げるときは、生放送は避けたほうがよいのではないか。もし、取り上げるなら女性スタッフを参加させ、コメンテーターの選定も含め、慎重に内容を吟味してほしい。

（ＮＨＫ側）

今年３月に７５歳の男性がアダルトサイトの詐欺被害に合い、金銭をだまし取られたという事件が取材のきっかけのひとつになっていると聞いている。国民生活センターにも同じような被害の相談が急増していて、あわせて介護現場でも

いわゆるセクハラ被害の相談が急増しているということで、今回のテーマに至った。男性と女性の性に対する意識のギャップ、また性に対する指摘がタブー視されがちな点も、事態を深刻にさせてしまっているという。夫婦の性のあり方にどこまで踏み込むのかという指摘は、まさに重い問いかけだと考えている。このようなテーマは、その表現方法も含め、賛成・反対それぞれ、たくさんのご意見をいただいている。何をどこまで伝えるか、模索しながら制作しているのが現状だ。今後も議論を重ねたい。

○　５月１９日(金)ごごナマ　助けて！きわめびと「“タンスのこやし”　どうしたらいい？」は、大阪弁でテンポよく番組が進み、魅力的だった。１０代や２０代の服を捨てられない気持ちはよく分かる。着なくなった服をリフォームし、ほかの用途に使う様子は大変参考になった。

○　５月２０日(土)小さな旅「富士の港　あたたかく～静岡県　清水港～」を見た。清水港で働く人々の日常に焦点を当てた人情味にあふれる番組で、清水港の特徴がよく表れていたと思う。また、遠景に富士山、中景にはガントリークレーン、そして、その前を国土交通省の港湾業務艇「まさき」が通り過ぎるオープニングの映像に大変感動した。清水港の全景を映した際、天候が悪く、駿河湾特有の濃紺色ではなかったことが残念だった。航空写真なども使い、海と港のコントラストを見せると、港を作るにあたって繰り広げられてきたヒューマンドラマを、より感じることができたのではないか。

○　５月２０日(土)週刊　ニュース深読み「２人に１人が“おひとりさま”！？どうする　老後の住まい」を見た。生涯未婚や離婚・死別を含めると、2035年には、２人に１人がおひとりさま（独居）になると番組で紹介していたが、これから１０年後、２０年後、どうしていくべきなのか考えるよいきっかけになった。また、６月１０日(土)・１１日(日)ＮＨＫスペシャル　ニッポンの家族が非常事態！？第１集「わが子がキレる本当のワケ」、第２集「妻が夫にキレる本当のワケ」は、現代社会を映し出すテーマを選んでいた。今後も人々の生活に密着した番組づくりで、正確に伝えることを心がけてほしい。

○　５月２０日(土)ＮＨＫスペシャル「緊迫　北朝鮮　危機の深層」は、タイトルから十二分に緊迫感が伝わり、期待を持って見た。単なる状況報告だけではなく、専門家による動向分析もあり、ＮＨＫの取材力が存分に発揮された番組だった。テレビのインタビューなどを見ていても、日本人の多くは、ただ「怖いですね」とひと事のような発言が目立ち、当事者意識がない。今回の番組を見て、これは大きな問題であると認識させられた。海外の専門家からの分析や指摘は日本人の心にも響いたのではないか。こうした海外からの脅威といった困難な課題に立ち向かうためには、人気だけでなく、能力あるリーダーが立つ必要性も実感した。

○　５月２１日(日)日曜討論「“新型”ミサイル発射　対北朝鮮　国際社会はいま…」は、外交の専門家のほか、岸田文雄外務大臣を交えての討論で、何が話されるのか関心を持って見た。現状認識から今後の展望まで、大変明快に説明され、十分な議論がなされた番組だった。司会進行もよかった。多くの専門家が、北朝鮮のミサイル開発の速度が予想以上に早く、時間がないと言っていた点が気になった。政府側の代表として、岸田外務大臣を迎えていたが、政府の関係者は発言に対し慎重にならざるをえない。討論会という形で活発な議論を行うためには、専門家のみで構成してもよいのではと思った。外国からの脅威に対する現状をしっかりと伝えるような番組を今後も放送してほしい。

○　５月２３日(火)グッと！スポーツ「プロゴルフ　上田桃子の技と心に迫る」は、上田桃子さんが３年ぶりのツアー優勝を果たした直後で、タイミングのよい放送だった。彼女の負けず嫌いの性格やアメリカ時代の苦労、諸見里しのぶ選手とのライバル関係から生まれた友情、３年ぶりにつかんだ優勝の裏側にあった恩師との出会いなど、上田選手が歩んできたプロゴルファーとしての人生が詰まった内容だった。彼女のつらさや孤独、プレッシャーもよく分かった。また、諸見里選手も出演して、上田選手と本音で対話するシーンが面白く、大変見応えがあった。

○　５月２３日(火)グッと！スポーツ「プロゴルフ　上田桃子の技と心に迫る」を見た。上田桃子さんと故・荒川博さんの練習秘話に心打たれた。荒川さんの

「教えながら死んでいけたら本望だ」という言葉には、指導者としての情熱を感じた。

○　５月２４日(水)あさイチ「シリーズ発達障害　自分の“苦手”とどうつきあう？」を見た。方向を間違えたり、物忘れが激しかったりというのは、ある程度は誰にでもある。症状を単純に発達障害と決めつけてはいけないと思った。また、６月５日（月）放送の「ＤＶ家庭に育った子どもたち」は、特別な事例ではなく、こういう家庭に育ち、今も苦しんでいる人がいるということが分かる、重要なテーマだった。こういったテーマは、その環境を知らない人に伝え、現状を知ってもらうことが大切だと思う。

○　５月２４日(水)ガッテン！「筋肉！血管！免疫！あの栄養素で体ごと強くなるＳＰ」を見た。年齢を重ねたら意識してバランスよく食べる大切さがよく分かる内容だった。「低栄養」、「アルブミン値」というキーワードから、タンパク質を摂取することの重要性をうまく説明していたと思う。

○　６月７日(水)ガッテン！「緊急報告！日本人の体に異変？　骨・筋肉のパワーがよみがえるＳＰ」を見た。日焼けをすると皮膚に悪いという認識があるが、現在は、日光に当たらなくなったことによるビタミンＤ欠乏症が問題になってきていることをおもしろく説明していた。解説も歯切れがよかった。「ガッテン！」は、問題のあった「最新報告！血糖値を下げるデルタパワーの謎」（２月２２日(水)放送)以来、番組制作への姿勢が変わったように思う。安心して見られるようになった。

○　５月２６日(金)新日本紀行「知多半島」は、尾州廻船を中心によくまとまっていた。大変参考になる内容だった。

○　５月２８日(日)目撃！にっぽん「阿蘇　それでも草原と生きる～熊本地震・牛飼いたちの１年～」を見た。熊本地震により大地に亀裂ができたため、毎年行っている草原の野焼きを行うかどうか苦悩する人々が描かれていた。困難を受け止め、南阿蘇という大地で生き抜こうとするその力強さに感動した。今後も、日本各地の特徴ある自然と共生する取り組み、営みをクローズアップする

番組を制作してほしい。また、早朝ではなく、もっと多くの人が見られる時間帯に放送してほしいと思える内容だった。

○　５月２８日(日)「第６８回　全国植樹祭　とやま２０１７」(総合 前10:55～11:54)を見た。式典の様子は、なかなか直接見ることはできないので、生中継したことはよかった。多くのカメラが使われ、多彩なカメラアングルにより、魅力的な映像に仕上がっていた。特に画面の切り替えは、タイミングも構成もすばらしく、テロップもシンプルで、全体的に落ち着いた印象でよかった。ナレーションも、映像とよくマッチしており、とてもよかった。優れた中継番組だった。

○　６月２日(金)ニュース「アメリカ・トランプ大統領　パリ協定離脱関連　記者会見」(総合 前4:05～4:45)を見た。フィリピン・マニラで起きた発砲事件の速報が入る慌ただしい状況の中だったが、冷静に報道していた。トランプ大統領がパリ協定からの離脱を宣言していた。このような重大な発表がリアルタイムで見られるのはＮＨＫだけではないだろうか。速報性を高く評価したい。ただ、パリ協定離脱を受け、アメリカ国内と国際社会の問題を指摘しているのに、日本の状況や問題を一切伝えていないことに疑問を感じた。引き続き午前４時４５分から始まった「ＮＨＫニュースおはよう日本」では、マニラで起きた発砲事件に関するニュースのあと、昨年度の日本の二酸化炭素濃度の平均が400ppm を越えたという気象庁の発表を取り上げていた。これは、パリ協定で気温上昇を２℃未満に抑えるのに長期目標で必要な世界平均420ppmに、あと少しで達してしまうという内容で、偶然の一致かもしれないが、トランプ大統領の記者会見から、「ＮＨＫニュースおはよう日本」のニュースにかける流れが、関連性を感じる内容でよかった。

○　６月２日(金)・９日(金)奇跡のレッスン～世界の最強コーチと子どもたち～「失敗を忘れて“いい記憶”を残そう　ゴルフ」(前編)(後編)を見た。今回の指導者ルディ・デュランさんの、失敗したことは全部忘れ、よいことだけ記憶しなさいという指導法は斬新だった。既成概念にとらわれていたら、よい結果につながらないというのも納得できた。意識改革という意味では、子どもだけでなく大人が見ても見応えのある内容だった。

○　６月２日(金)あしたも晴れ！人生レシピ「賢く節約！　シェアライフ」では、定額で服をレンタルできるサービスや、車の相乗り検索サービスが紹介され、その仕組みや登録者の多さに驚いた。また、ＮＰＯ法人が運営している、若者とシニアが同居するシェアライフというのも世代を越えて支え合いながら暮らしていけるよさがあると思う。番組では広がるシェアサービスに対して、規制を作る必要性にも触れていたが、今後このサービスがどのように広がっていくか、注目したい。また、シェアサービスを通じて、さまざまな人と知り合えることもメリットとして取り上げられていたが、事故が起きた場合はどう対処するのか、知りたくなった。

○　６月３日(土)ノージーのひらめき工房「クラフト流　えのぐの特訓」を見た。着ぐるみは子どもたちの興味を引くが、あまり表情が変わらないので飽きてしまうのではないかと思っていた。しかし、子どもが夢中になれるテーマで、テンポよく番組を展開することで、最後まで飽きない充実した作りになっていた。漫画家の江口寿史さんが登場し、プロの技を見せていた点も、よかった。子どもたちには高度な内容であるが刺激になったと思う。最後に“ひらめきミュージアム”で、同年代の子どもたちの楽しそうな表情とともに投稿した作品が紹介されていて、好感が持てた。番組全体に応用力や創造性が発揮されており、特に保育園の子どもたちにとってはよい番組だと思った。

○　６月７日(水)探検バクモン「明治神宮」(総合　後 8:17～8:45)を見た。６０年ぶりの大がかりな修復工事の現場が紹介されたが、銅板の屋根は、もともと緑色だと思っていたので、磨いた直後の輝く姿が見られる日が楽しみだ。動画投稿サイトに投稿された映像がきっかけで多くの外国人が訪れるようになっているとのことだったが、番組では、ふだん見られない視点で、魅力や裏側を深掘りしていたのがＮＨＫらしかった。これがテレビのよさだなと思った。

○　６月７日(水)趣味どきっ！わたしの夜時間「プリンセス気分でおやすみなさい」を見た。心地よい睡眠にはアロマが効果的だということは知っていたが、実際にどのように使えばよいのか分からなかったので、大変興味深く見た。今までアロマは単体で使うものだと思っていたが、さまざまな種類を混ぜて使う

ことで効果があることも初めて知り、試してみたくなった。快眠セラピストの三橋美穂さんが実践していた心地よく眠るための方法は、どれもすぐにできることばかりで、実用的な内容でよかった。

○　６月１０日(土)鶴瓶の家族に乾杯「鶴瓶のひとり旅スペシャル　＃３」(総合 後 4:15～4:58)を見た。平成２８年８月から１２月に放送した回から７つの地域を取り上げ、鶴瓶さんがひとりで旅した部分のみで構成された番組で、味わいあるコミュニケーションが凝縮され、笑いあり、涙ありの見応えのある内容だった。鶴瓶さん本人が選定に関わっているのか気になった。

○　６月１０日(土)「大河ドラマ『おんな城主　直虎』コンサート～戦う花・直虎の愛～」(総合 後 5:00～5:54)を見た。高橋一生さんの語りをはじめ、新井美羽さん、花總まりさんの熱唱などもあり、ドラマとは異なる出演者の表情も見ることができ、魅力満載の番組だった。

○　６月１０日(土)ブラタモリ「＃７５　名古屋」を見た。タモリさんは自身の名古屋に対するこれまでの発言を意識した言動だったように思う。エンドロールではエビフライも登場していたので、もっと今までのタモリさんと名古屋の関係性に踏み込んでもおもしろかったのではないか。名古屋城の話は、初めて知ることも多く、地域の魅力を再発見することができた。名古屋城は取り上げ方次第で、さまざまな見せ方ができる。話題の豊富な場所なので、今後も取り上げてほしい。

○　「ブラタモリ」が名古屋を取り上げる日が来るとは思っていなかったので、放送がとても楽しみだった。名古屋の人が思い描くタモリさんのイメージを気にしてか、タモリさんが番組内で気を遣っていることも伝わり、おもしろかった。普段町を見て疑問に思っていたことも解明される内容で、新たな発見がある番組だった。「閑所（かんしょ）」にまつわる話は、同じ名古屋市でもエリアにより知っている人、知らない人に分かれる話だと思うので、地元の人も楽しんで見ることができただろう。屋根神様など名古屋独自の文化・風習が伝わる内容を次回もしっかりと放送してほしい。

○　６月１１日(日)目撃！にっぽん「市民の選択～議員に何を求めるのか～」を見た。政務活動費の不正で全国的に大きな話題になった富山市議会の４月の選挙に立候補した人を追いながら、富山市民の選択を見つめた番組だった。立候補者のなかでも、政治経験のほとんどない育児中の母親と不正で辞職したが地元の要望を受け復活をめざす元議員に焦点を当て、タイプを二分することで分かりやすく伝えていたように思う。今回の選挙結果の要因・分析については省略されてしまっている部分もあるように感じた。今回のテーマは制作するべき内容で、意気込みは高く評価したい。しかし、番組タイトルである「市民の選択～議員に何を求めるのか～」の答えになっているかと考えると、一部の紹介に過ぎないように感じた。今後も、全国放送でこの問題を取り上げてほしい。

○　６月１４日(水)視点・論点「外来生物とわたしたちの生活」を見た。白い背景の前に出演者が登場するが、はめこみ映像なのだろうか。輪郭や髪の毛と後ろの白い背景部分の境目がビリビリし、気になった。この番組は、研究者が自分の意見を伝える番組として重要だと思っている。今回もパネルを使用するなど、分かりやすく伝えていた。ただ、どの回も原稿をただ読んでいるだけのような単調なトーンになりがちで残念だ。それがＮＨＫらしいといえばそれまでだが、もう少し見る側のことを考えたおもしろい伝え方があるのではないか。第一線で活躍する研究者の話を聞けるので、注目し、期待している。今後も継続してほしい。

○　明日１６日(金)から放送される「ＬＩＦＥ！～人生に捧げるコント～」の番組宣伝を見た。以前から、この番組審議会の場でも、「ＬＩＦＥ！」のコントはＮＨＫらしくないと伝えていたが、豪華な俳優や東京フィルハーモニー交響楽団も出演してのコントということで、興味深く予告を見た。以前「ＬＩＦＥ！」を見た時とは、違った角度で見られるのではないかと期待している。

○　一連の「共謀罪」の報道について、ＮＨＫ内でも、ひとりひとりが今回の報道姿勢はどうだったか考えてほしい。こういう形で、国民が十分理解しないまま、国の根幹に関わる重要な法律が通っていく現実をどう見るかだ。「共謀罪」と書くか、「テロ等準備罪」と書くか、新聞の論調も分かれている。ＮＨＫは「共謀罪の構成要件を改めてテロ等準備罪を新設する」という伝え方をしてい

たが、この法案については、今後も検証を重ねてほしい。

○　連続テレビ小説「ひよっこ」を見ている。話の展開がゆっくりとしているので、家族内でも評価がさまざまだ。しかし、このドラマを見続けていると、主人公「みね子」の凡庸ながらも日々を懸命に生きる姿にひかれる。これまでの連続テレビ小説のように、明確な目標に向かって突き進む主人公を描いているわけではない点も魅力的だ。最近の教育は、夢や目標の持たせ方を教え、好きなことや得意なことを仕事にするのが一番といった風潮も感じられる。しかし、明確な夢や目標があり、好きなことを仕事にしている人ばかりではないのが現実ではないか。今回のドラマは、困難にぶつかっても明るく、強く耐え抜き、生き抜いていく姿を描き、人生における教訓を、リアリティを持って教えてくれているように感じる。

ＮＨＫ名古屋放送局
番組審議会事務局

平成２９年５月ＮＨＫ中部地方放送番組審議会

５月のＮＨＫ中部地方放送番組審議会は、１８日(木)、ＮＨＫ名古屋放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、金とく「おもてなし中部２０１７スペシャル」について説明があり、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、「平成２８年度中部地方向け放送番組の種別ごとの放送時間」、今後の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	小澤　正俊	（大同特殊鋼（株）相談役）
副委員長	小寺　功子	（三重県漁協女性部連合会会長理事）
委　　員	井口　昭久	（愛知淑徳大学健康医療科学部教授）
	稲村　修	（魚津水族館館長）
	加藤　勇二	（愛知県農業協同組合中央会常務理事）
	清川　卓二	（清川メッキ工業（株）専務取締役）
	徳田　八十吉	（徳田八十吉陶房代表）
	中村　智景	（四季料亭「助六」女将）
	長谷川明子	（日本ビオトープ管理士会中部支部会長）
	東　　惠子	（東海大学海洋学部環境社会学科教授）
	真能　秀久	（中日新聞社取締役人事労務担当）

（主な発言）

＜金とく「おもてなし中部２０１７スペシャル」

４月２８日（金）放送について＞

○　団体から個人へ、単なる観光から伝統文化を感じる体験型のディープツアーへと旅行の目的が変わってきている傾向があるということが、よく分かった。東海北陸の中でも外国人観光客が増加している県は、行政や民間がタッグを組み工夫していることも理解できた。３点ほど気になる点があった。１点目は、金沢の場面でゲストハウスをおすすめの宿として紹介していたが、どうやって人気が出たのかが分かるとより理解が深まったのではないか。２

点目は、愛知県は産業の拠点であるにもかかわらず通過点となっている中で、どう観光客を誘致するかまで触れられるとよかった。３点目は、農山漁村滞在型旅行として“農泊”について、国やほかの地域の取り組みも含めて、紹介して欲しかった。外国人観光客を呼び込み、日本の活性化につなげていくことは大事なので、継続的な取材を期待する。

○　構成がはっきりしていて、総合的に見やすかった。ただ、旅行に対する捉え方が異なる国の方々を、ひとまとめに外国人と言って紹介していたが、番組の目指す方向性がテーマごとにぶれてしまい、視聴者に分かりづらかったのではないか。番組途中の音楽は、他局の番組のオマージュとなっていて、効果的なＢＧＭだった。高山市には海外戦略推進課があり、地方の公務員でも地元だけにとどまらず、海外の人とも仕事をすることを紹介していたのは、これから就職する学生たちにとっても刺激になると思った。金沢の金ぱくを使った箸作りや富山県の鋳物作りなど外国人観光客が伝統文化のもの作りを体験できる取り組みを伝えていた。富山の鋳物はこの番組で出されたアイデアを取り入れ、実際に体験できる工房を作ったことが紹介されていて、以前と比べ、発展していてよかった。福井県の竹とんぼ作りはまだ体験観光とまでは言えない途上の段階だったので、今後に期待したい。宗教の違いなど、食文化の受け入れ対応については繰り返し取り上げるとより理解が深まると思う。残念だったのは今回の番組に外国人ゲストがいなかったこと。日本人だけでなく外国人の視点が入るとよかったと感じた。また、愛知県の魅力としてリニアモーターカーやＭＲＪの開発を取り上げていたが、まだ体験できないものではなく、実際に体験できるものや場所を紹介する方が効果的だったのではないか。

○　2016 年度を振り返りながら、中部７県の最新の外国人観光客誘致の取り組みについての情報、外国人観光客の宿泊旅行者の前年度比の数字から各県で増減した要因を探り、理解を促すという、インパクトある構成となっていた。特に、冒頭の静岡の三保松原が、富士山とともに世界遺産登録され、構成要素の一つであるにもかかわらず、駐車場に閑古鳥が鳴いているところからの始まりが印象的だった。リピーターの増加や旅行の形態が団体から個人へと転換し、旅行で求められるものが変化していることも分かった。日本の生活

文化が体験できることが重要であること、岐阜の例のように地域・行政を巻き込んだマネジメントが行われていることも、大変興味深かった。富山県高岡市の観光協会では、職人さんとの交流による鋳物のおちょこ作り体験を実現していること、三重県松坂市では外国人に七草がゆ、餅まき等、地元の行事や祭りへ参加してもらい、参加が新鮮な体験だと受け止めてもらうなど、観光客誘致が進化していると思った。番組の効果は絶大で、地域貢献度が高いと改めて実感した。今後も、中部地域特有の多様な文化や伝統を生かした、広域的な観光施策に番組が貢献できたらよいと感じた。行政では昇龍道プロジェクトなども進められているので、行政の動きも捉えて今後の番組制作をお願いしたい。

○　今回は各県の特徴が出ていて、全体的に好感が持て、楽しみながら番組を見ることができる構成だった。北陸新幹線が開通して以来、観光客が非常に増えたが、落書き問題など人が集まることでの課題も生まれている。番組ゲストが外国人観光客の伸び率や石川県金沢市の取り組みのリポートを見て、「古い街並みなど、守ってきた伝統を大切にしている石川県だからこその数字だ」と言っていたが、きょう、あすで作ろうと思っても出来るものではないというのは、そのとおりだと思う。伝統や文化の継承、人づてに伝えるという町文化を大切に、本物として守り、育てていくことが重要だ。花は花でも、花を家で活けたときに華道となり、道となるように、自然を生活の中に組み入れて愛でる心が人間にはある。和食を世界にアピールしているように、ただ食べるだけではなく器からも、文化を感じているのではないか。そうした日本や地域に根付いた日本文化の良さを再発見する番組としての役割を今後も期待したい。

○　各県の特徴をみることができ、大変楽しく深まる内容だった。外国人観光客が静岡で減少する一方、福井県、石川県、岐阜県で増えているのは、非常に驚いた。その要因が分かりやすく、各県の特徴がよく現れていた。静岡県は、個人の観光客が増え、変化のスピードに対応できない状態で、大企業病的な現象だと感じた。一方、石川県や岐阜県は体験型観光で、自治体がマネジメントし観光を展開することで、個人客をターゲットにコアな趣向や限定的な体験を中心に、成功へと導いている。両者、特徴の違いがはっきり分かっ

てよかった。他局の番組の象徴的な音楽を使用することは非常に新鮮だった。他局とＮＨＫの良さを相互に活かすことで業界全体に相乗効果があるのではないか。限界集落で地域の文化がなくなっていくという中で、外国人観光客が田舎に来てくれることで田舎に仕事ができ、人が残り、地域文化が継承され、過疎化問題解決につながるという視点は、人口が減少していく地域にとっては大きなヒントになるのではないか。そうした観光プラスアルファの効果があることも番組内で解説すれば、もっと深い内容になったと感じる。また、「団体から個人へ」、「見るから体験へ」などキーワードのまとめがあると、番組としての方向性がよく分かったのではないだろうか。

（ＮＨＫ側）

外国人観光客の数が、あまり変化していない地域や減少している地域の紹介のしかたが難しかった。静岡県は外国人観光客が減少しているが、番組上それを早い段階で伝えたほうが、全体として分りやすくなるため最初に紹介した。中部の多くの県が、体験にシフトする中、愛知県は方向性が見えづらく、取り上げ方が難しかった。最先端のリニアやＭＲＪではなく、たくさんある産業体験博物館などを紹介するという考え方はあったかもしれない。福井県は、観光客数で見ると少ないため、数字ではなく、どういう取り組みがあるのかに触れた。限界集落など、過疎や高齢化といった問題を抱える地域に対して、どのようなことができるのかを考えると、今回の福井県のパートのように、何気ないもの、昔のものを大切にする日本の文化を紹介していくことも一つの方法だと考えている。スタジオゲストの会話の中でも、そうした意識を伝えられた点は非常によかったと思っている。次回、特集をやる機会があれば、多岐にわたる目的の観光客がいることが分かってきているので、長期滞在型、スポーツ、山登りなど、中部全体を目的ごとに見られるような形も考えたい。

○　司会の三輪秀香アナウンサーと天野ひろゆきさんの雰囲気が非常によかった。コメンテーターの方々もよかった。ただ、番組は各県の取り組み事例の紹介が連続し、つながりに欠けた展開となっていたと感じた。実際に観光客増にどのように貢献しているのか、展開が速すぎてよく分からなかった。経済的な効果、プラス面とマイナス面がどう生じているかを伝えてほしかった。富士山の団体客はどこへ行ったのか、個人客にとって富士山は本当に魅力がないのかという調査や分析をすると、より説得力が増したと思う。外国人観光客を増やすなら、まず現状把握が必要であると感じた。たとえば、外国人観光客を連れてくるエージェントを取材すると、行政とは異なる外国人の動向が見えてくるのではないか。今は外国人観光客のみで語っているが、日本人観光客の動向、宿問題などの分析もあると、より実態に沿った観光客の動向を考察できるのでないか。番組ホームページは外国人に見せる意識が薄い。外国人に見てもらう工夫をしたほうがよい。中部７県で協調体制を作り、少しずつ番組の影響をフィードバックする形で提案型の番組になれば意味が深まるのではないか。

○　静岡県の外国人観光客減少については、旅行会社への取材などを通じて、謎解きのように展開しおもしろかった。石川県で外国人観光客が増えている理由が体験や宿泊施設の取り組みによるものだという話の展開もスムーズだった。簡易宿泊所で日本の料理体験をすることなどを紹介し、静岡県と異なることを印象づけた。ただ、今回紹介されたことが石川県の外国人観光客増加の要因のすべてなのかという疑問は残った。各県の取り組みも紹介され若干間延びした感じを受けたが、福井県の取り組みで目先が変わり継続して視聴できた。農泊やディープな日本の暮らしの体験もおもしろかったが、少しマニアックな事例ではないかという疑念は残った。山奥へどれほど外国人を誘客できるか疑問だ。スタジオ５人の会話は軽妙で大変おもしろかった。特に司会の天野さんがよかった。軽快な雑談の中で意外な発言もあり、よく練られたトークだった。数字もうまく使用していた。場面転換もよく、それぞれのエピソードに物語性があり、ナレーションとカメラのタイミングもよかった。各県のばらばらなエピソードが紹介されたが、共通性を感じられたのは、スタジオトークがあったからだろう。特にゲストに専門家は呼ばず、一般の目線でトークが展開されたことがよかったと思う。

○　番組中で使われた言葉や数字で気になる点があった。「外国人観光客」が去年過去最高2,403万人になったと紹介されたが、この数字は日本政府観光局がまとめている訪日外客数のデータである。海外から日本を訪れる外国人の総称だ。この中には観光客のほかにビジネス旅行者、駐在員やその家族、留学生の入国・再入国などが含まれ、観光客という言葉を使っていいものかどうか抵抗感があった。「外国人旅行者」くらいが適当だったのではないか。また、番組中の外国人観光客の宿泊者数は、観光庁の宿泊旅行統計調査からの出典と思われるが、この数字は観光目的の宿泊客が５０％以上の施設の延べ宿泊者数である。少なくとも表の中かアナウンサーの説明の中で、うまくことわりを入れるべきだ。正確さと分かりやすさを両立させるのはテレビでは特に難しいとは思うが、研究していただきたい。外国人観光客の旅行形態が団体から個人へということで、番組では2010年には団体43.6％、個人56.4％という数字が出ていた。これが2016年になると比率が１対３くらいになっていくと解説していた。これは観光庁の訪日外国人の消費動向からのデータとのことだが、実際にＨＰ等に載っているデータを確認すると、旅行形態の回答欄で2010年には団体ツアーが31.1％、団体ツアーでない、つまり個人旅行が68.9％という数字が出てくる。番組の数字と異なっているように見えた点が気になった。

○　お笑いタレントの司会で、お笑い的な要素が多くなったことが残念だった。中部７県のうちゲストが４人という点が不思議だったが、番組が進行していくうちに納得できた。前回までの「おもてなし中部」放送後の各県の観光に対する努力を知れてよかった。うまく集客している県と、うまくいってない県の違いとして「体験」ができるかが大切だということも分かった。しかし、番組全体のお笑いの雰囲気が気になり、長い時間の特集番組としてはもったいなかった。今までの繰り返しで、７県の事例をただ紹介しただけのように感じ残念だった。一つ一つを掘り下げることができればよかった。外国人観光客を増やすため体験型が好まれることは、今までの放送ですでに分かっていたことだ。観光地として成功するには、県の魅力、土地の魅力がどこにあるかを掘り出しリピーターを呼ぶことが一番大事なことなのではないか。リピーターを呼び込むための取り組みを視聴者に紹介する番組にするとよかった。たとえば、岐阜県の高山市は何十年も前から観光で生きてきた土地で、今になって外国人が来たから力を入れているということではない。外国人観光客が増えても、新たな

問題にぶつかっている自治体もある。県として魅力のあるものが残っていくことができるよう、個人や団体という視点ではなく、県の魅力を掘り下げていく番組になるとよい。

○　「見る」から「体験する」に観光のテーマが変わってきていることがよく分かった。金沢は町の文化を大切にしてきたこと、日本の本物の体験プログラムを増やし、170以上もの体験プログラムがあることもすばらしい。金ぱく体験のほかにどのような体験があるのか、金額とともに教えて欲しかった。ゲストハウスも日本の当たり前の生活が外国人にとっては新鮮なのだと改めて分かった。漁業も漁業民泊に力を入れているが、番組では全く海の話題が出てこなかった点が残念だった。富山県出身のゲストぶらっくすわんさんが言っていた「古い街並みは今から作ろうと思っても出来ないので、金沢はずるい」という言葉がとても印象的だった。三重県は、前回「おもてなし中部」で取り上げられた松阪牛とか松阪木綿のその後ではなく、松坂市の祭りが取り上げられていたが、松阪牛と松阪木綿はどうなっているのか気になった。お祭りに来ていただくことはよいが、田舎の場合、外の人を受け入れないお祭りや、いろいろな風習や習慣があり、紹介されても行けない祭りもあるのではないかと思い、気になった。

○　今回のテーマは、外国人観光客のリピーターをいかに増やすかという問題提起にあったが、大変時宜を得た内容であり、特に観光事業の永続性をどうするかということで、当を得た番組だった。テンポが速く、レスポンスも心地よく、飽きさせない番組に仕上がっていた。問題提起のキーが「体験観光」と「本物の日本の文化」であり、これを通して深い感動が得られるかどうかがカギだったが、納得できる内容だった。岐阜県高山市や石川県金沢市というのは、長年、行政と民間とのコラボレーションもうまくいっている。文化や旅行客を熟知した人が行政側にも存在し、旅人の気持ちになって観光客誘致の施策が練られていて、視聴者の方は大変感動を受けたのではないか。日本人は従来、自然に畏怖の念を持って寄り添っているが、外国人にはなかなか分からない。日常の暮らしの中に禅の心が宿っていることを、旅人にどう説明し魅力を得るかどうかというのは、担当者が理解していなければ、なかなかリピーターにはつながらないが、受け入れ側の取り組みについてもう少し深めていただくとよかった。

今回コメンテーターは本質的な面の解説がなく、もう少し専門的な視点から語れる方をゲストに呼んだ方がよかったのではないか。日本には四季があり、春夏秋冬、朝昼晩と、同じ場所でもまったく趣が違う。季節ごとの楽しみ方の違いや旅の動線が分かりにくいということもあり、鉄道も組み合わせて旅行情報を構成してはどうか。

（ＮＨＫ側）

訪日外国人の観光で中部地域にどれくらい経済効果があるのかいろいろなデータで調べたが、お店で買ったものに対して外国人旅行客が幾ら払ったかという記録がないなど、経済的な部分に関しては明確なデータがないため紹介することを断念した経緯がある。富山県に関しては、最大の問題は外国人観光客は来ているけれど泊まらない。日帰りで長野県や岐阜県、石川県へ流れていく通過点となり、富山県でお金を使わないということが一番の課題だと聞いている。もう少し時間があればこのことも紹介できたが、今回は触れることができなかった。外国人観光客数のデータは、コメントでは言葉足らずな面もあったかもしれないが、放送の中で必ず出典を示している。また、視聴者の方から問い合わせが来たときには、お答えできるように問い合わせメモを用意している。外国人観光客に関しては、入国のときの目的を旅行としている方のデータ。一般的に、行政も含め、昨年の人数は2,403万人と発表しているのでこの数字を番組でも取り扱った。宿泊者数に関しては、観光目的での利用が５０％を超える宿泊施設での数ではあるが、これ以外の広く比較できる数字が存在せず、今回は観光庁の宿泊旅行統計調査の結果を紹介した。日本での旅行回数の割合に関しては、観光庁が発表している訪日外国人の消費動向の統計調査の結果を紹介。番組では、実際にセントレアでもアンケート調査を行ったが、大きな違いはなかった。外国人観光客は、日本に入国したら、どこに行って、どういうことをしていて、どこでお金を使っているのか、どこで泊まっているか、完全には把握できない部分

も多いため詳細な実態については難しさもある。より工夫し、精度の高いデータを集めていけたらと思っている。三重県に関しては、外国人向けの観光になるかどうかを確認する取り組みとして松阪市のお祭りを取り上げた。地元の方が受け入れ、外国人が喜ぶということが成立しない限り、観光化をすすめてもお互いウィン・ウィンにならない。松阪市では、「おもてなし中部」の放送後、独自の取り組みで外国人誘致を行っているので、その一例として今回の内容を取り上げた。以前紹介した松阪牛や松阪木綿については、また別の機会を考えたい。

○　オムニバス形式の紹介で、流れがわかりにくいという意見があったがどうか？

（ＮＨＫ側）

中部７県全部を紹介したかったということと、大局的な状況がどうなっているかということの情報をメインに考えた。スタジオでつないだが、アラカルト的に見えた部分は確かにあった。今後は、構成を検討していきたい。

放送時間は、制作グループから７３分で制作したいという声もあった。詳しい解説が多すぎると７３分が長く感じ、テンポが失われてしまう恐れもある。一方で、時間が短すぎると、今度は足りない感じがする。放送尺については判断が非常に難しく、意見は今後の参考にさせていただきたい。

○　「旅人」とひとくくりでいっても日本人と外国人、外国人の中でもいろいろある。中国人と西洋人では考え方もまるで違う。その取り扱いはどのように考えたのか？

（ＮＨＫ側）

まだ各県も１回しか取り上げておらず、テーマ別、国別など、今後やっていきたいと考えている。通常回はＹｏｕＴｕ

ｂｅｒが出演し、情報をＳＮＳでも発信しているが、その効果については未知数である。ホームページは外国の方が見ても中部の魅力を理解してもらえるよう、工夫したい。

＜放送番組一般について＞

○　４月２１日（金）ナビゲーション「急増！　もう一つの待機児童～安心して働けない女性たち～」を視聴した。子育てをしながら勤める母親にとって仕事を辞めるか否かという問題と、いつも隣り合わせである実態が、３０年前と変わっていないことに本当に驚いた。一体どうしてこんなに変わらないのだろうかと思った。番組の中である母親が、もう仕事を辞めるしかないと言っていたが、母親にとって、安心、信頼して預けられる環境があってこそ、社会で十分な働きができると思う。名古屋の事例のような父母が運営する保護者会による学童保育の運営システムなど、先進事例を紹介することにより、問題解決につながると思う。環境を整えることについて、全国的な協議会などで様々な事例を学ぶ機会があるが、皆さん忙しく改善されてないのかもしれない。番組では母親だけがクローズアップされ、悲痛な訴えをしていた。本来は子育て世代の父、母、親たちの深刻な課題であるので、父親への取材があってもよかったのではないか。今回は親の目線から捉えた内容だったが、子どもたちの目線から、保育環境を見つめ、次世代教育環境のあり方を考える時代を迎えているのではないかと思った。また待機児童と類似することとして、介護についても働く世代に負担がかかっていると思うので、輻輳（ふくそう）した社会課題をテーマに今後も問題提起をしてほしいと思う。番組を通して、働き手の世代を支援する社会環境を築くことが急務であると感じた。

○　ナビゲーション「急増！もう一つの待機児童～安心して働けない女性たち～」を見た。放課後の子どもたちを見守る学童保育の現状は、当事者にとっては深刻だが、当事者以外はほとんど知らないことなので、よく取り上げてくれたと思った。青木さやかさん、静岡大学の石原剛志さんの２人のコメンテーターは、非常に適切でよかった。この番組を見て私たちの子育て時代とほとんど変わっていないことを知った。子どもが成長して子育ての現場を離れてしまうと、すっかり忘れてしまい、問題を受け継ぐこともなく時間だけ

が過ぎてしまったことに気付かされた。この問題が改善されていないのは、課題が受け継がれず、子どもたちが成長して問題がのど元を過ぎてしまうと、新たな人たちがまた最初から問題に取り組むという構図が繰り返されてきたことが、一つの原因かと思った。それに比べて老人問題は、常に人生の前方に問題が横たわっているので、注目を集めて改善されているということが、子どもを育てる環境が老人問題に後れを取る理由だとも考えられる。番組内で、父母会が比較的良好に運営されているように紹介されているが、大変な側面も取り上げてほしかったと思う。全体としては、いい番組だった。

○　４月２８日(金)ナビゲーション「残業、減らせますか？　現場報告“働き方改革”」を見た。経営者側からは、効率よく働いて、業績を落とさずに、残業を減らしなさいという指示が出ていることがよく分かった。なかなか難しいというのが働く側の意見として出ていたが、まさしくそうだと思う。一方、経営者側も色々な工夫をしていることが紹介され、中間管理職が部下の管理、いわゆるマネジメントをどれだけやれるかが一つの課題だ。従業員がどんな仕事をどれだけやっているかを把握し、働く側も専門能力を高めないといけないということが分かった。日本は世界でもホワイトカラーの生産性が低いといわれていて、この点をどうするかという視点で番組を作ったほうが課題解決になると感じた。大手建材メーカーの取り組みが紹介されていたが、同じ会社を「大手建材メーカー」と言うときと企業名で紹介するシーンがあったが、使い分けの基準があるのか気になった。また、働き方改革で９項目をあげて改善をしていると紹介されたが、９つの残業削減策はすでにどの企業でも取り組んでいることで、それだけでは解決できないから問題になっている。より効果的な取り組みになっているのなら、もう少し具体的な秘けつや、アイデアを紹介してほしかった。

○　ナビゲーション「残業、減らせますか？　現場報告“働き方改革”」を見た。なぜ長時間労働を改善しようということになったのかという背景説明が弱いが、大手企業や中堅企業の具体的な取り組みをよく取材していると感心しながら見た。ただ、日本は生産性が低いといわれているが、外国と比べてどれほど低いのか。その背景も含め、国際的な競争力の強化のためにどのような働き方改革が必要なのかというところまで踏み込むと、企業にとってより参

考になったのではないかと感じた。

○　ナビゲーション「残業、減らせますか？　現場報告“働き方改革”」を見た。長時間労働を放置し続ければブラック企業とされて、人材難になって業績が悪化するという指摘があった。このロジックは本当なのだろうか。現在、問題のあった企業で働いている人はどう思っているのだろうか。そして実際、人手不足になっているのであろうかと感じた。ゲストから、人口減、特に生産年齢人口が減っていると指摘があり、これからは男性だけなく女性もシニアも働きに出る時代になるということだった。そうすると家事をする人がいなくなるので、残業を減らす必要があるという考え方には一理あると思った。様々な企業がある中で、まず現状を把握し、現状に合った手法を取り入れるとともに、法令を含めて整備が必要だと感じているので、継続して取り上げていってほしい。役所、銀行、マスコミ等、率先して改革すべき企業も取り上げていっていただきたい。

○　ナビゲーション「残業、減らせますか？　現場報告“働き方改革”」を見た。ＮＨＫはどうなっているのかというのも、潜在的に視聴者の皆さんも気になっているのではないかと思った。医療の働き方の現場も取り上げてほしいと思った。

○　ナビゲーション「残業、減らせますか？　現場報告“働き方改革”」について、取り締まるだけで本当に改善に結びつくのかという点や、特にホワイトカラーの生産性が非常に低いということについて、改めてＮＨＫで企画して取り上げてもらいたいと思うがどうか。

（ＮＨＫ側）

働き方改革については、再来年には法律で残業時間の上限規制も始まるという話もあり、社会的な関心も高いテーマだと思うので、引き続きまた時期を捉えて取り上げていきたい。番組の中で企業名をどう扱うかについては、個別の企業名を連呼することで宣伝になることは避ける一方で、企業名そのものが視聴者にとって価値のある情報という側

面もあるので、どういう番組か、どういう企業を取り上げているかなどケースバイケースの判断をしている。先日のナビゲーション「残業、減らせますか？現場報告“働き方改革”」は、ナレーションでは「大手建材メーカー」という言い方、インタビューでの肩書きは個別企業名をテロップでスーパーするという判断をした。ケースバイケースで、企業名を伝えることが視聴者にとって必要な情報であると判断した場合は企業名を出すこともあると考えている。

○　５月１２日（金）ナビゲーション「ともに生きる　～がん患者が集う美容室～」を見た。女性はいつまでもきれいでいたいと思う。薬の副作用で、髪の毛が抜けるというのは誰にとってもつらいことだ。身近にがんを患った人たちもおり、ひと事には思えない内容だった。今回は、がんを患った人たちが抱える悩みを、“女性”という視点で取り上げていたところもよい切り口だったと思う。

○　４月１５日（土）ＳＷＩＴＣＨインタビュー　達人達（たち）「松岡正剛×コムアイ」を見た。編集工学者という松岡正剛氏と、若いアーティストのコムアイの会話だったが、祖父と孫のように見える２人の会話自体には大きな興味は湧かなかった。ただ、松岡氏とコムアイのそれぞれに対する興味が湧いた。１人の頭の中に大量の情報を入れて編集する、編集工学者松岡正剛の思考については大変興味が湧き、本を注文して読んだ。コムアイがボーカルを担当している「水曜日のカンパネラ」については、放送後、数曲ダウンロードして聴いている。孫と祖父くらいの年の差がありながら、同じ土俵で意見を交えている姿に感心した。異色の組み合わせであり、興味深い番組だった。万人に受けるわけではないと思うが、両氏それぞれのペースで進む、ゆったりとした対話は、話しの内容よりも２人が同じ画面に映っているということに意味があり、とてもよかった。興味を持った両氏について、インターネットで人物情報を検索しながらテレビを見たが、そうした楽しみ方ができるよい番組だった。

○　４月１８日（火）人生デザインU-２９「ダンサー」を見た。２９歳のダンサー・中込孝規さんの笑顔がとてもすてきだった。中込さんは、教育関係の会社を退職した後、ひとりでもできる教育としてダンサーを選んだとのこと。世界中の友人と一緒に、インターネットも活用しながら、国際的なダンス授業や、子どもたちを対象としたダンス授業を行なう姿は、輝いていた。その輝きが子どもたちにも反射していて、大変ポジティブで明るい気持ちにさせられた。

○　４月２１日（金）歴史秘話ヒストリア「今夜は名所秘話　～伊勢　鎌倉　富士山　知られざるドラマ～」は、富士山の映像が特にすばらしく、番組を見て訪れたくなった。番組の最後に葛飾北斎が９０歳の時に詠んだといわれている「八の字の踏ん張り強し夏の富士」という言葉が紹介されていたが、すごみを感じる言葉で心に残った。見る人にパワーを与える番組だった。

○　４月２２日（土）スーパープレミアム「潜入！　世界最高峰のマジック殿堂　マジックキャッスル」（ＢＳﾌﾟﾚﾐｱﾑ 後 8:00～11:00）を見た。マジックは目を疑うようなものばかりだった。人の心は、インターナショナル・ランゲージ、つまり国境を越えて共に感動し、共感できるものだと思う。それは、今回のようなマジックにも通じると思った。

○　４月２３日（日）目撃！にっぽん「高校生ワーキングプア　旅立ちの春」を見た。大変この番組は興味深かった。綱渡りではあるが希望の進路に向かう姿に、困難な環境の中でも心を折れずに頑張る青年たちがいること、兄妹がいることで支え合い、感謝が生まれているということに心が洗われた。支え合う家族がいると、その絆が生きる原動力を生み出すことを感じさせる、すばらしい番組だった。

○　４月２６日（水）「ニュースウオッチ９」を見て、前復興大臣の「東北でよかった」という言葉に、胸が締めつけられる思いだった。一方で、ネット上では、「東北にはすばらしい場所がいっぱいある」、「東北はよいところなのだ」という意見があふれているということが報じられていた。逆手にとって前向きに転換しようという動きがあることを知り、うれしく思った。

○　４月２６日（水）「ひるブラ」、４月２８日（金）「さらさらサラダ」では、菓子博の見どころがたっぷりと紹介されていた。一番の見どころ、幅１０メートル、奥行き５．５のシンボル展示の歌川広重の浮世絵「宮川の渡し」は、本当にこれがお菓子で出来ているのか？と思うくらい、すばらしい出来だった。また、この製作に県内の菓子職人 110 人が１年半をかけたということも番組で知った。１６本のサクラの木は１０万個の花びらを一つ一つ作るところから始まっているというのを番組で知り、本当にすごい出来栄えにびっくりした。その作業は、それぞれの仕事を終えてから集まって作っているということにも、本当に苦労をして作られたのだなということが感じられた。この番組を見てから菓子博に行かれた人は、このシンボル展示の見方が変わったのではないかと思った。そして、この「宮川の渡し」にリーダーとして携わった早川さんは、今回のこの菓子博はいろいろなキャリアの人との交流が、特に若い職人さんにとってはよい刺激になったし、菓子職人を目指す人が増えてくれることを願っていると前向きなコメントをしていたこともよかった。伊勢は大いに盛り上がり、去年のサミットに続き三重県の知名度アップにつながったと思う。

○　４月２７日（木）あさイチ「こうすれば充実！親の介護」を見た。介護を始めた当初は「大丈夫」と言っていたのだが、だんだん忙しくなり、怒鳴ったり怒ったりしてしまうというのは、よく分かる。ロボットによる介護の方がよいのかもしれないと深い内容だった。自分自身の介護のことを含めて、年を重ねるうえでどう生きていくかを考える参考になった。

○　５月１日（月）プロフェッショナル仕事の流儀「１アウトの意味～メジャーリーガー投手・田中将大～」を見た。見ていて本当に感動した。田中将大投手は生まれつきすごい人だと思っていたが、努力家だということが初めて分かった。彼は一球一球、単調なキャッチボールをすごく大切にしていて、結果を出す人は基本をおろそかにしないことを、あらためて実感した。職場でも凡事徹底とよく言うが、田中投手はそれを実践していた。バッターと対するときにバッターの雰囲気を感じ取っていることに感心した。打とうとしているのか、待とうとしているのか、変化球を待っているのか、何を考えてバッターボックスに立っているのか、一球一球その雰囲気で感じていると言って

いた。番組で「雰囲気とは何ですか？」と聞いており、「雰囲気は雰囲気だ」という答えに納得した。田中投手の魅力を感じ、ますます応援したいと思えた番組だった。

○　５月１日（月）１００分ｄｅ名著　陳寿“三国志”４回シリーズが、非常に勉強になる。私が知っているのは漫画や映画のいわゆる「三国志」、「三国志演義」を基にしたものだ。時代の大転換期には「三国志」時代のリーダーの姿勢が参考になるということが納得できる番組だった。「正史三国志」を紹介した番組で、早稲田大学の渡邉義浩先生が指南役だった。これまで曹操は悪人だと勝手に思い込んでいたが、実は能力のある人物で、日本にも導入された律令制度、その基礎を作った人だということに驚いた。「三国志演義」を少しだけ理解している者には、「正史三国志」とどんなところが違うのか教えてもらえると、次に「正史三国志」を読むときに分かりやすいと思った。

○　５月３日（水）にっぽん紀行「俺たちがつくる高層ビル　～東京・渋谷～」(総合 後６：05～６：38)は、連続テレビ小説「ひよっこ」の内容と重なり、見入ってしまった。「ひよっこ」は昭和３９年頃の金の卵、「にっぽん紀行」の若者は現代の金の卵の話。３人の若者が３Ｋといわれる建設業に夢を持って働いている姿を特集した番組だった。３人とも夢を持ちながら、いきいきと働いている姿に感動するとともに、テレビを見ながら頑張ってと声をかけたくなった。現代に金の卵たちが数多くいることを知ることができ、大変感動した。朝早い、平日の朝６時５分からの放送だったが、番組の時間帯やＰＲをもっと工夫して、これからを背負う若い世代に多く視聴してもらい、日本を元気にしてもらいたいと感じる、とてもよい番組だった。

○　５月３日（水）探検バクモンスペシャル「新幹線＆ドクターイエロー祭り」(総合 後７：30～８：43)を見た。見るだけで幸せを呼ぶといわれている黄色い新幹線ドクターイエローが興味深かった。ドクターイエローは７両編成になっていて、それぞれの号車によって電線やレールの不具合をチェックする機能があって、ドクターイエローは直すのではなく、事前に発見するのが主な仕事だということをこの番組で知った。また新幹線の危険を察知して自動で止まるＡＴＣという装置や、職員もどこにあるか知らない総合指令所も紹

介され、指令所で毎日管理をしている人や、レールの不具合を夜中に修理する人たちがいてくれることで、事故もなく安全が保たれているということを、改めて知ることができた。新幹線の清掃をしている人の作業の早さにはいつも感心させられるが、シートの水濡れを感知するほうきがあるというのを初めて知った。水濡れが見つかった場合、ひどい場合はシートごと取り替えるというテロップがあったが、少し濡れている場合はどうするのか気になった。

○　５月４日(木)「まだ間に合う！ひよっこ」(総合 前 11：20～11：49)を見た。「ひよっこ」はずっと見ていたが、ドラマ制作現場のメイキングシーンには感動した。続編を期待したい。増田明美さんが身を乗り出してナレーションをしているということを知り、その思い入れが視聴者に届くナレーションにつながっているのだと感じた。ナレーションの姿はほとんど見ることがなく、普通に座っているものだと思っていたので、より好感が持てた。ナレーターも含め意外な方が出演するのを今後も期待したい。

○　５月４日（木）プラネットアースⅡ　第５集「高山　天空の闘い」(総合 後 1：05～1：50)の再放送を見た。目が釘付けになり、地球の美しさの一方で厳しさ、そこに生きる生き物の営みのすさまじさを知る、非常に貴重な時間となった。これほど美しい地球、そしてそこに生きる生き物たちの生命力、生きていくことの厳しさは改めて生を問い直す機会となった。撮影技術が見事で被写体に対して正確、的確、精密で、画像の切り取り方、高速の被写体に対してピントがぴたりと合ったフォーカスなど、ぜひハウツーを教えてもらいたいと思う内容だった。高山の四季、春夏秋冬の美しさを見せてくれたが、周到な準備と、山を知り尽くした人たちの見事な企画と実行に、加えて大変粘り強く時間をかけたプロの執念には感服した。

（ＮＨＫ側）

「プラネットアース」は、イギリスのＢＢＣと国際共同制作している。ＮＨＫ単独ではなく、世界中のカメラマンが撮影した映像を使用していると聞いている。

○　５月５日（金）香川照之の昆虫すごいぜ！「２時間目　モンシロチョウ」(Ｅ

ﾃﾚ 前 9：00～9：30)を見た。モンシロチョウを人間に置き換えたら羽根は２メートルに相当することを、実際に見せたのは良かった。そして、香川さんがクレーンで吊るされるのを見て本当に昆虫が好きなのだと感じた。昆虫への思いを込めて出演しているのは立派だと思う。昆虫を触れない子にびしっと言う姿も“らしく”ていいと思う半面、早く寺田心くんが自ら触れるようになって欲しいという気持ちと、触ることへのドキドキ感や怖いという感性も尊重し、その気持ちも大事にしてあげられればいいと思う。これからも応援していきたいと思うので、頑張ってほしい。

○　５月７日（日）ＮＨＫスペシャル「世紀の発見！　日本の巨大恐竜」を見た。むかわ竜の骨をＣＧではなくレプリカでスタジオに再現した事で迫力があり期待感が高まったとともに、番組の意気込みを感じた。むかわ町で恐竜の化石が見つかり、それが大発見だと気づくまでの話は感動的な内容だった。さらに、情熱が奇跡をたぐり寄せ、技術と知識が結び付いて世紀の大発見となるというのは、子どもたちに向けてもよいメッセージになると感じた。しかし、世紀の大発見が、１人あるいは限られた人たちで成し遂げられているイメージを受けてしまう。専門家、発掘者のチームや、クリーニング、ＣＧの担当など多くの専門家や関係者が関わっていることについて関連図などを使い示してもらえると、さらによかったのではないか。番組の最後に、日本各地で発見された恐竜が、その化石が発掘された地域とともに紹介されていたが、国内の中でも多くの恐竜化石が出土している福井県の紹介がなかった点は残念だった。

○　５月９日（火）「ほっとイブニング」を見た。「母の日」の特集をやっていて、母と子での体験教室が人気という話題だった。そのほか、花が瓶詰や箱詰になっている商品が人気になっているというニュースや「アイスクリームの日」にちなんでアイスクリームの歴史などについてのリポートが放送されたが、いずれも話題に対しても、二人のキャスターの掛け合いがほのぼのとしていて、よかった。

○　５月１２日（金）あしたも晴れ！人生レシピ「５０代からのファッション改革」を見た。年齢を重ねるごとに着る服は悩ましくなっていくものだ。番

組では、いくつになってもファッションを楽しみ、輝き続ける女性を紹介していたので、番組を興味深く見ることができた。これから働く女性がさらに増え、新しい時代を迎えると、女性の服の選び方も変わってくるだろう。今後も年齢に合わせた楽しみ方を提示する番組を放送してほしい。

○　５月１２日（金）あしたも晴れ！人生レシピ「５０代からのファッション改革」タイトルに引かれて見た。５０代からどのような服を着ればいいのか、もっと具体的なアドバイスが聞けると思い楽しみに見たが、数人の人たちが自分の服への思いを語っていただけで、期待した内容ではなかった。年を重ねると誰もが悩む体形の悩みや、色使いのアドバイスなど５０代ならではの悩みに応える番組を考えて欲しい。

○　５月１３日(土)週刊　ニュース深読み「近くて遠いとなりの国　韓国はどこへ行く？」を視聴した。深読みコーナーに入る前に１週間のニュースを、皆の関心を高めるように簡明に総括しているのはよかったが、深読みのコーナーでは、司会者が代わって不慣れなのか進行や発言の切れ味がいまひとつだと感じた。また、グラフィックレコーダーが白板にキーワードを書いていたが、雑然としてまとまりに欠けているようにも感じた。視聴者の素朴な疑問や関心に必ずしも応えていないため、とても内容のある議論だったが、視聴者の目線に立った細かい点で納得性を高めていってほしい。

○　５月１３日（土）土曜時代ドラマ　みをつくし料理帖（１）「はてなの飯」を見た。５月１２日（金）の「あさイチ」のプレミアムトークに黒木華さんが出演して「みをつくし料理帖」を紹介しており、１話でカツオをさばくシーンは実際に黒木さんがさばいていると言われていたので、興味を持ってドラマを見た。着物がよく似合い、特にせりふのないときの表情や仕草の演技が上手な女優さんで、ベテランの小日向文世さんとの共演にも負けていないと思った。また、上方と江戸の食文化の違いを知ることもできたし、笑えるところもあって、楽しく見ることができた。ただ、ドラマのエンディングで、ドラマに登場したはてなの飯を黒木さんが着物姿で作るコーナーがあったが、調理をする台所が最新のキッチンなので少し違和感をもった。

○　５月１３日（土）ＮＨＫスペシャル「巨大水中洞窟を潜る　絶景　オルダ“水の宇宙”」を見た。４Ｋカメラで撮った映像は、きれいで、見ていて息が止まるような映像が本当にすばらしいと思った。何よりもスタッフの方が冷たい水中に潜り、もうろうとして体が動かなくなるシーンはリアル感と臨場感があり、ＮＨＫならではの番組だと思った。特に結晶ができる過程をＣＧで表現していたが、海水の蒸発途中でできる石こうが神秘的で、そういったものも見せていただけるのはとてもよいと思う。今後も、魅力ある地球を見せていただきたい。

○　５月１３日(土)「京都人の密（ひそ）かな愉（たの）しみ」（ＢＳﾌﾟﾚﾐｱﾑ 後9：00～10：59　最終回）というシリーズは、ドラマの中で一番おもしろく、密かな愉しみでもあった。ドラマに必要な要素が本当にうまく使われている。たとえばその構成。メインストーリーとしてのドラマがあって、オムニバスドラマや伝統工芸の紹介のドキュメントがあって、食の紹介がある。非常に組み合わせがよい。キャスティングもテレビではすごく重要な要素だと思うが、団時朗さんが、味のある役どころで出演している。銀粉蝶さん、伊武雅刀さん、常盤貴子さんもいいキャスティングだと思った。映像も凝っていて、音楽もいい。屋外ロケで光を上手に捉えている。スタジオを使わないことのプラス面が十分出ている。その中に、四季だとか、伝統の文化みたいなものが映像の中にちゃんと入り込んでいる。ドラマで使われた衣装は常盤さんが用意するのか、ＮＨＫが用意するのか、どっちなのだろうか気になった。料理研究家の大原千鶴さんがおかみとして出演し、かなり手の凝った料理が登場し、料理のシーンも手間暇がかかっていて、出色の出来だと思った。

○　５月１４日（日）第６７回　ＮＨＫ杯テレビ将棋トーナメント「１回戦・第７局」（Ｅテレ 前 10:30～後 0:00)。藤井聡太四段対千田翔太六段の対決だったが、通常ＮＨＫ杯の勝敗は放送前には発表されないが、今回は１か月ほど前から、藤井四段が勝ったと報じられていた。どうして放送前に外部が知ることとなったのか理由を知りたいと思った。

（ＮＨＫ側）

通常、ＮＨＫ杯の結果は放送終了まで公表不可の形を取っているが、今回は極めて注目されている対局であったため、放送前の結果公表を行ったようだ。

○　５月１４日（日）ＢＳ１スペシャル「マイケル・サンデルの白熱教室　トランプ派ｖｓ反トランプ派」（ＢＳ１　後 10:00～10:50，後 11:00～11:49）を見た。テーマを変えながらいろいろな議論を進め、マイケル・サンデルさんはさすがだと思った。立場は違ってもお互いの違いや同じ部分を明確にして、共通の認識を見つけていく様子は、すばらしかった。最終的に、お互いに異なる意見を持っていても、正面から向かい合って、相手の意見に耳を傾けるのが重要であるとか、対話で理解を深めることができて、アメリカの民主主義に希望を持つことができたという結論になっていて、これもすばらしいと思った。日本のメディアにも教訓となる内容だった。この番組を見ながら、どのような番組を作れば、日本の未来に希望を持てるようになるのであろうかと思わず考えさせられた。

○　５月１４日（日）プレミアムドラマ「ＰＴＡグランパ！」を見た。おじいちゃん役を松平健さんが演じていて、フルタイムで働き、子育てする母親の苦労がドラマ化されていて、現実味のある内容になっている。定年になったおじいちゃんがＰＴＡをやるというのはすごくおもしろいシチュエーションで、最後が大変楽しみだ。世間でもこれからは母親の代わりにＰＴＡに参加するお年寄りが現実に増えていく可能性が十分にあるのではないかと思いながら見ている。最近、ＮＨＫのドラマを楽しみに見ている。コマーシャルがないのが見やすく、大物俳優の松平健さんがＰＴＡの役員としてキャスティングされていたり、ドラマの厚みが増している。またどのようなジャンルのドラマでも、泣いたり笑ったりするだけではなくて、今の世相を反映する内容になっているため、世相に対して自問自答しながら私は見ている。そうしたドラマをどんどん制作していっていただきたい。

○　５月１６日（火）「あさイチ」をみた。「ピカピカ☆日本」が愛知県美浜町で、えびせんの新たな食べ方として、しゃぶしゃぶを紹介していた。ＮＨＫ

の全国番組で取り上げられたことで、認知が広がりとてもよかったと思う。

○　５月１６日（火）アナザーストーリーズ　運命の分岐点「日本人が愛したカーペンターズ～天才兄妹秘められた物語～」を見た。司会者の髪型に驚いた。いつもは清楚な雰囲気だが、カーペンターズのしっとりくる曲を取り上げた回で、曲調と合わない髪型だったことが残念だった。内容的にはカーペンターズの人柄、歌でしか分からなかったことを取材しており、とても良かった。テロップの文字がとても見やすい字体だが、「き」と「む」が非常に特徴的な字体で、字体の多様性があってよいと思う半面、一般的な文字にした方が、もう少し見やすかった。「き」と「む」が出るたびに目が行ってしまい、気になった。

○　連続テレビ小説「ひよっこ」を見ている。これまで連続ドラマを楽しみにしていた家族になぜ「ひよっこ」に興味が薄れていったのかを聞いてみた。今までと比べると話のテンポ、展開が遅く、リズムが合わないということだった。また、主人公のみね子の明るさの中に苦しさと重さがある。見ていて詰まるような感じで、特に父親がいなくなるとか、家族と離れホームシックになるとか、初任給のほとんどを実家に送るというのは、少し心が重くなるとともに、若い世代には共感が持てない内容ということのようだ。また、なかなかストーリーの先が見えず希望や期待が持ちにくいところもある。現実の厳しさに立ち向かっていくところは共感するが、すずふり亭の人々や警察官の綿引さんのように、極端に親切な人が出てくるところに違和感を持ち、物語になかなか引き込まれなかった。「あまちゃん」「あさが来た」「とと姉ちゃん」は速いテンポだったが、前回の「べっぴんさん」や「ひよっこ」は遅いテンポで、若い人にはいまひとつリズムが合わないところがあるようだ。

○　「眞子さまご婚約へ」のスクープはすばらしかった。去年７月の天皇陛下の生前退位の意向のスクープにも驚いたが、日々しっかりと取材をしていると感じる。特ダネというのはいくつかあり、それを書かないと世の中に出ない特ダネと、いずれは出るニュースを早く書く特ダネがあって、今回は後者のほうだと思う。これはメディアの活力ということで今回のような形の特ダネも、すばらしい。なぜわざわざこんなことを言ったかというと、５月３日

(水)に全国紙が首相の憲法改正のインタビューを掲載し、首相が国会で「詳しくは全国紙を読んでほしい」と発言し、メディアと政治の距離感に疑念を抱いた。ＮＨＫには、自主・自律を守るスタンスをきっちりと貫いてほしいと思う。

○　ＮＨＫを見ていて、よく「ＭＣ誰々」と出てくるが「司会者」ではだめなのかと感じることがある。

ＮＨＫ名古屋放送局
番組審議会事務局

平成２９年４月ＮＨＫ中部地方放送番組審議会

４月のＮＨＫ中部地方放送番組審議会は、２０日(木)、ＮＨＫ名古屋放送局において、９人の委員が出席して開かれた。

会議では、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、５月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	小澤　正俊	（大同特殊鋼（株）相談役）
副委員長	小寺　功子	（三重県漁協女性部連合会会長理事）
委　　員	井口　昭久	（愛知淑徳大学健康医療科学部教授）
	稲村　修	（魚津水族館館長）
	清川　卓二	（清川メッキ工業（株）専務取締役）
	徳田　八十吉	（徳田八十吉陶房代表）
	長谷川明子	（日本ビオトープ管理士会中部支部会長）
	東　　惠子	（東海大学海洋学部環境社会学科教授）
	真能　秀久	（中日新聞社取締役人事労務担当）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　３月１７日(金)静岡スペシャル「ここにサッカーを残したい　～中村俊輔３８歳の現在地～」(総合 後 7：32～7：57　静岡県域）を視聴した。これまで中村俊輔選手たちが築いてきた日本サッカーを語り合う中、中村選手に理想とするサッカーを貫いてほしいという名波浩監督の熱い思いを感じた。番組タイトルにあるが、中村選手も今のチームだったら自分のサッカーを残せるのではないかと感じ取ったと思う。また５０歳で現役の三浦知良選手という、今でもサッカーに貪欲な先輩がいることでパワーをもらっていると語っているシーンが印象的だった。先駆者の存在は大変大きいと思う。番組を見て、魅力的な生き方をされているサッカー選手たちに大変感激し、これから年を積み重ね、その分野を導いていく人たちが多く出てくることを期待した

い。

○　４月１７日(月)、１８日(火)に静岡県で大雨洪水警報が流れた際、静岡局ではＬ字スーパーを実施していた。見栄えよく、情報も見やすく、すばらしい対応だった。

○　４月４日(火)「ほっとイブニング」を視聴した。将棋の藤井聡太四段がデビュー戦以来１１連勝し、新記録を達成したことを伝えていた。藤井四段は久々に現われた地元の期待の星なので、今後も彼を取り上げていってほしい。豊橋市で信号機を敷設するため、地元で親しまれた桜を伐採するニュースがあった。伐採時に住民がお別れ会を開催し、桜の枝を各自持ち帰り育てるという内容で、春は別れの季節というが、地元の人の優しさが伝わるいい報道だった。岐阜大学附属病院内のコンビニで、病院長の顔を焼印した限定のどら焼きが完売したという話題を伝えていた。ニュースというほどでもない、ほのぼのした話題を夕食の準備をしながら家族そろってＮＨＫを見ている時に、日本人の原風景を思い起こした。

○　３月１０日(金)ナビゲーション「どこまで広がる？　再生可能エネルギー」を視聴した。再生可能エネルギーへの関心が高まる中、問題点を明確にしたよい内容だった。ドイツなどＥＵでは十数年前にすでに経験している内容のため、海外の事例・問題点があると、日本の進む方向性のヒントになると思う。一方で、再生可能エネルギーの目的が、地球温暖化を防ぐためか災害対策かという視点はやや分かりにくかった。再生可能エネルギーで未来がいい方向に進むのか、さまざまな角度から伝えていってほしい。

（ＮＨＫ側）

さまざまな意見がある場合は、できるだけ多角的に意見を取り上げるが、多角的にしすぎるとぼやけてしまうというところは、常に背中合わせだ。指摘を踏まえて、気をつけていきたい。

○　３月１７日(金)ナビゲーション「現代の“死”を見つめて　～遺品整理士が向き合う家族の断絶～」は、希薄になった家族の絆をテーマに、大変衝撃的

で、現在から未来への警告とも言えるよい内容だった。１世帯あたりの人数が全国で４番目に多い富山県でさえ、家族の絆が希薄になっていることに非常に衝撃を受けたので、各地どこでも起こりえることを強調したほうが、よりインパクトがあったのではないか。また、孤独死はこれから我々が生活する上で大事なテーマだと思う。孤独死の件数の多さなど、身近に感じていない世代に警鐘を鳴らすような内容があればもっと引き込まれたのではないか。また、波乱万丈な人生を送っている出演者を見つけたＮＨＫの取材力がすばらしい。人生を追い込む仕事から人生をつなげる仕事への転職を経験した出演者の視点が、家族の絆というテーマに深みを出していたと思う。また遺品整理を依頼した息子さんに遺品を渡したときのやりとりから、現代に生きる難しさを感じた。番組では家族の大切さをうたっていたが、家族に迷惑をかけないために生前整理を行い、安心して最期を迎えるという生き方が提唱されることに寂しさを覚えた。

○　３月１７日(金)ナビゲーション「現代の“死”を見つめて～遺品整理士が向き合う家族の断絶～」を視聴した。遺品整理士を通して見える孤独死、家族との関係性というテーマは、少子高齢化社会が進む中の大きな問題で、着眼点が良かった。問題提起をしながら、社会や個人に対し、家族関係や人の死に方について、思考を広げてくれた番組内容は秀逸だった。ぜひ全国向けにも放送してほしい。作品として、全体の構成がよく練られており、起承転結も明確で、スピード感もちょうど良い、印象に残るよい番組だった。次回作に大きな期待を持っている。

○　４月７日(金)ナビゲーション「東芝ショック　四日市工場売却の波紋」は、工場売却という一企業の問題ではなく、雇用、地域の問題、引いては日本の問題となっていることが非常に分かりやすく表現されていた。見ている人の視野を広げてくれる秀逸な構成だった。日本企業が工場に入札しない理由が明確に説明されていたが、短期的な利益を求める大手企業の現状などにも踏み込んだ説明がほしかった。

○　４月８日(土)「ウイークエンド中部」を視聴した。週末のこの時間に中部地方の情報をまとめて見られるのはありがたい。出演している梶原典明アナ

ウンサーと舘谷春香キャスターは以前、私の住む地域の県域放送にも出ていたので、親しみを持って見ている。

○　４月１４日(金)ナビゲーション「浅田真央　愛され続けた２１年の軌跡」を視聴した。ソチオリンピックのフリー演技直後に浅田さんと顔を合わせた時の印象はどうだったかという質問に対し、出演者の鈴木明子さんが「言葉はいらなくて村上佳菜子さんと３人で抱き合ってただただ涙でした」と答えたシーンが印象的だった。一方で、浅田選手の引退発表後、すぐに多くの番組がニュースで放送したり、ほかの放送局では２時間程度の特集を放送していた。放送尺の問題もあると思うが、引退発表の２日後に放送し、２１年の軌跡というにはやや物足りず、民放各局との差別化を図ってほしかった。

○　４月１６日(日)日曜Ｔｕｂｅ「ショートストーリーズ　＃９　まさくんの炭焼き―愛知・設楽町―＃１０　それでも、絵が描きたい。―名古屋―」は、出演者の鉛筆画家である宮崎光弘さんに興味があり視聴した。宮崎さんの絵に取り組む姿、発言を通して、納得した作品を生み出すということは、飽くなき追求を死ぬまでし続けるくらいの覚悟がいるのだと考えさせられた。他の回を視聴したときも感じたが、市井に暮らす人の中からこうした人物を見つけることができる取材力はすばらしい。

○　３月１６日(木)「華麗なるミュシャ　祖国への旅路　パリ・プラハ　二都物語」(総合 後 10：25～11：15)を視聴した。日本でミュシャと言えば、サラ・ベルナールを描いた華麗なポスターが有名だが、この度、彼の代表作「スラヴ叙事詩」が初来日した。国内展示に合わせた効果的な編成だった。ミュシャが「スラヴ叙事詩」を描いた時代の社会的背景や、作品の制作過程に触れながら、大作に込められたメッセージなどを伝える、大変見応えのある番組だった。作品は社会とその作家の価値観といった観点から表現されていると思う。番組を通して、みんなの生きる希望となるような「スラヴ叙事詩」を残したミュシャの大きさ、すばらしさに感動を覚えた。ミュシャの各作品を見て、デッサン力、描写力、リアリティを求め続けた作家の真実がそれらを表現させたのだということを、深く感じ取ることが出来た。女優の多部未華子さんがナビゲートしていたが、絵を自分の感性で読み解きながら、取材、解説し

てくれる、大変好感度の高いナビゲーターだった。

○　３月１６日(木)クローズアップ現代＋「“老人ホーム”が空いている」は題名にひかれて視聴した。老人ホームに空きがある理由として、施設の過剰供給、職員不足、患者や入所者が少ないことなどを手際よく説明していて、内容が理解しやすかった。国の政策は県や市区町村へと反映されていくが、高齢社会の政策と実際との矛盾は最終的には、市区町村の現場の役人に担わされていて、彼らの能力だけではとても解決できないところに来ている。そうした実態を踏まえた高齢社会への対応についてもＮＨＫの番組で取り上げてほしい。

○　３月１８日(土)小さな旅「聖火の夢　つなぐ～長野県　白馬村～」を視聴した。開催準備や開催後の事情について不安な情報が多い平昌オリンピックや、2020年の東京オリンピックを控える中で、タイミングのよい番組だった。オリンピック開催による外国人の移住やインバウンドの地域展開、さらに受け入れ側として宿泊施設での外国語対応が課題となっており、内容の着眼点がよかった。構成がよく考えられていたためか、やや出来すぎな感じもあったが、秀逸だったと思う。また、白馬村の自然の映像が大変美しく、カメラワークがとてもすばらしかった。

○　３月１８日(土)ヨーコさんの“言葉”　第４４話「たかがゴミ袋」を見た。以前から佐野洋子さんのエッセイのファンだったが、時々放送している「ヨーコさんの“言葉”」を見られた時は、思わずうれしくなる。文章と朗読する声、音楽が良い。全体が味わい深い番組で、５分の短い本編の中にヨーコさんの核心をつくような“言葉”を見つけると何か拾いものをしたような気持ちになる。

○　３月１８日(土)目撃！日本列島・選「開拓村～長野　もうひとつの戦後史～」は、自治体への情報公開請求やＮＨＫの独自調査によって、帰還後の開拓民に与えられた土地が貧しい土地ばかりであったことや、戦後の開拓事業として住民を苦しめた政策が３か月間で急ごしらえされた国策であったことなどが、衝撃の事実として明らかにされていた。元農林局長が回顧するシーンで、

政策に根拠はなく、最大の罪は国費をたくさんと使ったこと、という官僚の言葉や議事録に「(爆笑)」とあったのが印象的だった。国の政策が庶民にどのような影響を及ぼすかを伝え、今までに詳しい検証が行われていなかった歴史に迫るすばらしい番組だった。

○　３月１８日(土)「へんてこ生物アカデミー」(総合 後７：30～８：43)は、司会の林修さんと各出演者の掛け合いが非常に軽妙で、長尺の番組でも飽きずに見ることができた。成体同士は闘わず精子が闘うというフクロミツスイの生態の話の中で、林さんが「成体で闘わないようにするというのをまねていこうね」というコメントが、戦争が多い現代を示唆する発言で非常に秀逸だった。続編があれば、ボノボのような闘わずに平和解決して生きる生物を取り上げていただきたい。オーストラリアで絶滅したクアッカワラビーの話を見ていて、猫の野生化・放浪により日本の野生動物の多くが絶滅していくという話を思い出した。猫関連の番組で、猫の野生化問題についてテロップを入れるなど、社会問題について柔らかく啓もうしていくのもＮＨＫらしくていいのではないか。文学とのコラボレーションや「プロフェッショナル　仕事の流儀」をオマージュした「プロヘンナショナル」など随所に仕掛けのあるおもしろい番組だった。

○　３月１９日(日)ＮＨＫスペシャル「シリア　絶望の空の下で　閉ざされた街最後の病院」を視聴した。実際の遺体の映像などが衝撃的だった。シリアの内戦では、軍人だけでなく、戦闘に参加していない幼い子どもを含めた一般市民が犠牲になっていく状況や、先が見えない不安、故郷を捨て難い強い望郷の念が感じられた。番組の結びのコメントは秀逸で、番組制作・編集のレベルの高さを感じた。ＮＨＫならではの、大変よい番組だった。この番組を視聴して、平和な日本に住んでいる自分の幸せを再認識するとともに、シリアで苦しんでいる人々に対して自分は何ができるのかと考えさせられた。

○　３月２０日(月)１００年インタビュー　時は待ってくれない「アーティスト小田和正」（ＢＳﾌﾟﾚﾐｱﾑ　後 9:00～10:29）を視聴した。小田和正さんの、自分と同じ感覚を持った人とつながりたいという気持ちは、共感する部分があった。トークを通して、小田さんのこれまでを知るとともに、明るい気持

ちになることのできる番組だった。

○　３月２０日(月)１００年インタビュー「アーティスト　小田和正」は、今回の視聴期間で一番心に残る番組だ。自分の青春時代を彩った歌手の一人である小田和正さんの、７０歳を超えてなおパワフルな部分や、これまで知らなかったエピソードを見ることができたのは貴重な体験だった。また聞き手の阿部渉アナウンサーが、見ている側も共感できるテンポと聞き方で、小田さんファンなのかと思うほど寄り添った発言をしているところが、見ていて非常に心地よかった。「時は待ってくれない」というテーマでトークする中で、小田さんの「やりたい目標の人にとって時は待っていてくれる」という主旨の言葉が、見ている者にまるで応援歌のように伝わってきた。この発言を引き出せた阿部さんに感服する。非常によいインタビューだった。今後もアーティスティックな方を始め、第一線で活躍する人たちを取り上げて番組を制作してほしい。

○　３月２２日(水)放送記念日特集「今　テレビはどう見られているか」(総合後 10:00～10:50)は、ＮＨＫがこのテーマをどう放送するか気になっていた。民放のプロデューサーなど討論の人選がよかったほか、自分が好きで見ていたＮＨＫのドラマ制作者も出演していて、実際の制作者の顔を見ることができたことも感慨深かった。番組内に出てきた用語も興味深く、普段はＳＮＳなどネット内で活動するコンテンツハンターに現実で会い、意見を聞くシーンが印象的だった。一方、ディレクターとプロデューサーの違いなど、番組制作に携わるさまざまな職種の機能や役割について、番組内で説明があればより視聴者に番組の作られ方が理解され、放送記念日の番組として深まったのではないかと思う。

○　３月２３日(木)・２４日(金)特集ドラマ「絆～走れ奇跡の子馬～」を視聴した。松下雅之役の役所広司さんや松下佳世子役の田中裕子さんの落ち着いた演技が秀逸だった。ＢＧＭ・効果音などの音響効果、結末の読めないストーリーに引きこまれた。主人公の息子の命と引き換えに東日本大震災を生き残った馬が登場するが、残された家族がこの馬を“息子”と呼ぶなど、馬と家族のやりとりを通して絆ということを考えさせられた。大河ドラマ「真田

丸」では「ナレ死」という言葉がインターネット上で話題となっていたが、今回のドラマでは、主人公の息子の死を手だけで表現していたのが印象的で忘れられないシーンとなった。方言でセリフが聞き取れず、大事なシーンの意味が伝わらない箇所があった。方言を使う大切な場面では聞き取りやすくするか、スーパーなどで言葉の説明があると良いかもしれない。被災者がこのドラマを見てどう思ったか気になるが、自分はいい作品だと思う。

○　３月２３日(木)「阿修羅　１３００年の新事実」（総合　後 10:00～11:15）を視聴した。国宝の阿修羅像を通して当時の歴史を知ることが出来る番組だった。阿修羅像がなぜ三面像になったのかなど、以前から持っていた疑問が解消し、視聴後に改めてすばらしい仏像だと感じることが出来た。

○　３月２４日(金)・２５日(土)ＮＨＫニュース「おはよう日本」を視聴した。さまざまなニュースを放送していたが、同時間帯の民放は韓国・セウォル号の引き揚げ作業を放送している中で、ＮＨＫは放送していなかった。ＮＨＫは前日２３日夜の「ニュースウオッチ９」で放送しており、民放に先んじて伝えていたためだろうか。それ以外にも、イスラム女子の増加、文化庁の京都移転など、ＮＨＫ独自のニュースが多い印象を受けたため、ニュース項目をＮＨＫ内でどのように選んでいるのか気になった。

（ＮＨＫ側）

「おはよう日本」は各曜日ごとに編集責任者がいる。編集責任者が前日から朝にかけてのニュースを全て整理し、重要と思うものから順番に放送している。頂いた内容は、ご意見として受け止めたい

○　編集責任者の選択に対するチェック機能はないのか。

（ＮＨＫ側）

編集責任者は、さまざまな経験を積んだ者が選ばれている。オーダーについてはほぼ一任されている。

○　民放ではネットのアクセスランキングなど、社外のものから項目を選んでいる時がある。ＮＨＫでも編集責任者の判断とは別に、参考となるような指標があるのか。

（ＮＨＫ側）

「おはよう日本」では、編集責任者が他局も全部チェックしながら、そのつど判断している。

○　緊急性や重要性などの判断は各局あると思う。公共放送としての価値判断を誤らないように引き続き頑張ってほしい。

○　３月２７日(月)ノーナレ「諦めない男　棋士　加藤一二三」(総合 後 10:00～10:25)を視聴した。将棋の棋士、加藤九段は１４歳でプロになり、ストーブ事件、あと何分事件、うなぎ事件など数々の逸話を残している。日本将棋連盟のＣ級２組の下から３番目という状況にある彼の不屈の精神や愛きょうのある人柄を、ナレーションを入れず丁寧に追いかけていく番組の作り方は大変面白かった。

○　ノーナレ「諦めない男　棋士　加藤一二三」を見たが、バラエティーに出ている加藤さんの印象が強く、興味深く拝見した。番組を見て、棋士でも、タレントでも、家族の中でもまったく変わらない人なのだと分かった。そしてどんなときでも変わらないことが彼の魅力だと感じた。活躍の影に、良き家族、良き奥様がいるのが印象的だった。奥様から加藤さんを尊敬していることが分かる言葉が次から次へと出てくる夫婦関係がすばらしく、感動した。加藤一二三という棋士を支えていたのは家庭だと感じた。ナレーションがなく、加藤さんの言葉や他の出演者の言葉のみで番組が進んだことで、より彼の素の部分を知ることができたように感じた。また、手にクローズアップし、番組の展開に活用していた演出もおもしろかった。

○　３月２７日(月)整理整頓コメディー　わたしのウチには、なんにもない。「第１回「捨て変態参上！」（ＢＳﾌﾟﾚﾐｱﾑ　前 10:00～10:30）の再放送を見た。コメディー色が強いが、遺品を片づける意味など、随所に感動や考えさ

せられるシーンもあり、整理整頓された生活をしたいと思わせる内容だった。箸休めではないが、どうしたら物が片づけられますかというアニメを使ったショートコーナーが入っていることで、子どもでも見やすい作りになっている。地上波での放送を期待したい。

○　３月２８日(火)うたコン「あなたへ贈る　卒業・旅立ち　名曲集」を視聴した。司会の谷原章介さんの落ち着いた声はとても心地よかった。「卒業・旅立ち」をテーマに新旧バラエティーに富んでいた。一部、テーマと関係ない歌があった。普段この歌を聞いていない人に聞いてほしいなどの理由があるとは思うが、統一感があったほうが、より視聴者の心に届くのではないか。司会の掛け合いでも「はい、はい」という相手の発言を受け流すような場面があった。台本があるのだろうが、番組の流れを受けて自然な掛け合いや見ていて楽しくなるようなフォローを期待したい。

○　３月３０日(木)趣味どきっ！中村獅童の　いざ歌舞伎へ　第８回「獅童の“夢”」を視聴した。中村獅童さんのプロ意識や哲学、指導者としての人間力に迫った番組だった。これからの人生をどう生きるかと、若い人たちに指針を示してくれる秀作だと評価したい。どんな世界でもそうだが、立派な先輩の存在は人生に必要なこと、人間は孤独では生きていけないこと、人とのコミュニケーションは非常に重要といった点で、若い視聴者に向けて、大変価値のある人生録を示した番組だった。

○　連続テレビ小説「べっぴんさん」は半年間ずっと見ていた。スローペースで物語が進んでいたが最後の１週だけ、ものすごく慌ただしく進んだことに違和感を覚えた。家族ともすっきりしない展開だと話し合った。次回の連続テレビ小説に期待したい。

○　４月２日(日)日曜討論「超高齢社会　どうする私たちの介護」を視聴した。2000 年に施行された介護保険制度が現状どうなっているか、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年問題に代表される超高齢社会にどう対処していくか、国民も強く関心を持っている。福祉医療現場からの生の声を通して、現場の苦労が推察された。被介護者がよりよい人生を送るためにはどうすれば

いいかなど、現場の声に感動し、苦しい中でも意欲をもって取り組む姿に勇気をいただいた。一方で、問題の提起はあったが、現場のモチベーションが上がる方策や、有効な海外事例を紹介するような、解決に向けた議論をもう少し深めてほしかった。ＮＨＫの制作者は、専門家の意見を出すだけではなく、独自に現状の問題を分析、評価、把握していたので、よく調べていると思った。

○　４月２日(日)から始まった韓国ドラマ「オクニョ　運命の女（ひと)」を第３回まで視聴した。主人公が自身の出生の秘密を知り、母の死の謎を解くため、多彩な才能を生かしながら強大な権力に立ち向かうストーリーにひかれた。過去にＮＨＫで放送した「イ・サン」のような韓国ドラマに好感をもった方は、本作品も楽しめると思う。

○　４月３日(月)趣味どきっ！体の中からキレイになる！美筋ボディーメソッド「目指すは理想のボディーライン！」（１）を視聴した。トレーナーがストレッチやエクササイズの手本を示す際に、どこの筋肉を動かせばいいかを模型を使って説明したり、目で見ただけでは分かりづらい呼吸のタイミングを文字で画面に表示する演出があるなど、理解しやすかった。出演者も久本雅美さん、バービーさん、梨衣名さんと、親近感の持てる身近なタレントなので楽しく見られた。

○　４月５日(水) ガッテン！「新生活に！時短に！“缶詰”おいしさ使いこなしＳＰ」は、古い缶詰ほど味が良いという話や、９年目の缶詰を最近はやりの「開封の儀」などと大げさに演出した点など、大変おもしろかった。

○　４月６日(木)「人名探究バラエティー　日本人のおなまえっ！」を視聴した。６日の「さいとう」では、「さいとう」の「さい」の漢字が８５もあること、その理由が戸籍制度の始まった明治初期に、書き間違いや書き癖のある字で届け出されたものがそのまま戸籍として登録されているためという名字研究家の森岡浩さんの話が勉強になった。また「さいとう」の始まりについて、伊勢神宮を守る天皇の娘の斎王様に仕える役職のトップ斎宮頭の藤原さんが、役職の「斎」と姓の藤原の「藤」を取って「斎藤」になったとい

う説明があったが、地元にある伊勢神宮と関係していたことで、より興味深く見ることができた。

○　４月７日(金)あさイチ「プレミアムトーク　浅丘ルリ子」を視聴した。生い立ちから恋愛哲学までさまざまな話を聞かせてもらったが、同性として非常に感心させられた。３月３日(金)の小池百合子さんの回の時も感じたが、他の番組では聞くことのできない出演者の本音が引き出されていた。

○　あさイチ「プレミアムトーク」は今後はどのように放送していくのか。

（ＮＨＫ側）

「あさイチ」は番組立ち上げ時から、現役世代、特に３０代、４０代の女性をターゲットにしており、そうした女性たちの間でしか交わされないような率直な言葉や思いを包み隠さず、視聴者の皆さんに届けることで、今までなかったような番組のおもしろさや共感を狙ってきたと聞いている。今後もそういう試みや姿勢は大切にして、３０代、４０代の女性の心に響くような番組を作っていくことについては変わらないと思われる。

○　４月８日(土)「週刊　ニュース深読み」を視聴した。外国人労働者の受け入れ方について、専門家と一般の方が合同で討論するということで、関心を持って視聴した。議論を可視化するグラフィックレコーダーを新たに取り入れたが、司会者自身が取りまとめながら進行するほうが、司会者はやりやすい気がする。漫画などで表現していたが、雑然とした印象を受けたので、キーワードを中心に線・図などで関連性を可視化していく手法の方がいいのではないか。番組としては軸がぶれない、核心を突いた議論をしており、司会者の実力を感じた。外国人介護士の運用の話を通して、外国人と日本人、外国人と日本文化の関係性などについて、非常に深い議論がなされていた。良質な番組だったので、より見てもらえる時間に編成してもらいたい。

○　４月９日（日）こころの時代～宗教・人生～「“小さき人々”の声を求めて」は今月視聴した番組で一番すばらしかった。２月１９日(日)にＢＳ１で

放送した「ＢＳ１スペシャル　ノーベル文学賞作家　アレクシエービッチの旅路」をもとに、徐京植氏が聞き手となって再構成された番組だったが、今回の構成も非常に秀逸な番組だった。アレクシエービッチさんの日本語吹き替えをした渡辺美佐子さん、ナレーションの三宅民夫アナウンサーのトーンが非常に落ち着いていて、見る人の心に伝わったと思う。アレクシエービッチさんのようなすばらしい人たちが世界には数多く存在しており、そうした方々の考えや哲学を知ることができる番組を今後も制作してほしい。公共放送であるＮＨＫの役割の一つだと思うので、期待している。

（ＮＨＫ側）

以前ＢＳ１で放送した番組も、今回Ｅテレで放送した番組も、ともに名古屋局制作の番組で、アレクシエービッチさんがノーベル文学賞を受賞する前から継続的に取材していたものを番組化したものだ。

○　４月１２日(水) ガッテン！「緑内障！こんなタイプは要注意だ」は医学関係の内容であり、興味深く視聴した。眼科の医者に聞いたところ、番組と同様のことを言っていた。今後も正確でためになる情報を発信してほしい。

○　４月１２日(水)クローズアップ現代＋「若者もシニアも破産急増！？銀行カードローン」では、銀行が貸してくれるならまだ大丈夫という安心感から債務が増加し、破産してしまう人たちを取り上げていた。最近、銀行系カードローンの広告をよく見るが、広告によって利用者数が増加し、結果として自己破産する人が増えている部分もあると思う。公共放送であるＮＨＫだからできる内容だった。

○　４月１３日(木)「人名探究バラエティー　日本人のおなまえっ！」を視聴した。前回の「さいとう」に比べ、「山田」は全体的に印象が薄かった。「日本人のあだ名旅」というおもしろいあだ名を探すコーナーは、出てきたあだ名も含めてインパクトが足りなかった。「山田」が書類の記入例にどの程度使われているか、全国の市区町村へ大規模な電話調査を行っていたが、実際には１％にも満たない自治体でしか使われておらず、労力と時間が無駄だっ

たようにも感じ、なぜ「山田」を選んだのか疑問に感じた。一方、多くの名字は、住んでいた場所の地形に由来しているという話は興味深かった。出演者を例に説明していたが、出演者全員が地形を由来とした名字だったため、名字の多くが地形由来なのではなく、そういう出演者を選んだのではないかと感じた。今後も引き続き、楽しく中味のある番組にしてほしいと思う。

○　４月１３日(木)「人名探究バラエティー　日本人のおなまえっ！」を視聴した。「山田」に平凡なイメージがついたのは、1965 年に流行した歌謡曲「新聞少年」を歌った山田太郎さんが理由であると説明していたが、山田太郎さんのデビュー時を知る自分としては、当時、既に平凡な名前を意識した芸名だと思っていたため、なぜ山田太郎という芸名を付けたのかを本人にまで確認してほしかった。そこまで確認すれば、「山田」が平凡な理由がもっと深まったと思う。

○　４月１５日(土) アニメ　アトム　ザ・ビギニング「鉄腕起動」(総合 後 11:00～11：27)を視聴した。子どものころ原案の「鉄腕アトム」を月刊誌でずっと読んでいた。そのころの記憶を思い返したが、「鉄腕アトム」に日本中の子どもたちが夢中になった要因の一つは、スーパーロボットとして空を飛ぶなど、いろいろな能力がある中で、ヒト型のロボットに感情があるのが目新しかったことだと思う。また「未来」の話であること。当時は「未来」という言葉自体が、明るいメッセージ性をもっており「未来」を描けばすべて明るいイメージがする時代だった。今の時代は、人工知能が現実のものとなり、原子力が平和利用以外にも使われ、当時の「未来」に対する明るいイメージと同じとは言えない時代状況の中、この「アトム・ザ・ビギニング」で「鉄腕アトム」をどう描いていくのか気になった。

○　４月１５日(土)ＮＨＫスペシャル　廃炉への道２０１７「核燃料デブリ見えてきた“壁”」を視聴した。３月にも核燃料を調査する報道を見ていたが、番組を通して、溶けた核燃料“デブリ”の危険性や廃炉の困難さを知り、福島だけの問題ではなく、今生きている私たちどころか、次の世代にも引き継いでいかなければならない問題であることを改めて考えさせられた。

○　４月１６日(日)「日曜美術館」を視聴した。番組内で、宮本亜門さんがミュシャの絵を見て、後ろ姿が語っていると話していたが、視聴期間にあったナビゲーション「浅田真央　愛され続けた２１年の軌跡」や１００年インタビュー「アーティスト　小田和正」など、後ろ姿がポイントになっていた別の番組を思い出し、番組の共通性を感じながら視聴していた。

○　４月１７日(月)ＮＨＫニュース「おはよう日本」内の「けさのクローズアップ」のコーナーで富山市議会議員選挙の結果を伝えていた。政務活動費問題で辞任し、無所属で出馬して結果的には落選した候補者を取り上げていた。候補者が議員辞職後の厳しさを語っていた一方で、その候補者の支援者は水害で壊れた橋の復旧に尽力していたことへの感謝を述べていた部分を対比し、政治家の本来あるべき姿を伝えていたと思う。不正や選挙結果だけではなく、政治家がどうあるべきかということも、この機会に番組を通して視聴者に伝えてほしい。それ以外にも、不登校の子供が通うフリースクールの生徒数が増加している問題など、ＮＨＫでしか取り上げていない社会問題が数多くあった。公共放送として社会の問題を取り上げていく視点・姿勢は非常によく、高く評価している。

○　４月１９日(水)クローズアップ現代＋「坂本龍一　分断された世界で」では、番組を通して、これまで数々の功績をあげた坂本さんが、今後どんな音楽を作っていくのか期待したくなる内容だった。

○　ＮＨＫニュース「おはよう日本」を視聴した。新年度は午前６時、７時の時報に効果音と音声が付いた。朝、テレビをつけながら支度をする中で、耳からの情報があることは大変効果的で、軽やかなメロディーが朝から心地よさを与えてくれる。

○　連続テレビ小説「ひよっこ」を視聴した。桑田佳祐さんが歌う主題歌は爽やかで、朝の気分を高めてくれる。オープニングで流れるタイトル映像はかわいいミニチュアが昭和の活気を物語っていて、とても気に入っている。出演者たちの演技もすばらしく、特に主人公の祖父を演じる古谷一行さんの体からにじみ出るような演技力や、ナレーションの増田明美さんの声質に魅了

された。ドラマも、昭和の雰囲気がたっぷり出ていて、テンポがよく、先の読めないストーリー展開を今後も楽しみにしている。

○　連続テレビ小説「ひよっこ」は自分の青春時代と一致した番組で、当時の農家の雰囲気がよく出ている。自然に囲まれた田舎の暮らしに漂う今後への不安を大変上手に描き、時代が高度経済成長に向かう中で、繁栄の予感とそこから取り残されてしまう不安が垣間（かいま）見えることで視聴者をひきつけている。毎日の視聴を楽しみにしている。

○　連続テレビ小説「ひよっこ」を視聴した。オープニングのタイトルバックで流れるミニチュアのアニメーションのメイキングを番組化してほしい。また主役の有村架純さんが学生など若い人たちに人気のようで、これまで「連続テレビ小説」をあまり見ていなかった人も見ていると聞いた。今後も期待したい。

（ＮＨＫ側）

連続テレビ小説「ひよっこ」のタイトルバックだが、ミニチュアを作成したのは、ミニチュアアーティストの田中達也さん。もともとサラリーマンだったが、毎日自分でミニチュアの作品を制作し、インターネットに投稿していたところ、人気が出た。ミニチュアを動かしているのはＣＧのクリエイターの森江康太さん。見た目はＣＧに見えないが、最新のソフトを使ってアニメーション化しており、この２人のコラボレーションで制作している。

○　朝の連続テレビ小説「ひよっこ」を見ている。主題歌が桑田佳祐さんの歌で驚いた。朝からすがすがしい気持ちになるこの歌で一日を始められることがうれしい。ほのぼのとした美しい家族愛ではじまり、今後この家族がどうなるのか展開が楽しみだ。子役は起用せず、ヒロインが高校生から演じている点も特徴だと思う。脇役も豪華キャストで固めていて、見応えがある。前回の「べっぴんさん」は、最後の一週間は回想シーンが多く、番組を見ていても次の日どうなるかというワクワク感がなかった。最後まで演出、ストー

リーには工夫を重ねてほしい。

○　自分で視聴したうえ、各委員の意見も伺ったが、「ひよっこ」は評判がいい。今後の展開を楽しみにしている。

○　「ごごナマ」を視聴した。自ら井戸端会議と称するような番組をどういう人が見るのだろうかと思った。出演者が思いつくままに話している番組を、３時間も見続けるのはつらいと感じた。ある新聞に「のんきすぎる？ごごナマ」と題するコラムが載っていた。この番組だけをずっと見ていると、社会から隔絶されてしまうのではないかという不安や存在感の薄い阿部渉アナウンサーを嘆く記事だったが、自分も同じように感じた

○　「ＮＨＫニュース７」を見た。４月から、これまで「ニュースウオッチ９」を担当していた鈴木奈穂子アナウンサーに交代していた。「ニュースウオッチ９」のときは、男性キャスターとの掛け合いがぎこちなかったが、「ＮＨＫニュース７」では違和感なく見ることができる。また「ニュースウオッチ９」に替わった桑子真帆アナウンサーは、晴れた空のような明るさと安らぎを感じるニュースの伝え方があり、両番組のキャスター起用は成功していると思った。

○　「ニュースウオッチ９」を視聴した。昨年度までリアリティや正確さなど、クールなイメージを感じていた番組だが、新キャスターの有馬嘉男さんの解説に対し、桑子真帆さんが相づちを打つなど、二人のやりとりにとても温かさを感じ、また分かりやすさも加わった。アットホームな雰囲気の新セットと合わせ、これまでより番組に親近感を持っている。

○　４月からＮＨＫ各局、各番組で番組セットなどが更新されていた。富山局のニュースセットはシンプルだが、和を意識していてセンスが良い。余計なものを省いた画面は非常に見やすい。一方、全国放送のいくつかの番組では、文字スーパーのサイズやフォント、色使いなどが不ぞろいで見づらいことがある。

（ＮＨＫ側）

予算を有効に使うため、一度更新した場合、数年間は同じセットを使っている。その時々でトレンドがあり、年月がたつと古く見えることもあるため、予算の許す範囲で、部分的な改修を行う場合もある。スーパーについては権利上使用できる字体を増やしており、番組に合わせた色使いも多様化しているが、ご意見があったことは担当者とも共有していく。

○　最近、アナウンサーのファッションに注目している。定時番組の場合、毎日のコーディネートを見る中で、同じ系統の色が多かったり、デザインが最近の流行であったりするなど、印象に残ることが増えている。アナウンサーに適した格好をするのはよいが、２人並んでいるときに同じコーディネートをしているのを見ると、もう少し個性を出してもよいと感じた。

○　「にほんごであそぼ」を見ると、この時間帯には時刻が表示されていない。Ｅテレの朝の時刻表示は、総合テレビと違い、７時からとなっているが、もう少し早い時間帯から継続して時刻表示をしてほしい。

ＮＨＫ名古屋放送局
番組審議会事務局